



取扱説明書

よくお読みになってご使用ください。
取扱説明書は車の中に保管しましょう。

COASTER



イラスト目次

イラストから検索

1 安全・安心のために

お客様に**必ずお読み**いただきたいこと

2 メーターの見方

メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など

3 各部の操作

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など

4 運転

運転に必要な操作やアドバイス

5 オーディオ

オーディオの使い方など

6 室内装備・機能

室内装備の使い方など

7 お手入れのしかた

車のお手入れ・メンテナンスの方法

8 万一の場合には

故障したときや、緊急時などの対処

9 車両情報

車の仕様など

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	14
検索のしかた	15
イラスト目次	16

1 安全・安心のために

1-1. 安全に お使いいただくために	
運転する前に	30
安全なドライブのために	32
シートベルト	34
SRS エアバッグ	38
お子さまの安全のために	45
排気ガスに対する注意	46
1-2. 盗難防止装置	
エンジンイモビライザー システム	47

2 メーターの見方

2. 計器の見方	
警告灯／表示灯	50
計器類	54
マルチインフォメーション ディスプレイ	58

3 各部の操作

3-1. キー	
キー	66
3-2. ドアの開閉、 ロックのしかた	
フロントドア	68
センタードア (グライド式ドア)	70
センタードア (折戸式ドア)	82
トランク	89
観音扉ドア	93
3-3. シートの調整	
運転席	98
助手席／リヤシート	99
ヘッドレスト	101
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	103
インナーミラー	105
アウターミラー	107
補助ミラー	111
3-5. スライド式サイドガラスの 開閉	
スライド式サイドガラス	113

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	116
荷物を積むときの注意	126

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション） スイッチ	128
オートマチックトランス ミッション	131
方向指示レバー	134
パーキングブレーキ	135
排出ガス浄化装置	136

4-3. ランプのつけ方・ ワイパーの使い方

ランプスイッチ	141
AHB（オートマチック ハイビーム）	145
フォグランプスイッチ	149
ワイパー & ウォッシャー （フロント）	151
ワイパー&ウォッシャー （リヤ）	153

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	155
---------------	-----

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense	159
PCS（プリクラッシュ セーフティ）	167
LDA（レーンディパーチャー アラート）	178
発進遅れ告知機能	183
クリアランスソナー	185
運転を補助する装置	194

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	200
--------------	-----

5 オーディオ

5-1. ラジオの使い方

アンテナ	206
------------	-----

5-2. マイク／マイクアンプの 使い方

マイク／マイクアンプの 使い方	207
--------------------------	-----

5-3. 後席ディスプレイの 使い方

後席ディスプレイの 使い方	208
------------------------	-----

6 室内装備・機能

6-1. エアコン・デフォグガーの使い方

フロントヒーター	214
クーラー	220
リヤヒーター	223
オートエアコン	225
パワーヒーター	233
アイドルアップ	234

6-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	235
・フロントパーソナル ランプ	236
・ルームランプ	236

6-3. 収納装備の使い方

収納装備一覧	237
・カップホルダー	238
・ボトルホルダー	239
・小物入れ	240
・カードホルダー	241
ラゲージルーム内の装備	242

6-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	244
・サンバイザー／ お客様表示板	244
・アクセサリースOCKET	244
・充電用 USB 端子	245
・時計	246
・床洗い用水抜き穴	247
・アームレスト	247
・冷蔵庫	248
・カーテン	250
・運転席ガード	251
・セパレーターパイプ	251
・セパレーターカーテン	252
・アシストグリップ	254
タコグラフ	255

7 お手入れのしかた

7-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	262
内装の手入れ	265

7-2. 簡単な点検・部品交換

エンジン点検口	268
AdBlue®（尿素水）の 補充	271
ウォッシュ液の補充	278
タイヤについて	280
タイヤ空気圧について	283
エアコンフィルターの 清掃	285
ヒューズの点検・交換	287
電球（バルブ）の交換	291
燃料・水分離器の排水	306

8 万Oneの場合には

8-1. まず初めに

故障したときは	308
非常点滅灯 (ハザードランプ)	309
発炎筒	310
消火器	312
車両を緊急停止するには	314
水没・冠水したときは	316
車中泊が必要なときは	317
幼児車では	318

8-2. 緊急時の対処法

けん引について	320
警告灯がついたときは	325
警告メッセージが 表示されたときは	329
パンクしたときは	334
エンジンがかからない ときは	350
バッテリーがあがった ときは	351
オーバーヒートした ときは	354
スタックしたときは	357
電動格納式補助ステップが 格納できなくなった ときは	359
ドライバー異常時対応 システム	360

9 車両情報

9-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ (指定燃料・ オイル量など)	374
--------------------------------------	-----

9-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能 一覧	383
--------------------------	-----

9-3. フリー／

オープンソフトウェア

フリー／オープン ソフトウェア情報	387
----------------------------	-----

さくいん

こんなときは (症状別さくいん)	390
車から音が鳴ったときは (音さくいん)	392
アルファベット順さくいん	393
五十音順さくいん	394

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

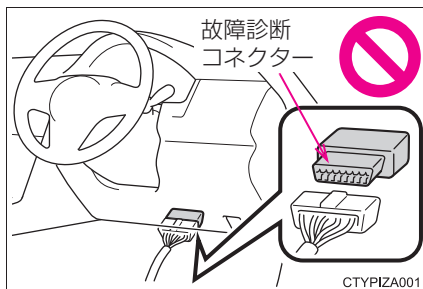
イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
また、このような改造は Toyota Safety Sense のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
RF 送信機の取り付けについては、P. 11 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、運転席のドアガラスおよび助手席のサイドガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装着されています。

■ コンピュータに記録されるデータ ※¹

※¹ グレード／オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- 車両の挙動に関する基本的なデータ（エンジン回転数・アクセルペダルの操作状況・ブレーキペダルの操作状況、車速など）
- 運転支援システムの作動状況（システムの作動に付随して記録される車両の挙動に関する基本的なデータも含まれます）
- 運転支援システムのセンサーのデータ
- 画像データ（前方・後方・周辺カメラの画像）※²

※² 車両には複数のカメラがついています。どのカメラが画像を記録しているかはトヨタ販売店にお問い合わせください。

● 位置情報

コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

また、お客様個人を特定できる種類のデータ（氏名・性別・年齢など）は車両に記録されません。

■ Toyota Safety Sense によるデータの記録・個人情報の取り扱いについて

トヨタ自動車は Toyota SafetySense により車両に記録された各システムの作動状況・各センサーのデータ・画像データ（前方・後方カメラの画像）・位置情報を次の場合に該当するときに限り、お客様が販売店に入庫されたときに取得するほか、トヨタ自動車のサーバーに送信する形で取得します。

- 一定の衝突や衝突に近い状態などが発生した場合
- 渋滞や悪路、悪天候などの特定の交通環境にある道路を走行している場合
- 新規開通道路、拡張された道路などの特定の道路を走行している場合
- エンジン始動後の一定のタイミング

Toyota Safety Sense によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータの取り扱いについての詳細は、T-Connect ご契約時にご署名いただいた留意事項説明をご覧ください。

■ データの利用目的と第三者提供について

車両に記録されたデータは、事故解析・故障診断、自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術・商品開発、品質向上など）、データを利用した商品・サービス（自動運転・先進安全技術用の地図の提供、走行状況の分析・道路インフラなど走行環境の分析・交通状況の配信などがあります。以下、これらを「個別サービス」といいます）および事故に関するお客様対応、事故の解決のための協議を目的に利用することがあります。

なお、次の場合に、トヨタ自動車は、取得したデータを第三者へ開示または提供することがあります。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察／裁判所／政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- トヨタ自動車が訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

Toyota Safety Sense によって記録され、トヨタ自動車が取得したデータについては、上記に加え、次の場合に第三者に提供することがあります。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合。トヨタ以外の第三者が提供する車両記録データを利用する個別サービスに申し込みされた場合などであって、第三者がトヨタに代わり、トヨタから第三者へのデータの提供についてお客様の同意を取得した場合も含まれます。
- 自動運転・先進安全・地図関連技術のための研究開発（技術／商品開発／品質向上など）の目的で、自動運転ソフトウェア関連の会社などの第三者に提供する場合
- 地図関連技術のための研究開発の目的で、地図作成会社などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- 道路整備などの目的で、地方自治体などの第三者に画像データと位置情報を提供する場合
- 交通状況配信などの個別サービスの申込者に対して、画像データと位置情報を加工した情報を提供する場合
- トヨタと別途契約を締結した各自治体の消防組織に対して、火災発生時または救急出動時に、現場付近の画像データを提供する場合

知識

車両に記録されている画像データおよびそれに付随する一部のデータは、トヨタ販売店にて、消去することが可能です。

また、画像データを記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

サイバー攻撃のリスクについて

電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。

トヨタ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してトヨタは保証いたしません。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDRは、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。

EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせ使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EFI コンピュータ
- Toyota Safety Sense
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

アクセサリパーツ・用品について

下記サイトより取扱説明書（デジタル配信）をご確認いただけます。

ご購入いただきましたアクセサリパーツの取扱説明書をご使用前にお読みいただき、記載された内容に従って正しくお使いください。

商品の使用方法や安全にお使いいただく上での注意点を記載しております。

なお、デジタル配信により印刷や輸送にともなう CO₂ 排出量の低減が見込まれます。

持続可能な社会を構築するためにトヨタはこれからも取扱説明書のあり方を見直してまいります。

アクセサリパーツ取扱説明書掲載サイト：

お持ちのスマートフォンやタブレット、携帯電話等にて QR コードを読み取りいただくか、URL より閲覧してください。

URL:<https://manual-accessories.toyota/CAWeb/index.html>



QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

なお、紙面で必要な場合はサイトより印刷いただくか、トヨタ販売店にご相談ください。

本書の見方



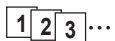
警告

お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



注意

お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。



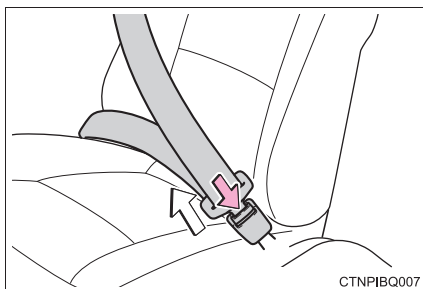
1 2 3... 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。



押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。



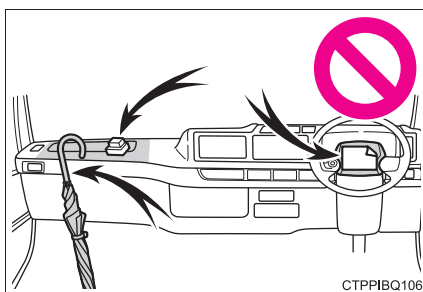
フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



説明の対象となるもの・場所を示しています。



“してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。



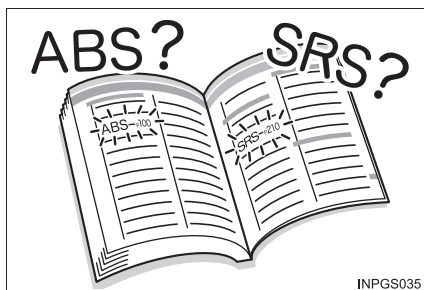
知識

機能や操作方法の説明以外で知っていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

■ 名称から探す

- ・ 五十音順さくいん394
- ・ アルファベット順
さくいん393



■ 取り付け位置から探す

- ・ イラスト目次 16



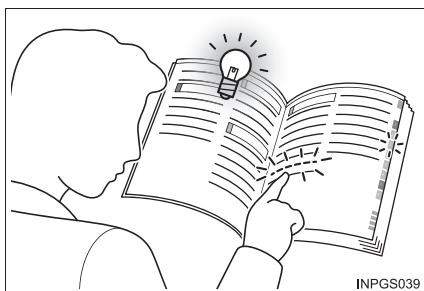
■ 症状や音から探す

- ・ こんなときは
(症状別さくいん)390
- ・ 車から音が鳴ったときは
(音さくいん)392



■ タイトルから探す

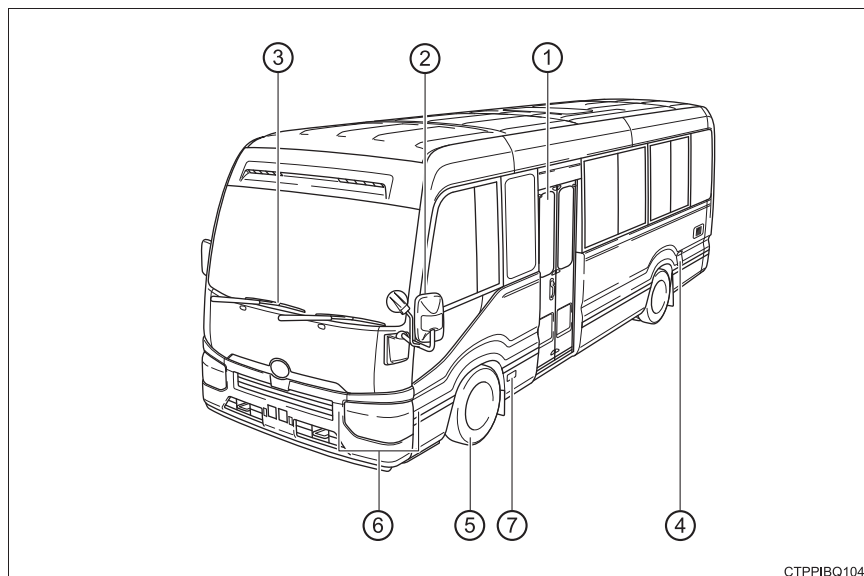
- ・ 目次2



イラスト目次

■ 外観

▶ フロント



CTPPIBQ104

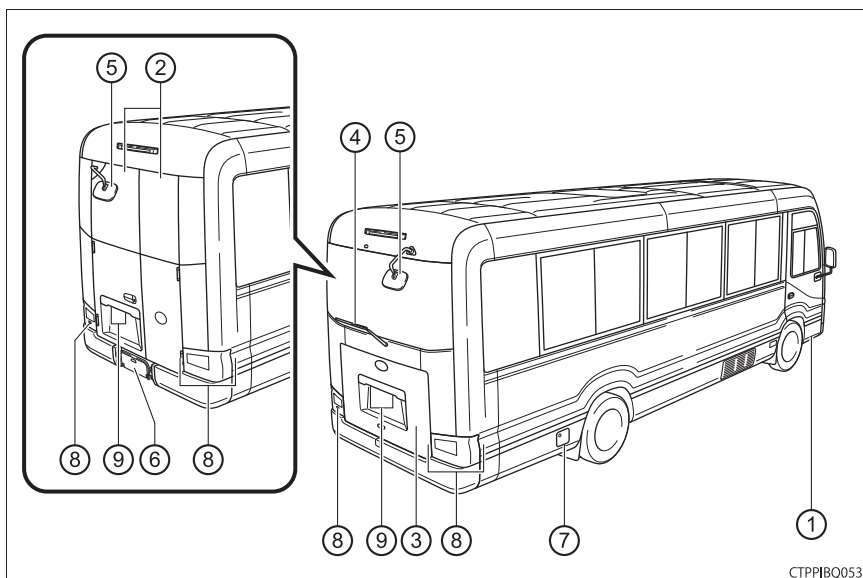
- ① センタードア（グライド式ドア／折戸式ドア）..... P. 70, 82
 - 施錠／解錠 P. 70, 82
 - 車外から開ける P. 72, 83
 - 警告灯 P. 325
- ② アウターミラー P. 107
 - 鏡面の角度調整 P. 107
 - ミラーの格納 P. 109
 - 曇りを取る（ミラーヒーター）★ P. 216, 227
- ③ フロントワイパー P. 151
 - 冬季の注意 P. 200
- ④ 給油口 P. 155
 - 給油方法 P. 155
 - 燃料の種類・燃料タンク容量 P. 374

- ⑤ **タイヤ**.....P. 280
 - サイズ・空気圧.....P. 380
 - 冬用タイヤ・タイヤチェーン.....P. 200
 - 点検・ローテーション.....P. 280
 - パンク時の対処.....P. 334

走行に関わる外装のランプバルブ
(交換要領：P. 291, ワット数：P. 381)

- ⑥ **ヘッドランプ／車幅灯／フロント方向指示灯／**
フロントフォグランプ.....P. 134, 141, 149
- ⑦ **サイド方向指示灯**.....P. 134

▶ リヤ



CTPPIBQ053

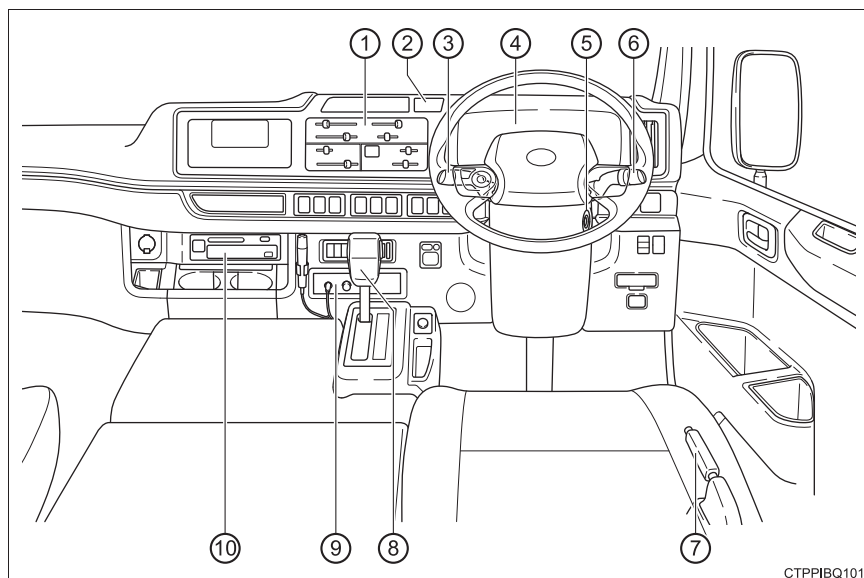
- ① フロントドアP. 68
 施錠／解錠P. 68
 ドアガラスの開閉P. 113
 キーでの施錠／解錠P. 68
 警告灯P. 325
- ② 観音扉ドア★P. 93
 車外から開けるP. 94
- ③ トランク★P. 89
 車外から開けるP. 89
- ④ リヤワイパーP. 153
 冬季の注意P. 200

- ⑤ 補助ミラー★.....P. 111
- ⑥ 折りたたみ式バックステップ★P. 95
- ⑦ AdBlue[®] 補給口.....P. 273
 補充方法.....P. 273

走行に関わる外装のランプバルブ
(交換要領：P. 291, ワット数：P. 381)

- ⑧ 制動灯／尾灯／リヤ方向指示灯／
 リヤフォグランプ★.....P. 134, 141, 150
 後退灯
 シフトポジションを R にするP. 131
- ⑨ 番号灯.....P. 141

■インストルメントパネル

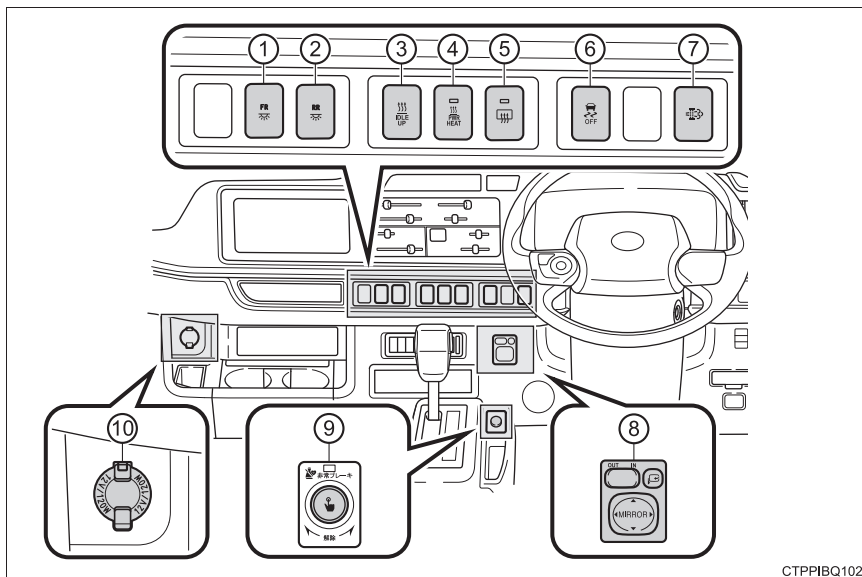


CTPPIBQ101

- ① マニュアルエアコン（フロントヒーター／クーラー／リヤヒーター）★P. 214, 220, 223
 操作方法.....P. 214, 220, 223
 オートエアコン★P. 225
 操作方法.....P. 225
 アイドルアップスイッチP. 234
 パワーヒータースイッチP. 233
- ② 非常点滅灯スイッチP. 309
- ③ ワイパー&ウォッシャースイッチP. 151
 使い方.....P. 151
 ウォッシャー液の補充.....P. 278

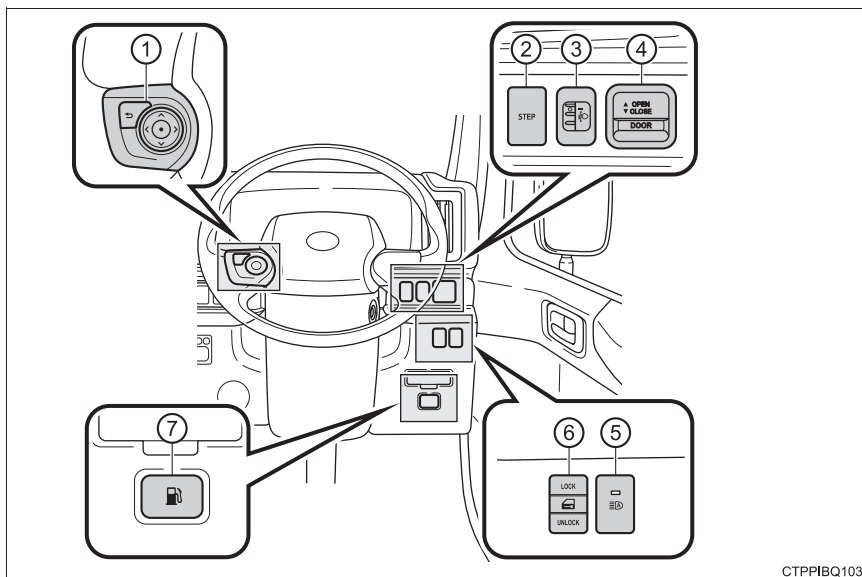
④	メーター	P. 54
	見方・明るさの調整	P. 54, 57
	警告灯／表示灯	P. 50
	警告灯点灯時の対処	P. 325
	マルチインフォメーションディスプレイ	P. 58
	警告メッセージ表示時の対処	P. 329
⑤	エンジンスイッチ	P. 128
	エンジンの始動・位置の切りかえ	P. 128
	エンジンの緊急停止	P. 314
	エンジンが始動できないときの対処	P. 350
⑥	方向指示レバー	P. 134
	ランプスイッチ	P. 141
	ヘッドランプ・車幅灯・尾灯	P. 141
	フロントフォグランプ／リヤフォグランプ★	P. 149
⑦	パーキングブレーキ	P. 135
	かける・解除する	P. 135
	冬季の注意	P. 201
	警告ブザー	P. 325
⑧	シフトレバー	P. 131
	シフトポジションの切りかえ	P. 131
	けん引時の注意	P. 320
	シフトレバーが動かないときの対処	P. 133
⑨	マイクアンプ★	P. 207
⑩	タコグラフ★	P. 255

■スイッチ類



CTPPIBQ102

- ① フロントルームランプスイッチP. 236
- ② リヤルームランプスイッチP. 236
- ③ アイドルアップスイッチ★P. 234
- ④ パワーヒータースイッチ★P. 233
換気扇スイッチ★P. 228
- ⑤ リヤウインドウデフォグガースイッチ★P. 216, 227
- ⑥ VSC OFF スイッチP. 195
- ⑦ 排出ガス浄化装置スイッチP. 136
- ⑧ ドアミラースイッチ★P. 107
インナーミラースイッチ★P. 105
- ⑨ ドライバー異常時対応システム運転者席スイッチP. 360
- ⑩ アクセサリーソケットP. 244

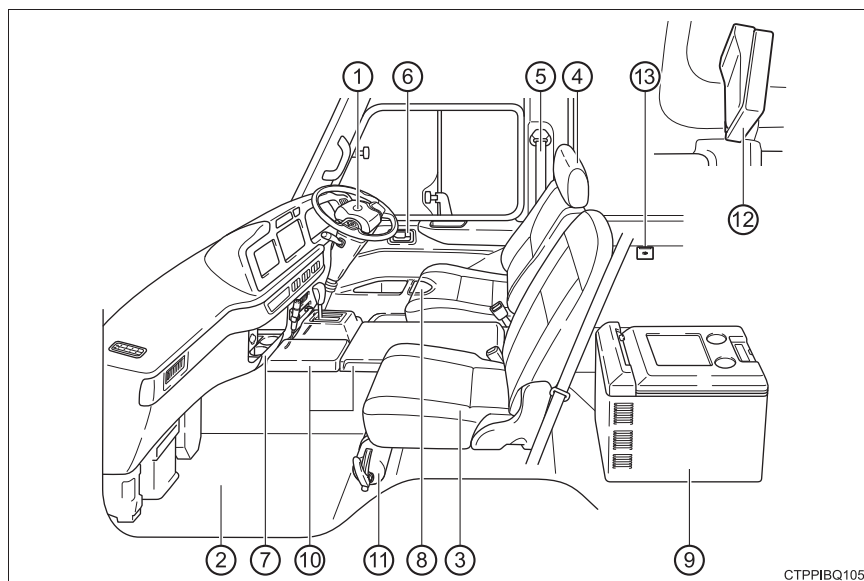


CTPPIBQ103

- ① メーター操作スイッチ.....P. 58
- ② 電動格納式補助ステップスイッチ★.....P. 80
- ③ 手動光軸調整ダイヤル.....P. 143
- ④ オートドア操作スイッチ★.....P. 73, 83
- ⑤ オートマチックハイビームスイッチ.....P. 145
- ⑥ ドアロックスイッチ★.....P. 68
- ⑦ 給油扉オープナー.....P. 156

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

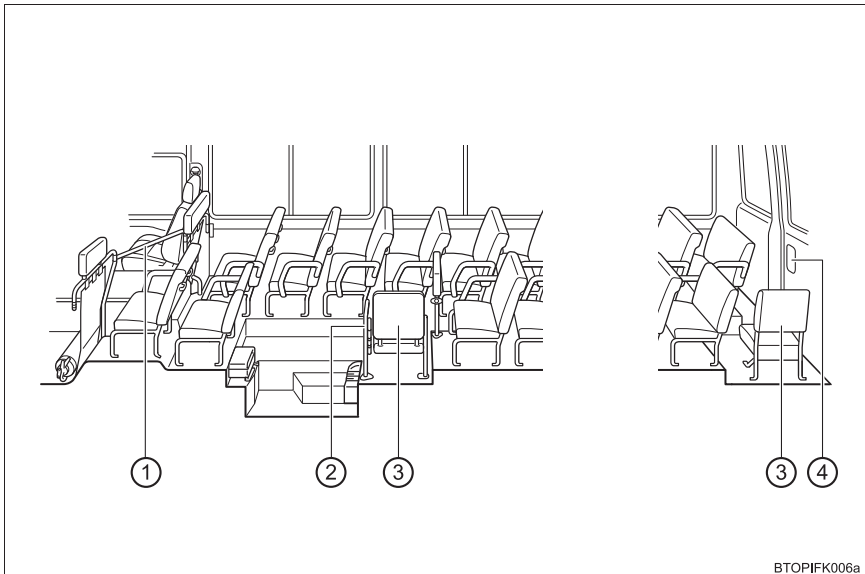
■ 室内



CTPPIBQ105

- ① SRS エアバッグ P. 38
- ② フロアマット P. 30
- ③ シート P. 98
- ④ ヘッドレスト★ P. 101
- ⑤ シートベルト P. 34
- ⑥ ロックレバー P. 68
- ⑦ カップホルダー P. 238
- ⑧ ボトルホルダー P. 239
- ⑨ 冷蔵庫★ P. 248
- ⑩ エンジン点検口 P. 268
 エンジンオイル P. 374
- ⑪ 消火器★ P. 312
- ⑫ 後席ディスプレイ★ P. 208
- ⑬ 充電用 USB 端子 P. 245

▶ 幼児車

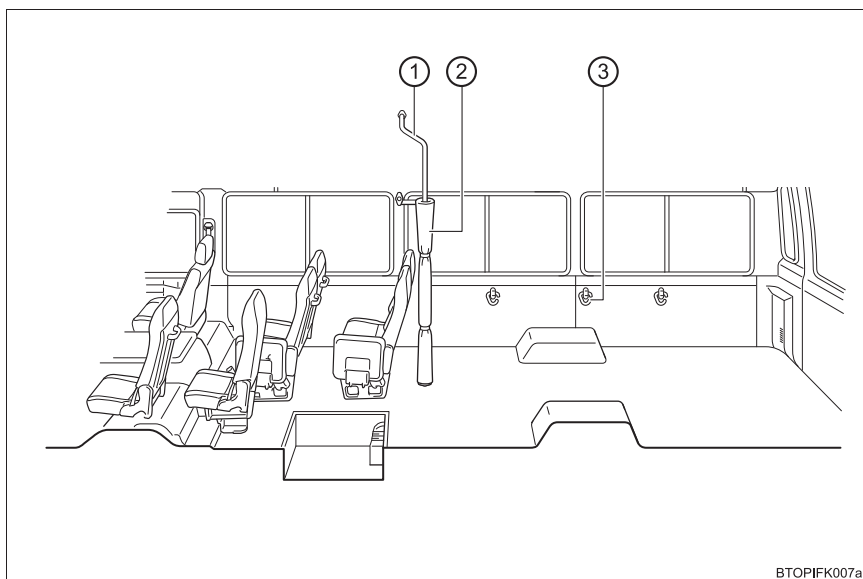


BTOPIFK006a

- | | |
|-----------------|--------|
| ① 運転席ガード | P. 251 |
| ② 赤旗 | P. 319 |
| ③ 保護者用シート | P. 100 |
| ④ 非常ドア | P. 318 |

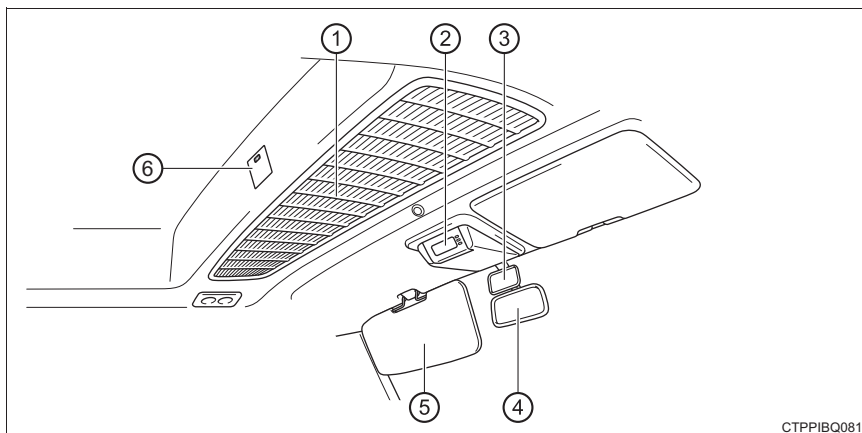
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ バン



BTOPIFK007a

- ① セパレーターバーP. 251
- ② セパレーターカーテン★P. 252
- ③ ロープフックP. 242



CTPPIBQ081

- ① エアフィルター★P. 285
- ② 時計P. 246
- ③ 2 段インナーミラー★P. 111
- ④ インナーミラーP. 105
- ⑤ サンバイザー ※ / お客様表示板★P. 244
- ⑥ ドライバー異常時対応システム同乗者向けスイッチP. 360

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※：チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→ P. 43)



安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全に

お使いいただくために

運転する前に.....	30
安全なドライブのために	32
シートベルト.....	34
SRS エアバッグ.....	38
お子さまの安全のために	45
排気ガスに対する注意	46

1-2. 盗難防止装置

エンジンイモビライザー システム.....	47
--------------------------	----

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

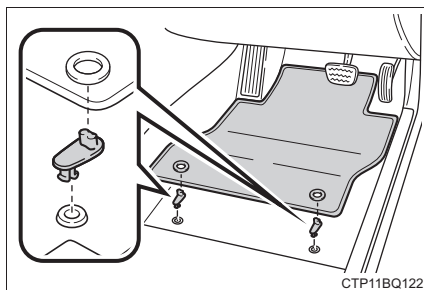
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマット

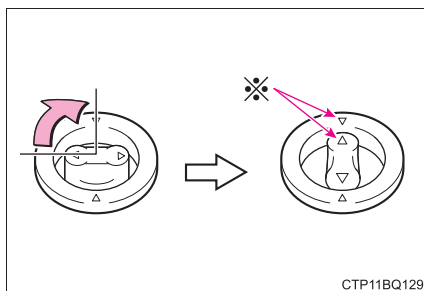
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

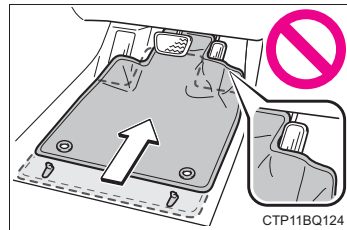
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

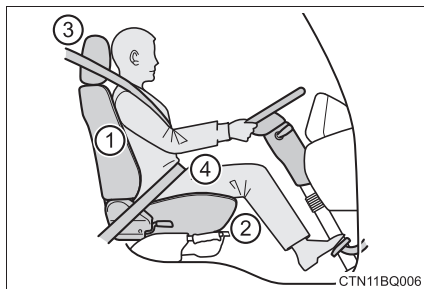


安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

- ① まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 98）
- ② ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 98）
- ③ ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→ P. 101）
- ④ シートベルトを正しく着用する（→ P. 34）



シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 34）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・アウターミラーを正しく調整してください。（→ P. 105, 107）

 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。（シートアンダートレイ内を除く）
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

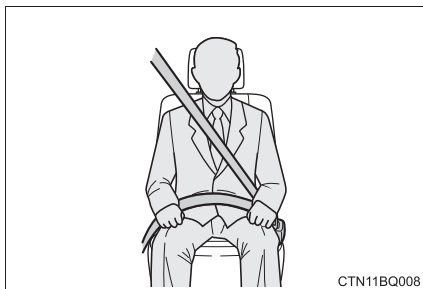
シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

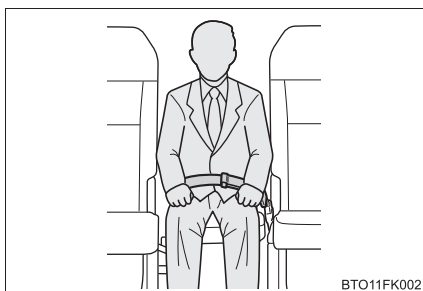
◆ 3点式シートベルト

- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれない
ようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨の
できるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起
こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



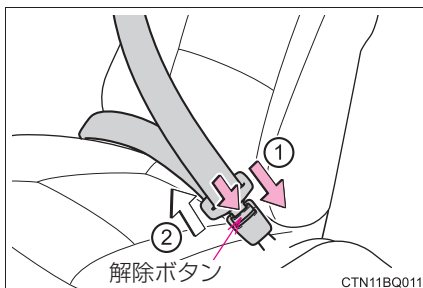
◆ 2点式シートベルト

- 腰部ベルトを必ず腰骨の
できるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起
こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする



着け方・はずし方

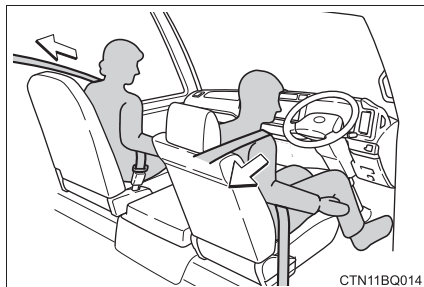
- ① ベルトを固定するには、“カチッ”
と音がするまでプレートバック
ルに挿し込む
- ② ベルトを解除するには、解除ボタ
ンを押す



シートベルトプリテンショナー（運転席・助手席★）

前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを巻きもどし、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。（→P. 34）

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

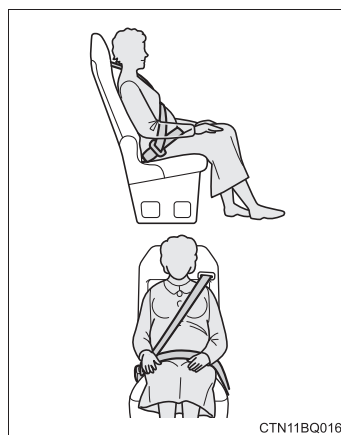
- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤシートに座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 34)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



CTN11BQ016

 警告**■ 疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまを乗せるとき

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

誤ってそのようになってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■ プリテンショナー付シートベルトについて（運転席・助手席★）

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

■ シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときは、シートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

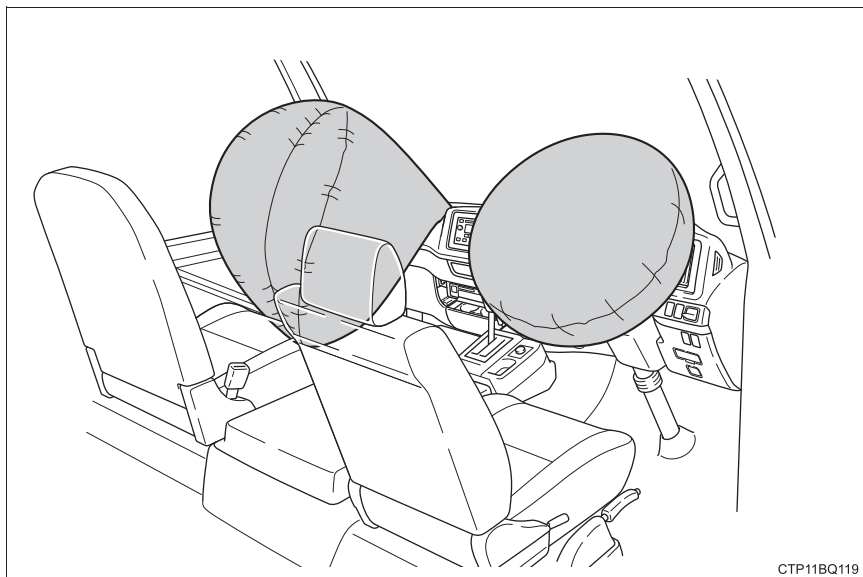
■ チャイルドシートの取り付けについて

すべてのシートに、シートベルトでチャイルドシートを取り付けることはできません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



CTP11BQ119

◆ フロント SRS エアバッグ

運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ★
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識**■ SRS エアバッグが作動すると**

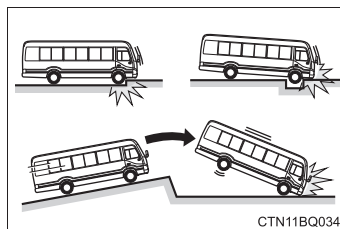
- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- エアバッグ周辺の部品の一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- 非常点滅灯が自動で点滅します。（→ P. 309）

■ 正面からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

- 次のエアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
 - ・ フロント SRS エアバッグ
- 次の場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
 - ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
 - ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によっては次の部品のみが作動する場合があります。
 - ・ シートベルトプリテンショナー

■ 車両下部からの衝撃で SRS エアバッグが作動するとき

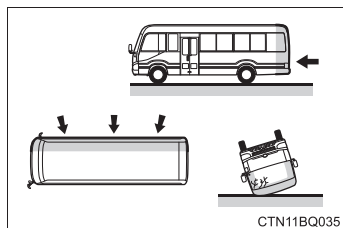
- 次の SRS エアバッグは、車両下部が固いものにぶつかったときなどの状況で作動する場合があります。
 - ・ フロント SRS エアバッグ



■ SRS エアバッグが作動しないとき

- 次の SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、作動することがあります。

・ フロント SRS エアバッグ



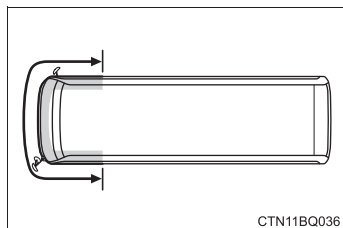
■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

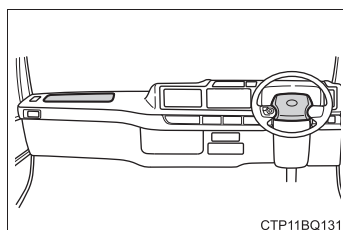
- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

- 次のエアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

・ フロント SRS エアバッグ



- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席SRSエアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

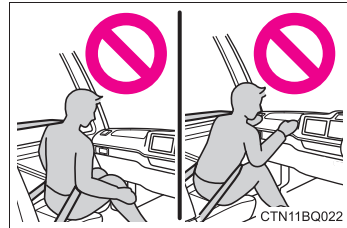


警告**■ SRS エアバッグについて**

次のことを必ずお守りください。

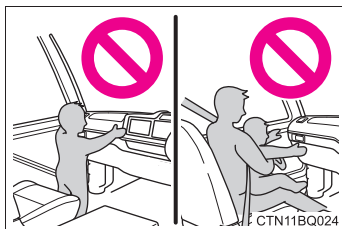
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。
- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

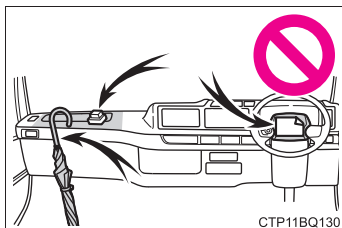


警告**■SRS エアバッグについて**

- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分などには何も取り付けたり、置いたりしない



- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。
皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されている部分に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

警告

■ SRS エアバッグについて



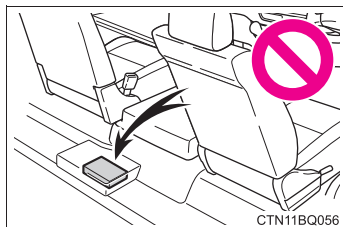
CTP11BQ121

- チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 助手席側のサンバイザー、または天井に同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

■ SRS エアバッグコンピューターについて

エンジン点検口後方の SRS エアバッグコンピューターカバーの下に SRS エアバッグのコンピューターが装着されています。必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグコンピューターカバーを蹴ったり、強い衝撃を与えたりしない
- SRS エアバッグコンピューターカバーや周辺部に液体をかけない
- SRS エアバッグコンピューターカバーを取りはずそうとしない
- SRS エアバッグコンピューターカバーにひび割れ、欠けなど破損があるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

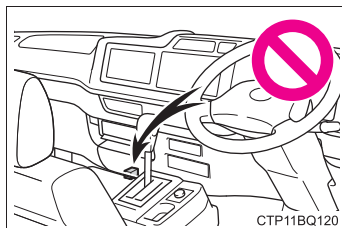


CTN11BQ056

警告**■ SRS エアバッグセンサーについて**

インストルメントパネルの奥、カップホルダー近くに SRS エアバッグのセンサーが装着されています。必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグセンサーに強い衝撃を与えたりしない
- 周辺部に液体をかけない

**■ 改造・廃棄について**

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- 次の部品周辺の修理・取りはずし・改造
 - ・ ハンドル
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
- 次の部品やその周辺の修理・改造
 - ・ フロントフェンダー
 - ・ フロントバンパー
- 次の部品、または装置の取り付け
 - ・ グリルガード
 - ・ 除雪装置
 - ・ ウインチ
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 小さなお子さまには、センタードア・トランク★・観音扉ドア★やシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

⚠ 警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

トランク★または観音扉ドア★を閉じてください。

トランク★または観音扉ドア★が閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、スライド式サイドガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。
(P. 136 も併せて参照してください)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エンジンモビライザーシステム

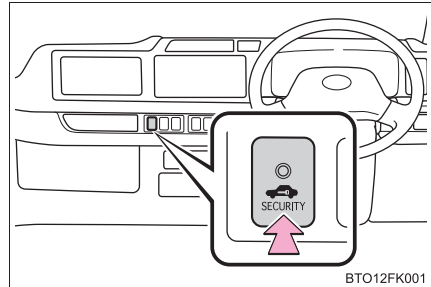
キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

キーをエンジンスイッチから抜くと、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーをエンジンスイッチに挿し込むとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。



知識

■ メンテナンスについて

エンジンモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

⚠ 注意

■ エンジンモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。
システムが正常に作動しないおそれがあります。

メーターの見方

2

2. 計器の見方	
警告灯／表示灯.....	50
計器類.....	54
マルチインフォメーション ディスプレイ.....	58

警告灯／表示灯

メーターの警告灯・表示灯でお車の状況をお知らせします。



CTP20BQ113

警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→ P. 325)

※ 	ブレーキ警告灯／ バキューム警告灯 (→ P. 325)		AdBlue® 品質異常警告灯 (→ P. 326)
※ 	エンジン警告灯 (→ P. 325)		AdBlue® 噴射異常警告灯 (→ P. 326)
※ 	SRS エアバッグ／ プリテンショナー警告灯 (→ P. 325)		運転席シートベルト 非着用警告灯 (→ P. 326)
※ 	ABS 警告灯 (→ P. 325)	※ 	スリップ表示灯 (→ P. 326)
	センタードア開放警告灯 (→ P. 325)		LDA 表示灯 (→ P. 327) (黄色)
	非常ドア開放警告灯★ (→ P. 326)	※ 	PCS 警告灯 (→ P. 326) (点滅 または 点灯)
	パーキングブレーキ未解除 警告灯 (→ P. 325)	※ 	クリアランスソナー OFF 表 示灯 (→ P. 327)
	燃料残量警告灯 (→ P. 326)	※ 	運転支援情報表示灯 (→ P. 327)
	AdBlue® 残量警告灯 (→ P. 326) (黄色)		

※ 作動確認のためにエンジンスイッチを “ ON ” にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯
(→ P. 134)



(白色)

LDA 表示灯 (→ P. 182)



尾灯表示灯 (→ P. 141)



(黄色
点滅)

LDA 表示灯 (→ P. 182)



ハイビーム表示灯
(→ P. 142)



(黄色)

LDA OFF 表示灯
(→ P. 182)



オートマチックハイビーム
表示灯 (→ P. 145)



(黄色)

PCS 警告灯 (→ P. 167)



フロントフォグランプ
表示灯 (→ P. 149)



(黄色)

クリアランスソナー OFF 表
示灯 (→ P. 327)



リヤフォグランプ表示灯★
(→ P. 150)



(黄色)

クリアランスソナー検知表
示灯★ (→ P. 185)



予熱表示灯★ (→ P. 128)



(黄色)

電動格納補助ステップ
表示灯★ (→ P. 80)



VSC OFF 表示灯
(→ P. 196)



(黄色)

オートドア作動切りかえ表
示灯★ (→ P. 73, 84)



スリップ表示灯
(→ P. 195)



(黄色)

低温表示灯 (→ P. 56)



(緑色)

LDA 表示灯 (→ P. 178)



(黄色)

制動灯表示灯
(→ P. 53)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- ※¹ 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後に消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。
- ※² システムがOFFのときに点灯します。

知識

■ クリアランスソナー OFF 表示灯について

クリアランスソナー検知表示灯がある車両(→ P. 185)は、クリアランスソナー機能のON / OFFの状態に関わらずシフトポジションをRにすると消灯します。

■ 制動灯表示灯について

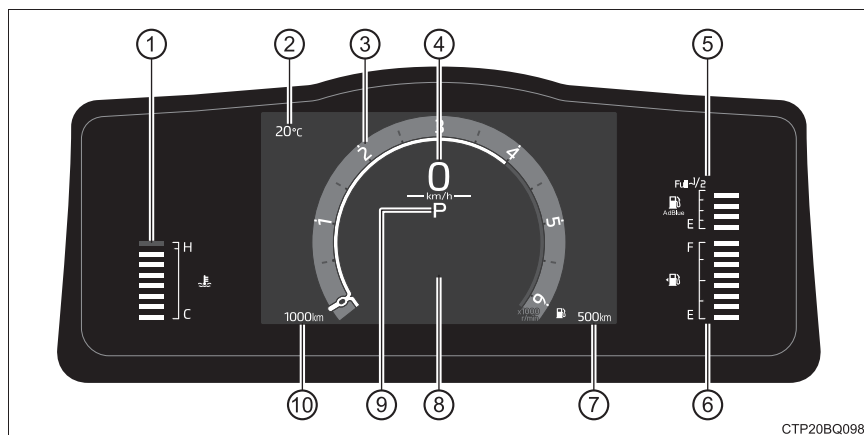
ブレーキペダルの操作や運転支援システムの作動により、制動灯が点灯したときに点灯します。

警告

■ 安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABSやSRSエアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンスイッチを“ON”にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

計器類



CTP20BQ098

① 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

② 外気温

外気温度を -40°C ～ 60°C のあいだで表示します。

③ タコメーター／アナログスピードメーター

マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ画面で、表示を変更できます。

タコメーター：

毎分のエンジン回転数を示します。

アナログスピードメーター：

車両の走行速度を示します。

④ デジタルスピードメーター

車両の走行速度を示します。

⑤ AdBlue[®] 残量計

AdBlue[®] 残量を示します。次の場合、実際の残量が正しく表示されないことがあります。

- ・ 少量補給（約 8L 以下）を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

⑥ 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- ・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

⑦ 航続可能距離

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を表示します。（→ P. 55）

⑧ マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。（→ P. 58）

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→ P. 329）

⑨ シフトポジション表示

選択されているシフトポジションを表示します。

⑩ オドメーター

走行した総距離を表示します。

知識

■ メーター・ディスプレイの作動条件

エンジンスイッチが“ON” のとき

■ 航続可能距離について

- 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費が変わるため、実際に走行できる距離とは異なります。
- 燃料給油量が少量（約 5L 以下）のとき、表示が更新されないことがあります。この場合、燃料計の表示と共に更新することができます。（→ P. 56）
- “給油してください” と表示されたときは、燃料残量が少ないため、航続可能距離の計算ができません。その場合は、すみやかに給油してください。

■燃料計と航続可能距離について

燃料計と航続可能距離は連動しています。少量給油後に燃料計と航続可能距離の表示が更新されない場合、次の操作を行うことで表示を更新することができます。

- 1 車両を平坦な場所に停車させる
- 2 エンジンスイッチを “LOCK” にする
- 3 メーター操作スイッチの  を押したまま、エンジンスイッチを “ON” にする
- 4 そのまま約 5 秒間  を押し続け、オドメーターが点滅を開始したら手をはなす
オドメーターが約 5 秒間点滅したあと、通常の表示にもどれば、更新は終了です。

■外気温度表示について

- 外気温度が約 3℃ 以下のときは、外気温度表示の横に  が点滅し、そのあと点灯します。
- 次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
 - ・ 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
 - ・ 外気温度が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）
- “-” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

→ P. 59

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの  で、計器類の表示を変更できます。
(→ P. 384)

⚠ 警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフトレンジ表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにギヤ段の表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ エンジンや構成部品への損傷を防ぐために**

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の目盛りが H のレッドゾーンに入り警告ブザーが鳴ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→ P. 354）

メーターの照度を調整するには

- 1 メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押して、 を選択する
- 2 メーター操作スイッチの **◀** または **▶** を押して、 を選択する
- 3 メーター操作スイッチの **◀** または **▶** を押して、メーターの照度を選択する

 知識**■ メーターの照度について（昼照度と夜照度）**

メーターの照度には昼照度と夜照度があり、次のときに切りかわります。

- 昼照度：周囲が明るいときに車幅灯が点灯しているとき、または車幅灯が消灯しているとき
- 夜照度：周囲が暗いときに車幅灯が点灯しているとき

マルチインフォメーションディスプレイ

ディスプレイの表示／メニューアイコン一覧

■ ディスプレイの表示

① 走行支援システム表示エリア

以外のメニューアイコンを選択している時に次のシステムが作動していると、システムの作動状況を表示します。

- ・ LDA (レーンディパーチャーアラート)

② コンテンツ表示エリア

メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスを割り込み表示します。



■ メニューアイコン

メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押すとメニューアイコンが表示されます。



走行情報表示 (→ P. 60)



運転支援機能情報表示 (→ P. 60)



車両情報表示 (→ P. 61)



設定 (→ P. 61)



警告メッセージ (→ P. 329)

 知識

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

 警告

■ 運転中の使用について

- マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。
- マルチインフォメーションディスプレイを見続けしないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

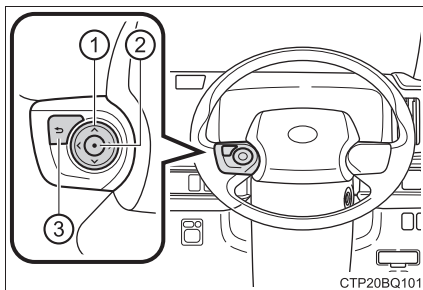
■ 低温時の画面表示について

→ P. 56

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。

- ① **< / >** : 表示項目の切り換え・ページ送り・カーソル移動
▲ / ▼ : メニューの切り換え
- ② 短押し : 決定
 長押し : リセット / 詳細項目表示
- ③ ひとつ前の画面にもどる



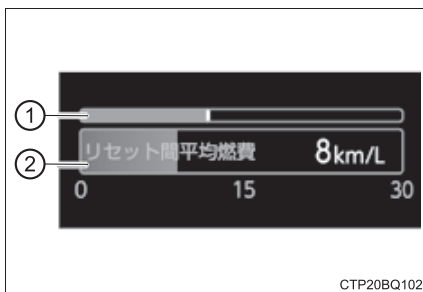
走行情報表示について

■ 燃費グラフ

表示される数値は参考として利用してください。

- ① 瞬間燃費
 現在の瞬間燃費を表示します。
- ② 平均燃費
 始動後・リセット後・給油後のうち、いずれかの平均燃費を表示します。^{※1, 2, 3}

 画面の“燃費グラフ”で選択した燃費が表示されます。
 (→ P. 62)



※¹ 表示される燃費は参考として利用してください。

※² 始動後平均燃費は、エンジンを始動するたびに、表示がリセットされます。

※³ リセット後平均燃費の表示中に  を押し続けると、リセットされます。

運転支援機能情報表示について

■ 走行支援システム連携表示

次のシステムの作動状況を表示します。

- LDA (レーンディパーチャーアラート) (→ P. 178)

車両情報表示について

■ ドライブインフォメーション

「ドライブインフォ項目選択」の設定で選択した項目（平均車速・走行距離・走行時間）を上下に2つ、表示させることができます。

表示される情報は、参考としてご利用ください。

- ・ 平均車速：エンジン始動後の平均車速を表示 ※
- ・ 走行距離：エンジン始動後の走行距離を表示 ※
- ・ 走行時間：エンジン始動後の経過時間を表示 ※
- ※ エンジンを始動するたびに、表示がリセットされます。

■ トリップインフォメーション

「TRIP A 項目選択」「TRIP B 項目選択」の設定で選択した項目（平均車速・走行距離・走行時間）を上下に2つ、表示させることができます。

表示される情報は、参考としてご利用ください。

- ・ 平均車速：リセット後の平均車速を表示 ※
- ・ 走行距離：リセット後の走行距離を表示 ※
- ・ 走行時間：リセット後の経過時間を表示 ※
- ※  を押し続けると、表示がリセットされます。

設定について

■ 設定変更のしかた

- 1 メーター操作スイッチの  または  を押して、 を選択する
- 2 メーター操作スイッチの  または  を押して、設定を変更したい項目の位置にカーソルを移動する

機能の ON / OFF やブザー音量などを設定する項目では、 を押すたびに機能の ON / OFF、または調整値が切りかわります。

機能の作動内容を変更できる項目では、 を押し続けることで、設定画面を表示できます。設定画面が表示されたら、メーター操作スイッチを操作して、いずれかの設定を選択、または時間などを希望の値に設定します。

- 3 設定が完了したら、メーター操作スイッチの  を押す

■ 変更できる項目（メーター表示）

● 言語

表示される言語を選択することができます。

● 単位

燃費単位を選択することができます。

● メーターデザイン

メーター表示のデザインを選択することができます。

● アナログメーター切りかえ

メーターの表示を、タコメーター／スピードメーターから選択することができます。



・ 燃費グラフ

平均燃費の表示を始動後／リセット間／給油後から選択することができます。
(→ P. 60)



・ ドライブインフォタイプ

始動後／リセット後から選択することができます。

・ ドライブインフォ項目

1 行目と 2 行目の項目を別々に、平均車速／走行距離／走行時間から選択することができます。

● マルチインフォメーションディスプレイの消灯

マルチインフォメーションディスプレイの表示をオフにすることができます。

再度表示させるには **▲** / **▼** / **◀** / **▶** / **⊙** / **☞** のいずれかのスイッチを押してください。

● 初期化

メーターの表示設定をもとにもどすことができます。

■ 変更できる項目（機能の切りかえ・車両設定）

→ P. 384

 知識

■ 設定画面の操作について

- 一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。
- 警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。
- 車両に装着されていない機能の設定項目は表示されません。
- 設定変更の対象となる機能が OFF になっているときは、関連する設定項目も選択不可になります。

 警告

■ ディスプレイの設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行う場合、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素 (CO) により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ ディスプレイの設定を変更するとき

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

警告メッセージ表示画面について

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。(→ P. 329)

各部の操作

3

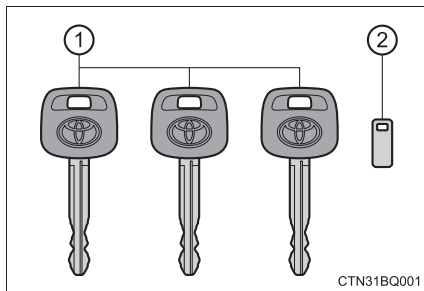
3-1. キー	
キー	66
3-2. ドアの開閉、 ロックのしかた	
フロントドア	68
センタードア (グライド式ドア)	70
センタードア (折戸式ドア)	82
トランク	89
観音扉ドア	93
3-3. シートの調整	
運転席	98
助手席/リヤシート	99
ヘッドレスト	101
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	103
インナーミラー	105
アウターミラー	107
補助ミラー	111
3-5. スライド式サイドガラスの 開閉	
スライド式サイドガラス	113

キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

- ① キー
- ② キーナンバープレート



 知識

■ キーの構成について

車の仕様により、ここで説明している内容とキーの枚数・組み合わせが異なる場合があります。

■ キーを紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

 注意

■ キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- めらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

フロントドア

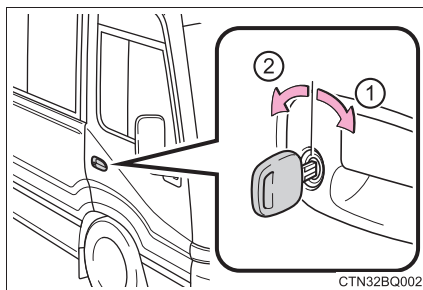
車外からの施錠・解錠

◆ キー

- ① ドアを施錠する
- ② ドアを解錠する

次のドアが装着されている場合は、キーを操作すると、連動して施錠・解錠することができます。

- ・ グライド式ドア（ワンマンバス仕様車をのぞく）
- ・ 観音扉ドア



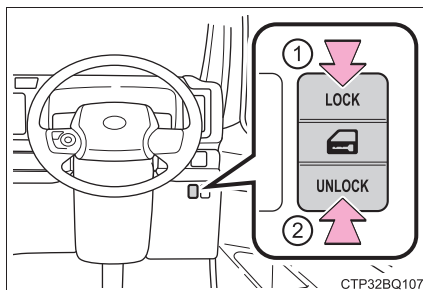
車内からの施錠・解錠

◆ ドアロックスイッチ★

- ① ドアを施錠する
- ② ドアを解錠する

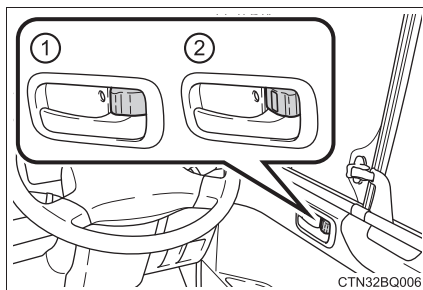
次のドアが装着されている場合は、スイッチを操作すると、連動して施錠・解錠することができます。

- ・ グライド式ドア
- ・ 観音扉ドア



◆ ロックレバー

- ① ドアを施錠する
- ② ドアを解錠する



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

- 1 ロックレバーを施錠側にする
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

⚠ 警告**■ 事故を防ぐために**

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない

■ ドアを開閉するときは

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

センタードア（グライド式ドア）★

グライド式ドアは次の方法で施錠・解錠および開閉することができます。また、オートドア装着車は、車内のスイッチを使ってグライド式ドアを自動開閉することもできます。

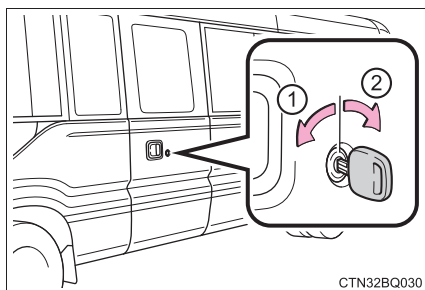
車外からの施錠・解錠

◆ キー（フロントドア）

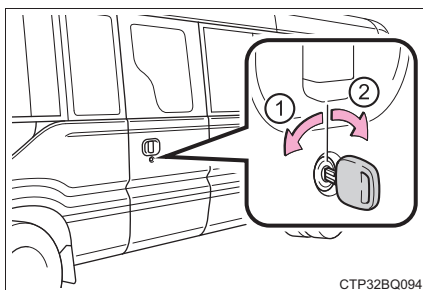
→ P. 68

◆ キー（グライド式ドア）

▶ マニュアルドア装着車



▶ オートドア装着車



① ドアを施錠する

② ドアを解錠する

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

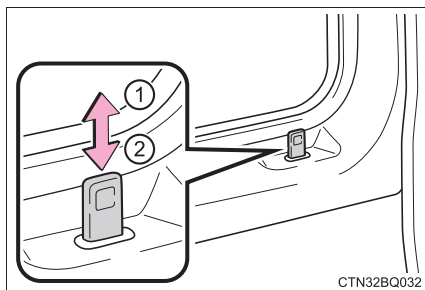
車内からの施錠・解錠

◆ ドアロックスイッチ★

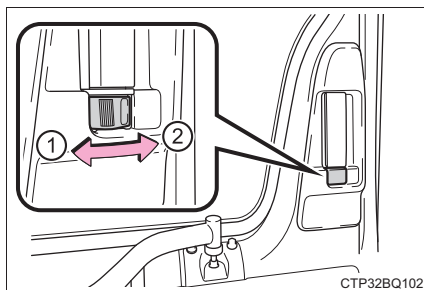
→ P. 68

◆ ロックボタン

▶ マニュアルドア装着車



▶ オートドア装着車



① ドアを解錠する

② ドアを施錠する

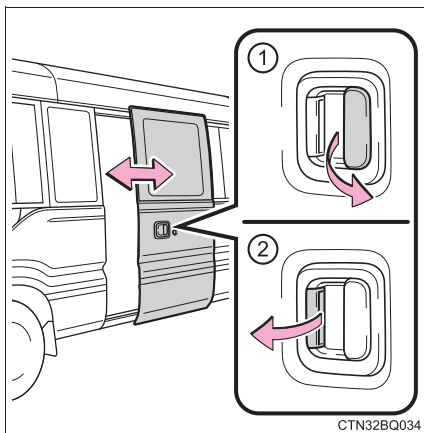
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

グライド式ドアの開閉

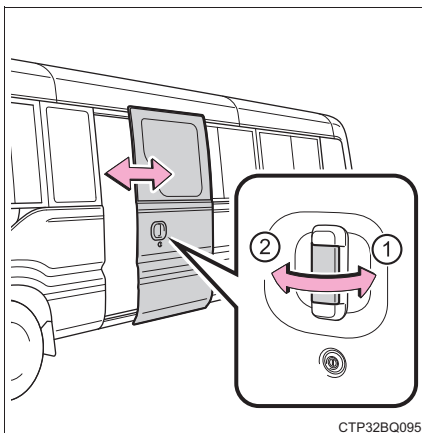
◆ ドアハンドルによる開閉

■ 車外ドアハンドル

▶ マニュアルドア装着車



▶ オートドア装着車

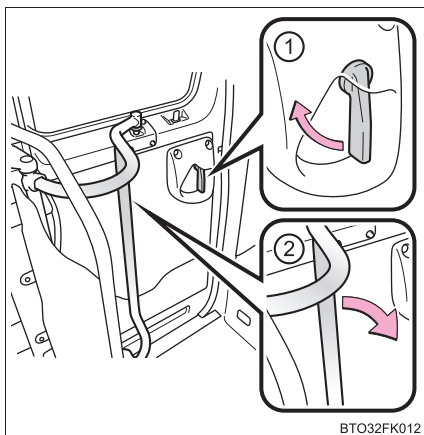


① 開く

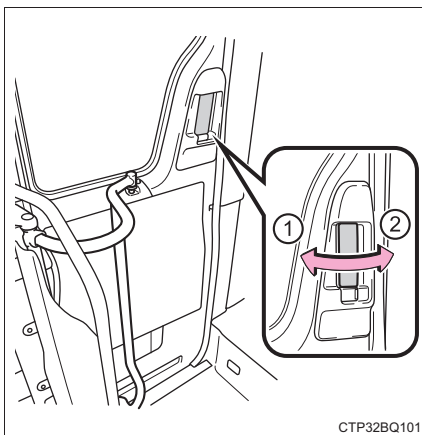
② 閉じる

■ 車内ドアハンドル

▶ マニュアルドア装着車



▶ オートドア装着車



① 開く

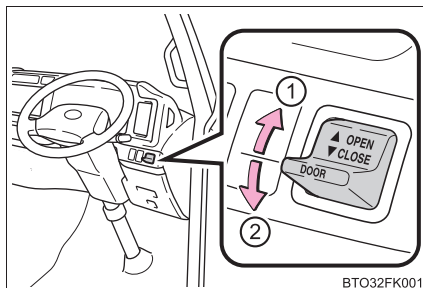
② 閉じる

◆ オートドア操作スイッチ (オートドア装着車)

スイッチを押し続ける

- ① 開く
- ② 閉まる

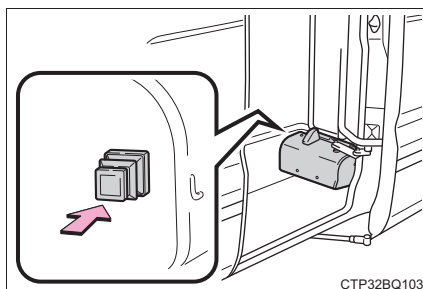
スイッチから手を離すと、その位置で停止します。



オートドア作動の切りかえ (オートドア装着車)

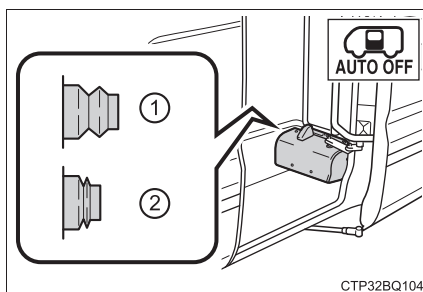
オートドアユニット側面にあるオート作動スイッチを押して、オートドアの作動を切りかえる

スイッチを押すごとに切りかわります。



- ① オート作動 ON
- ② オート作動 OFF

オート作動 OFF の位置にすると、メーター内の表示灯が点灯します。
通常時は、オート作動 ON の位置で使ってください。



キーを使わずに外側からグライド式ドアを施錠するときは

- 1 ロックボタンを施錠側にする
- 2 ドアを閉める

 知識**■ アクセルインターロック（オートドア装着車）**

センタードアが開いているときは、アクセルペダルが固定されます。

■ オートドアの作動条件（オートドア装着車）

次の条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます

- エンジンスイッチが“ON” のとき
- シフトレバーがPの時（ワンマンバス仕様車）
- 停車しているとき

■ オートドアについて（オートドア装着車）

- 開閉し始めるとき、ブザーが鳴ります。
- 傾斜した場所では、開閉ができないことがあります。その場合は、手動で開閉してください。
- オートドアが開閉している最中にスイッチを離して途中で停止した場合、スイッチを再操作してもドアを全閉にできないことがあります。
その場合は、一度全開させた後で、閉操作をしてください。
- オートドアが開いているときにシフトレバーをP以外にすると、ブザーがなります。（ワンマンバス仕様車）

■ グライド式ドアイーজークローザー（オートドア装着車）

グライド式ドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し、グライド式ドアが自動で完全に閉まります。

- エンジンスイッチの位置、またはモードに関係なく作動します。
- オートドア装着車では、オートドア作動スイッチがOFFの時でも作動します。
- 車内や車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーが作動しないことがあります。
- イージークローザーの作動中でも、車内または車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。

■ 挟み込み防止機能（オートドア装着車）

グライド式ドアをオートドア操作で開閉しているときに、センサーが異物の挟み込みを感知すると、グライド式ドアが反転作動し、少し戻った位置で停止します。

■ ステップランプ

センタードアを開けると点灯します。

警告

■ 走行中の警告

走行中は次のことをお守りください。

お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行前にドアを軽くゆさぶり、確実に施錠されていることを確認する
- 走行中は車内のドアハンドルを操作しない

■ お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

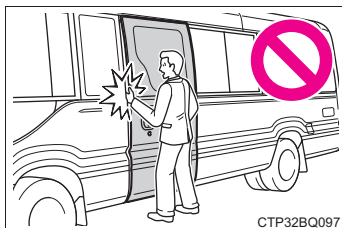
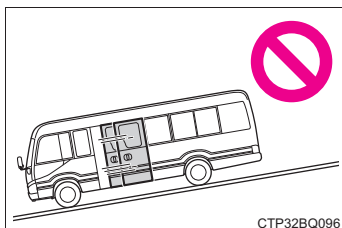
- お子さまを車内に残さないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはセンタードアの開閉操作をさせないでください。
不意にセンタードアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

警告**■ グライド式ドアの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- センタードアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 坂道、ドアと壁などの間が狭い場所、強風など周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアレバーやアームを確実に保持してドアを開閉してください。
- スライド式サイドガラスを開けた状態でセンタードアを開閉するときは、窓から手・足・顔などを出さないでください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 半開状態ではセンタードアが静止しないため、必ず全開にしてください。傾斜した場所での停車時にドアが開いていると、突然動き出すおそれがあります。
- 坂道ではセンタードアの開閉スピードが速くなります。ドアが体にあたったり挟んだりしないよう、注意してください。
- 下り坂での停車時に乗り降りするときは、センタードアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルを操作しないでください。ドアが突然動き出すおそれがあります。
- センタードアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。



警告

■ グライド式ドアイーザークローザー について（オートドア装着車）

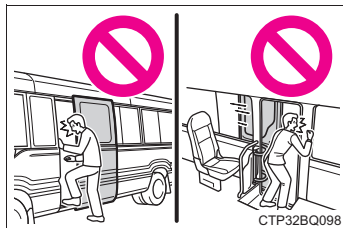
- グライド式ドアが半ドア状態になったとき、イーザークローザーが作動し、グライド式ドアが自動で完全に閉まります。また作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- オートドア装着車では、オート作動スイッチが OFF の時でも作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

■ オートドアについて（オートドア装着車）

次のことを必ずお守りください。

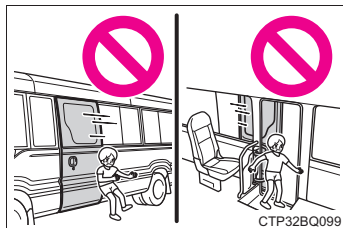
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車内の操作スイッチで開閉するときは、車両が確実に停車し、パーキングブレーキがかかっていることを確認してください。
- オートドア作動中に乗り降りしないでください



- 開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
また、車外および車内のオートドア付近にもたれたいる人がいるときは、オートドアを作動させないでください。



- 万一、走行中にセンタードア開放警告灯（→ P. 325）が点灯し、ブザーが鳴ったときは、センタードアが確実に閉まっていません。
停車して、センタードアを確実に閉めてください。

 警告**■ オートドアについて（オートドア装着車）**

- 自動開閉中にオート作動スイッチを OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、傾斜した場所では、センタードアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- 傾斜した場所では、開いたあとにセンタードアが閉まる場合があります。ドアは必ず全開で停止していることを確認してください。
- 自動開閉中に作動条件を満たさなくなったときは、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。この場合、傾斜した場所では、センタードアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。この場合、手動操作に切りかわり、急にセンタードアが閉まるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
 - ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
 - ・ エンジン停止時でオートドアが作動しているときに、エンジンスイッチを“ON” にしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
- スライド式サイドガラスを開けた状態で自動開閉するときは、窓から手・足・顔などを出さないでください。

■ 挟み込み防止機能（オートドア装着車）

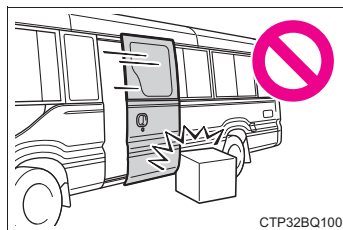
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、グライド式ドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれ方によっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

⚠ 注意**■ センタードアについて**

- オートドア装着車：ドア全開時は、ドアが不用意に動かないよう固定されます。手動で閉める場合はドアロックを解錠してから車外・車内のドアハンドルを使用して固定状態を解除し、ドアを閉めてください。（オートドア作動 ON 時にドアハンドル以外の部分を持って閉めようとすると、ドアの制御により閉めにくい場合があります。）
- センタードアを開閉する前に、センタードアが安全に開閉できるように車外および車内のセンタードア付近の状態を必ず確認してください。
- センタードアを開けるときは縁石や壁などにあたらないように注意してください。センタードアを損傷するおそれがあります。

**■ アクセルインターロック（オートドア装着車）**

ドアが開いているときに、アクセルペダルを踏まないでください。また、アクセルペダルを踏んでいるときに、ドアの開閉をしないでください。アクセルインターロック装置の故障の原因およびリンク系の故障の原因になります。

■ オートドアについて（オートドア装着車）

- バッテリーあがりを防ぐため、エンジン回転中に行ってください。
- オートドア作動切りかえ表示灯が点灯したときは、他の乗員が誤ってオート作動スイッチを OFF の状態にしていなかったか確認してください。

■ グライド式ドアイーザークローザー について（オートドア装着車）

- イーザークローザー作動は、無理な力をかけないでください。
- ドアの開け閉めをくり返すとイーザークローザーが作動しないことがあります。この場合、一度ドアを開け、少し時間をおいてから閉め直すと作動します。

電動格納式補助ステップ★

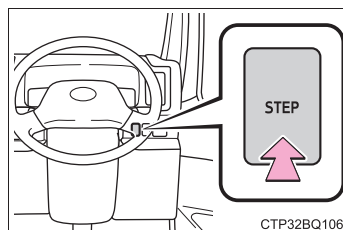
次の条件をすべて満たしているときに、オートドア操作スイッチを操作すると、ドアの開閉に連動してステップが作動します。（作動中はブザーが鳴り続けます。）

- エンジンスイッチが“ON” のとき
- 車両が停止しているとき
- STEP スイッチが ON のとき（スイッチが押し込まれているとき）
 - ・ 格納作動は、STEP スイッチの状態にかかわらず、オートドア操作スイッチの閉作動と連動して格納されます。

知識

■ STEP スイッチ

ON/OFF の切りかえ



■ 電動格納式補助ステップについて

- ステップが出ているときにセンタードアを手動で全閉にすると、ステップが自動的に格納されます。
- ステップの作動中に、人や異物の挟み込みなどにより異常を感知すると、その位置でステップが停止します。
- ステップが出ているときは、メーター内の表示灯が点灯します。（→ P. 52）

■ 電動格納式補助ステップが格納できないときは

ステップが出た状態のまま自動で格納することができないときは、手動で格納することができます。（→ P. 359）

■ アクセルインターロック

ステップが出ているときは、アクセルペダルが固定されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 警告**■ 電動格納式補助ステップについて**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ステップを操作する前に、運転者はステップが安全に操作できるようにステップ付近の状態を必ず確認してください。
- ステップ作動中は、指や手を挟まないよう十分注意してください。また、お子さまには操作をさせないでください。

 注意**■ バッテリーあがりを防ぐために**

エンジン回転中に行ってください。

■ アクセルインターロック

ステップが出ているときに、アクセルペダルを踏まないでください。また、アクセルペダルを踏んでいるときに、ステップの操作をしないでください。アクセルインターロック装置の故障の原因およびリンク系の故障の原因になります。

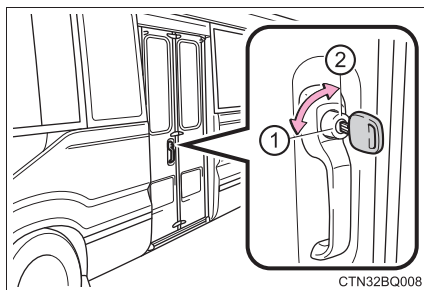
センタードア（折戸式ドア）★

折戸式ドアは次の方法で施錠・解錠および開閉することができます。
また、オートドア装着車は、車内のスイッチを使って折戸式ドアを自動開閉することもできます。

車外からの施錠・解錠

◆ キー

- ① ドアを施錠する
- ② ドアを解錠する



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

折戸式ドアの開閉

◆ ドアハンドルによる開閉

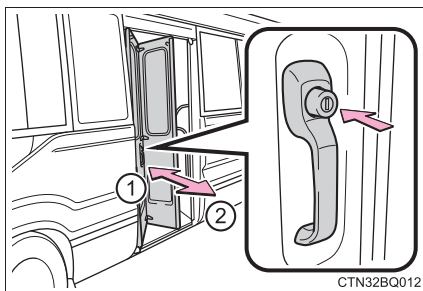
▶ 車外ドアハンドル

① 開く

ドアハンドルのボタンを押してドアを押します

② 閉じる

ドアの先端を横に押しながら、ドアハンドルを手前に引きます



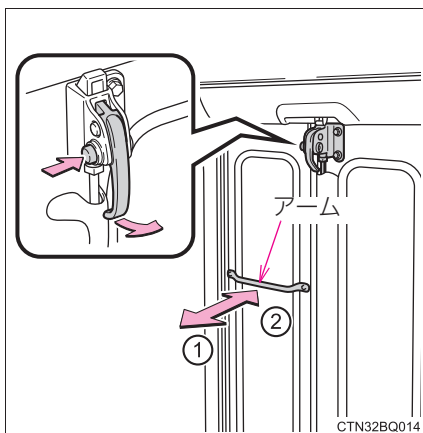
▶ 車内ドアハンドル

① 開く

ロックボタンを押しながらドアハンドルを引きます

② 閉じる

アームを持ってドアを押します



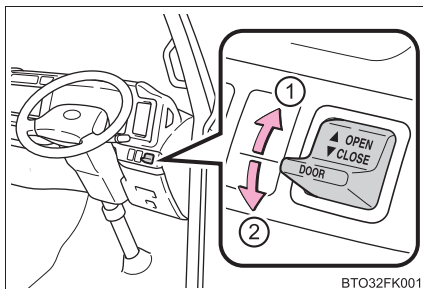
◆ オートドア操作スイッチ（オートドア装着車）

スイッチを押し続ける

① 開く

② 閉まる

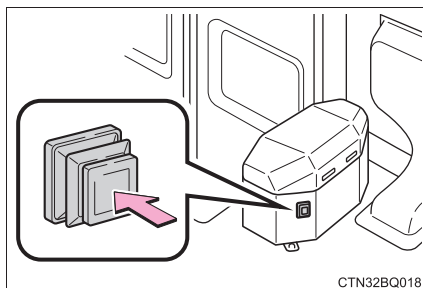
スイッチから手を離すと、その位置で停止します。



オートドア作動の切りかえ（オートドア装着車）

オートドアユニット裏側にあるキャンセルスイッチを押して、オートドアの作動を切りかえる

スイッチを押すごとに切りかわります。

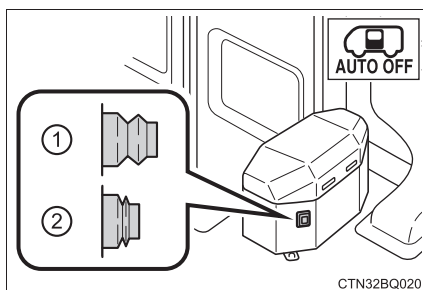


① ON（自動作動）

② OFF（手動作動）

OFF（手動操作）にすると、手動で開閉することができます。

OFF（手動操作）の位置にすると、メーター内の表示灯が点灯します。



知識

■ アクセルインターロック（オートドア装着車・幼児車）

センタードアが開いているときは、アクセルペダルが固定されます。

■ オートドアの作動条件（オートドア装着車）

次の条件をすべて満たしているときに、自動で開閉できます

- エンジンスイッチが“ON” のとき
- 停車しているとき
- シフトレバーがP のとき

■ 挟み込み防止機能（オートドア装着車）

折戸式ドアをオートドア操作で開閉しているときに、センサーが異物の挟み込みを感知すると、折戸式ドアが反転作動し、少し戻った位置で停止します。

■オートドアについて（オートドア装着車）

- 開閉し始めるとき、ブザーが鳴ります。
- 傾斜した場所では、開閉ができないことがあります。その場合は、手で開閉してください。
- 停車中は、キャンセルスイッチの状態に関係なく、ドアハンドルの操作でドアを開閉できます。
ただし、ドアが全開のときにキャンセルスイッチが ON（自動作動）の状態になっていると、ドアハンドルでドアを閉めようとしても、ブレーキ制御がかかるため、ドアは閉めにくくなります。ドアを閉めるときは、キャンセルスイッチを手動の状態にしてから閉めてください。
- 駐車時などで、センタードアが施錠されている状態のときは、車外からドアを開けることはできません。

■ステップランプ

センタードアを開けると点灯します。

警告

■走行中の警告

走行中は次のことをお守りください。

お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、外に投げ出されるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行前にドアを軽くゆさぶり、確実に施錠されていることを確認する
- 走行中は車内のドアハンドルを操作しない

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

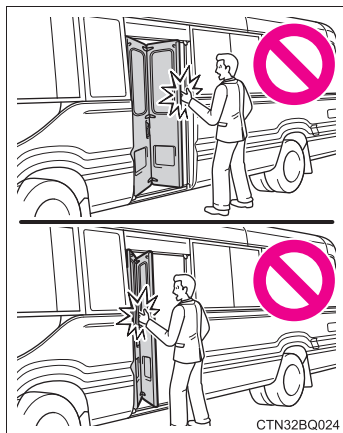
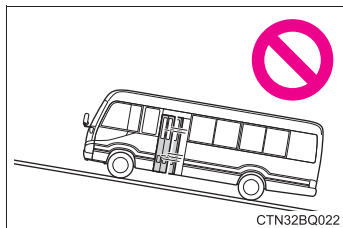
- お子さまを車内に残さないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはセンタードアの開閉操作をさせないでください。
不意にセンタードアが作動したり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

警告**■折戸式ドアの操作にあたって**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- センタードアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 坂道、強風など周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、注意してドアを開閉してください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 半開状態ではセンタードアが静止しないため、必ず全開にしてください。傾斜した場所での停車時にドアが開いていると、突然動き出すおそれがあります。
- 坂道ではセンタードアの開閉スピードが速くなります。ドアが体にあたったり挟んだりしないよう、注意してください。
- 上り坂での停車時に乗り降りするときは、センタードアを全開にしておいてください。また、途中でドアハンドルを操作しないでください。ドアが突然動き出すおそれがあります。
- センタードアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。



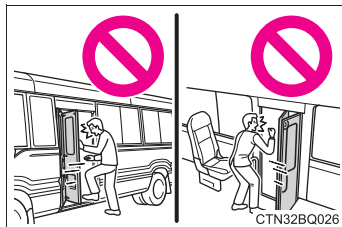
警告

■ オートドアについて（オートドア装着車）

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

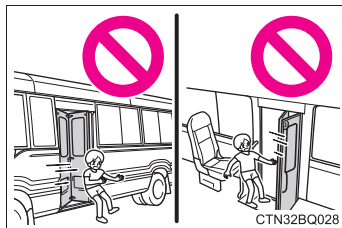
- 車内の操作スイッチで開閉するときは、車両が確実に停車し、パーキングブレーキがかかっていることを確認してください。
- オートドア作動中に乗り降りしないでください



- 開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

また、車外および車内のオートドア付近にもたれたいる人がいるときは、オートドアを作動させないでください。



- 万一、走行中にセンタードア開放警告灯（→ P. 325）が点灯し、ブザーが鳴ったときは、センタードアが確実に閉まっています。停車して、センタードアを確実に閉めてください。
- 自動開閉中にキャンセルスイッチを OFF にすると、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、傾斜した場所では、センタードアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- 傾斜した場所では、開いたあとにセンタードアが閉まる場合があります。ドアは必ず全開で停止していることを確認してください。
- 自動開閉中に作動条件を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。この場合、傾斜した場所では、センタードアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

 警告**■ オートドアについて（オートドア装着車）**

● 次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。この場合、手動操作に切りかわり、急にセンタードアが閉まるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。

- ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
- ・ エンジン停止時でオートドアが作動しているときに、エンジンスイッチを“ON” にしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

■ 挟み込み防止機能（オートドア装着車）

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、折戸式ドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれ方によっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

 注意**■ センタードアについて**

センタードアを開閉する前に、センタードアが安全に開閉できるように車外および車内のセンタードア付近の状態を必ず確認してください。

■ アクセルインターロック（オートドア装着車・幼児車）

ドアが開いているときに、アクセルペダルを踏まないでください。また、アクセルペダルを踏んでいるときに、ドアの開閉をしないでください。アクセルインターロック装置の故障の原因およびリンク系の故障の原因になります。

■ オートドアについて（オートドア装着車）

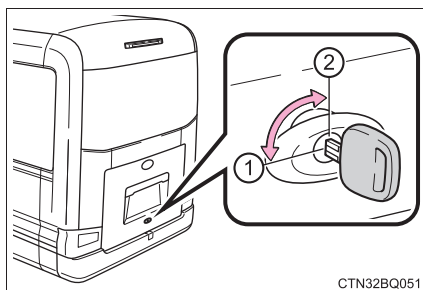
- バッテリーあがりを防ぐため、エンジン回転中に行ってください。
- オートドア作動切りかえ表示灯が点灯したときは、他の乗員が誤ってキャンセルスイッチを OFF（手動作動）の状態にしていけないか確認してください。

トランク★

トランクは次の方法で施錠・解錠、および開閉することができます。

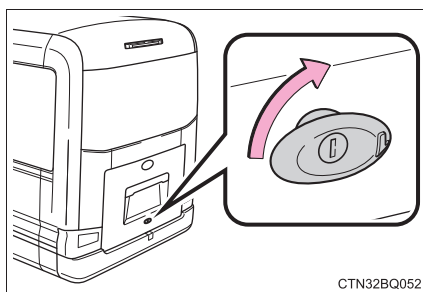
施錠・解錠

- ① 施錠
- ② 解錠



車外からトランクを開ける

ハンドルを右にまわして、トランクを持ち上げる



知識

■ トランクランプ★

トランクを開けたとき、トランクランプが点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行する前に

- 走行前にトランクを軽くゆさぶり、確実に施錠されていることを確認してください。

完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。

- トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。

誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。

- お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。

不意にトランクリッドが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

トランク内には絶対に人を乗せないでください。

急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

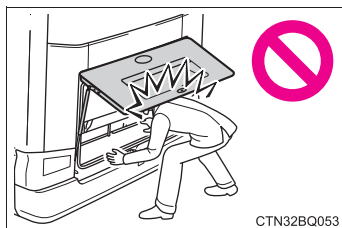
！警告**■ トランクの使用にあたって**

次のことを必ずお守りください。

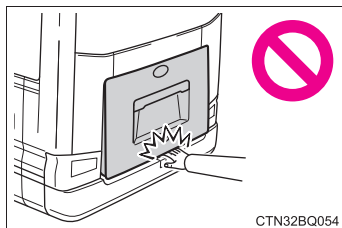
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが突然閉じるおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- 半開状態で使用すると、トランクリッドが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。



- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。
- トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。トランクグリップで直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

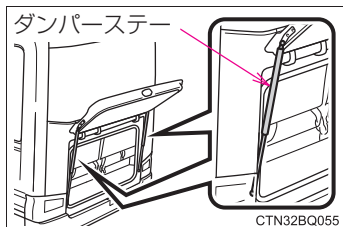


- トランクリッドにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

 注意**■ ダンパーステアについて**

トランクにはトランクを支えるためのダンパーステアが取り付けられています。ダンパーステアの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステアのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- トランクにトヨタ純正品以外のアクセサリ用品を付けない
- ステアに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない



観音扉ドア★

観音扉ドアは次の方法で施錠・解錠、および開閉することができます。

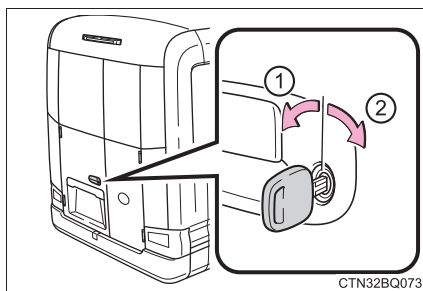
車外からの施錠・解錠

◆ キー（フロントドア）

→ P. 68

◆ キー（観音扉ドア）

- ① ドアを施錠する
- ② ドアを解錠する



3

各部の操作

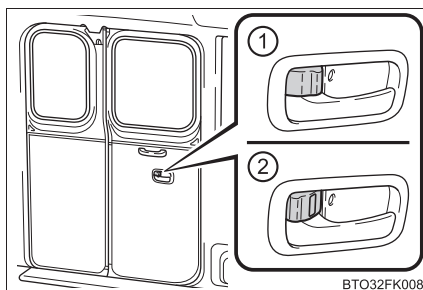
車内からの施錠・解錠

◆ ドアロックスイッチ

→ P. 68

◆ ロックレバー

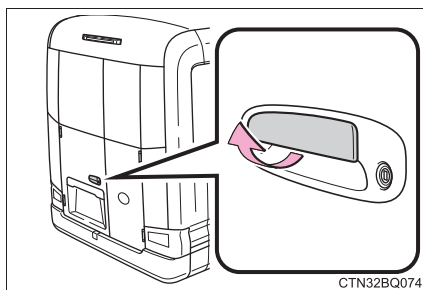
- ① ドアを施錠する
- ② ドアを解錠する



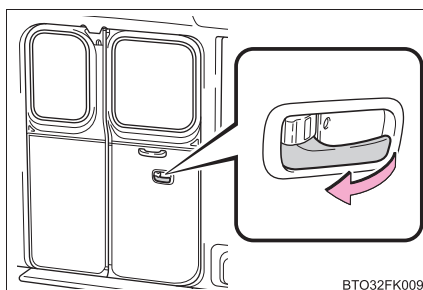
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

観音扉ドアを開けるには**◆ 助手席側ドア（車外ドアハンドル）**

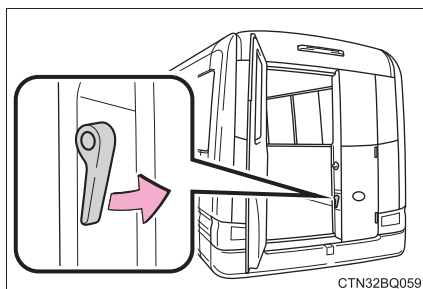
ドアハンドルを引いて開ける

**◆ 助手席側ドア（車内ドアハンドル）**

ドアハンドルを引いて開ける

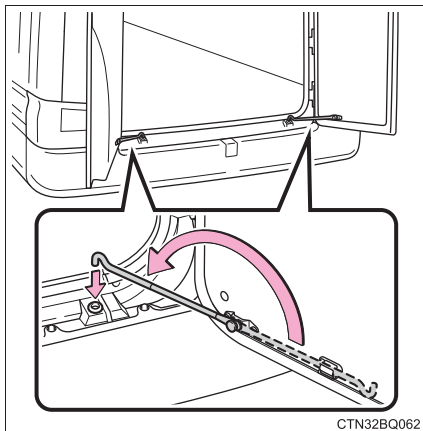
**◆ 運転席側ドア**

助手席側ドアを開け、ドアレバーを引いて開ける



バックドアオープンストッパー★

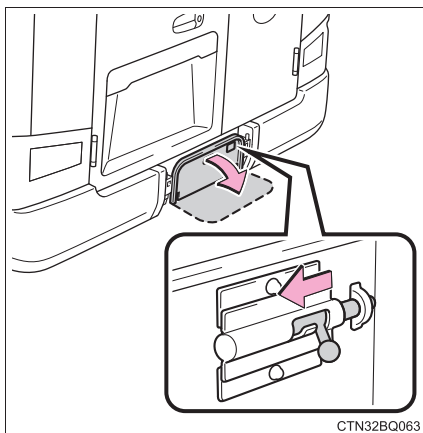
左右のステーをバンパー上部のステー穴に挿し込み、観音扉ドアを固定する



折りたたみ式バックステップ★

レバーを左に動かし、ステップを手前に倒す

- 格納するときにはステップを持ち上げ、レバーを右に動かします。
- 走行中は、ステップを折りたたんでおいてください。



キーを使わずに外側から観音扉ドアを施錠するときは

- 1 運転席側のドアを閉める
- 2 ロックレバーを施錠側にする
- 3 ドアハンドルを引いたまま助手席側のドアを閉める

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ 非常ドアについて（幼児車）

→ P. 318

 警告

■ 走行中の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 走行中は観音扉ドアを閉じてください。

開けたまま走行すると、観音扉ドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行前に観音扉ドアを軽くゆさぶり、確実に施錠されていることを必ず確認してください。

● 走行前に観音扉ドアを軽くゆさぶり、確実に施錠されていることを確認してください。

観音扉ドアが完全に閉まっていないと、走行中に観音扉ドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

お子さまには観音扉ドアの開閉操作をさせないでください。

不意に観音扉ドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

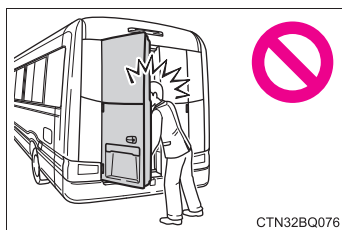
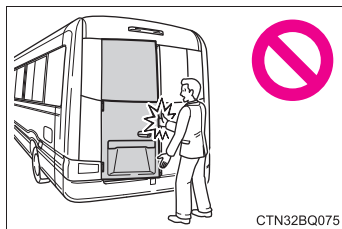
警告

■ 観音扉ドアの操作にあたって

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 観音扉ドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
観音扉ドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 半開状態で使用すると、観音扉ドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜した場所では、平坦な場所よりも観音扉ドアの開閉がしにくく、急に観音扉ドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ず観音扉ドアが全開で静止していることを確認して使用してください。
- 観音扉ドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。



- 観音扉ドアを開けて駐停車するときは、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。観音扉ドアを開けていると非常点滅灯などが見えなくなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

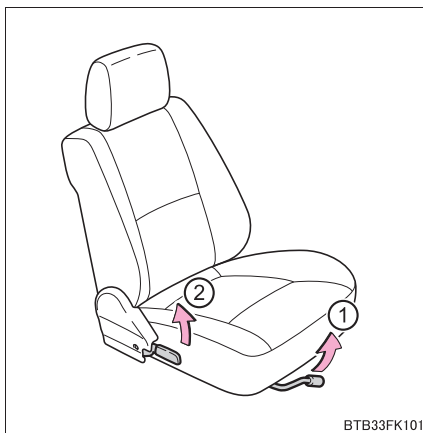
■ 閉めるときは

必ず運転席側ドアを閉めたあとに、助手席側ドアを閉めてください。助手席側ドアを閉めたあとに運転席側ドアを閉めると、運転席側ドアが助手席側ドアのガラスにあたり、ガラスやドアを損傷するおそれがあります。

運転席

調整のしかた

- ① 前後位置調整
- ② リクライニング調整



⚠ 警告

■ シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ リクライニング調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後は、シートがきちんと固定されていることを確認してください。

助手席／リヤシート★

調整のしかた

リクライニング角度の調整★

▶ 1 人席

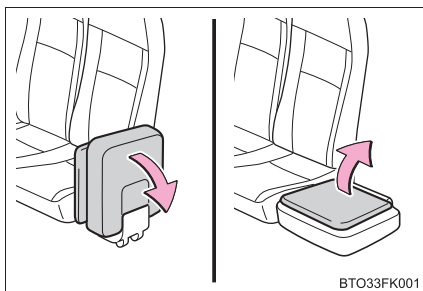


▶ 2 人席



補助シート★

補助シートを倒し、背もたれを起こす

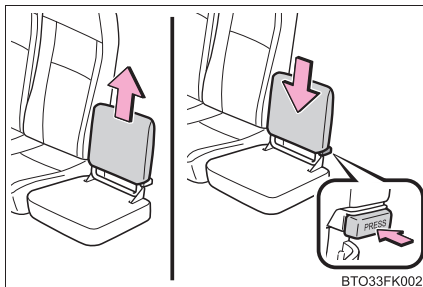


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

◆ シートバック上下スライド式補助シート★

高さを2段階に調整することができます。

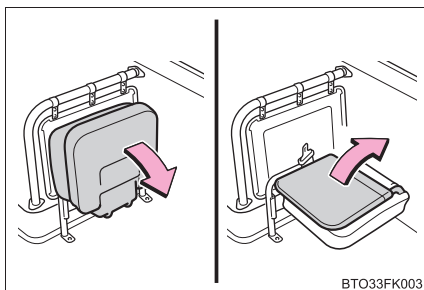
- 上げるときはそのまま引き上げる
 - 下げるときは、ボタンを押したまま下げる
- 補助シートをもとにもどすときは、背もたれを一番下の位置にしてからもどしてください。



BTO33FK002

保護者用シート（幼児車）

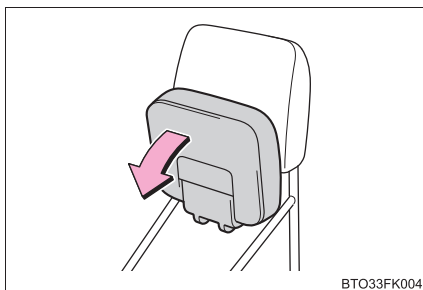
▶ センタードア後部



BTO33FK003

シートを倒し、背もたれを起こす

▶ 最後部シート



BTO33FK004

シートクッションを倒す

非常ドア（→ P. 318）を使用するときは、シートクッションを持ち上げてください。

警告

■ シート調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後は、シートがきちんと固定されていることを確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

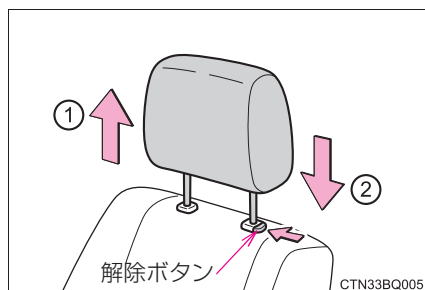
ヘッドレスト

▶ 分割式ヘッドレスト（運転席）

① 上げる

② 下げる

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



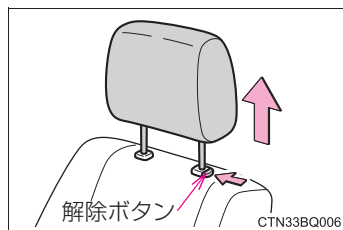
▶ 一体式ヘッドレスト（運転席を除く）

ヘッドレストの調整・取りはずしはできません。

知識

■ヘッドレストを取りはずすとき

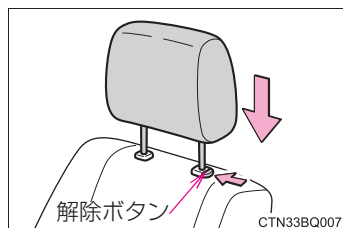
解除ボタンを押しながら取りはずします。



■ヘッドレストを取り付けるとき

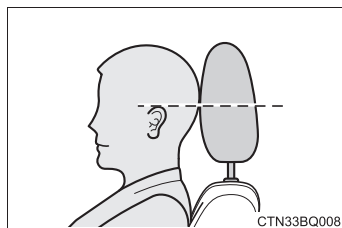
ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



⚠ 警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。

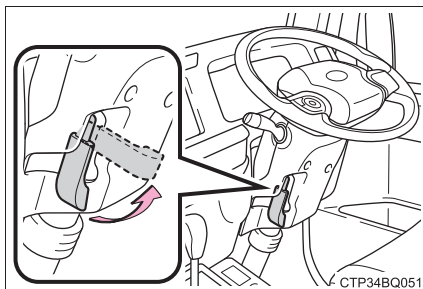
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

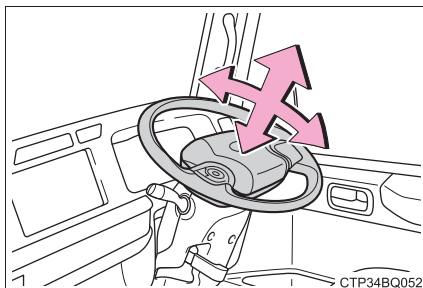
ハンドル

調整のしかた

- 1 ハンドルを持ち、レバーを引き上げる

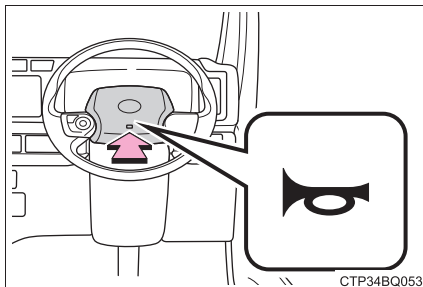


- 2 ハンドルを上下前後に動かし、適切な位置にする
位置が決定したら、レバーを押し下げてハンドルを固定してください。



ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すと
ホーンが鳴ります。



知識

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だと、ホーンが鳴らない場合があります。

 警告**■ 走行中の警告**

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

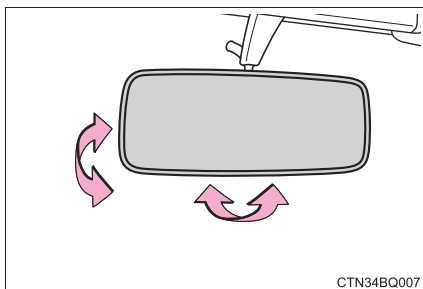
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

調整のしかた

▶ 手動調整ミラー装着車

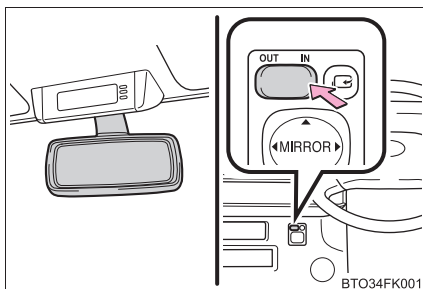
インナーミラー本体を持って、調整する



▶ 電動リモコンインナーミラー装着車

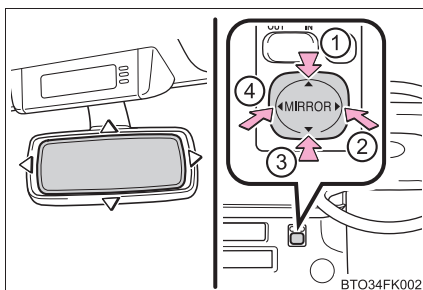
スイッチで鏡面の角度調整をします。

- 1 メインスイッチを右側 (IN) にする



- 2 ミラーの鏡面を調整するには、スイッチを押す

- ① 上
- ② 右
- ③ 下
- ④ 左



⚠ 警告

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

アウターミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようミラーの角度を調整してください。

知識

■ 寒冷時にアウターミラーを使用するとき

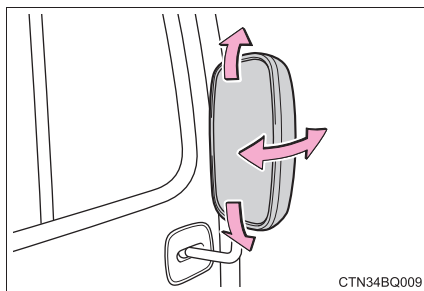
寒冷時にアウターミラーが凍結していると、アウターミラーの格納・復帰や鏡面の調整ができない場合があります。アウターミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

調整のしかた

▶ 運転席側ミラー

ミラー全体を手で動かして調整する

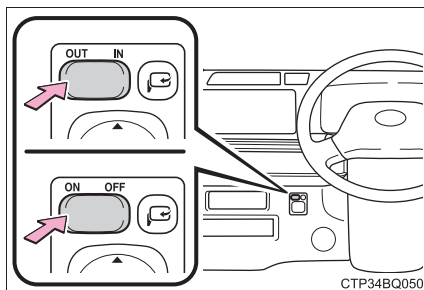
調整後は運転席に座って、後方確認が十分できることを確認してください。



▶ 助手席側ミラー

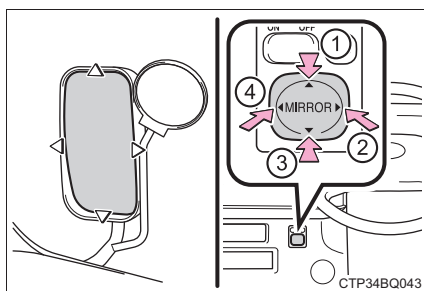
スイッチで鏡面の角度調整をします。

- 1 メインスイッチを “OUT” 側（電動リモコンインナーミラー装着車）、または “ON” 側（電動リモコンインナーミラー非装着車）にする



- 2 ミラーの鏡面を調整するには、スイッチを押す

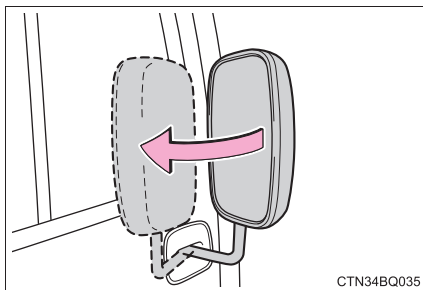
- ① 上
- ② 右
- ③ 下
- ④ 左



アウターミラーを格納する

▶ 運転席側ミラー

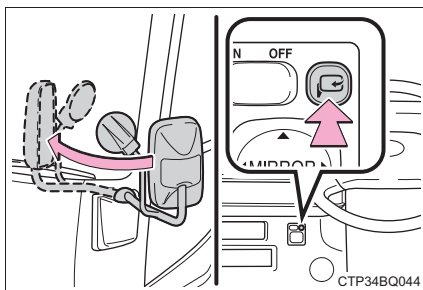
手で後方に押しして格納する



▶ 助手席側ミラー

ボタンを押してアウターミラーを格納する

もう一度押すと、もとの位置にもどります。



知識

■ 作動条件（助手席側ミラー）

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

■ ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→ P. 216, 227）

 警告**■ 走行中の留意事項**

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ ミラーが動いているとき（助手席側ミラー）

手をふれないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

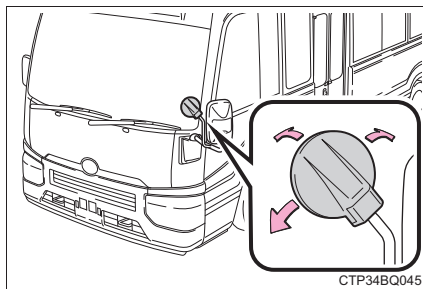
■ ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

補助ミラー

フロントアンダーミラー

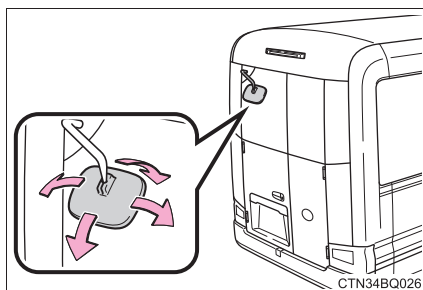
発進時またはごく低速時に、車両前面を確認するときに役立ちます
ミラー全体を手で動かして調整する



リヤアンダーミラー★

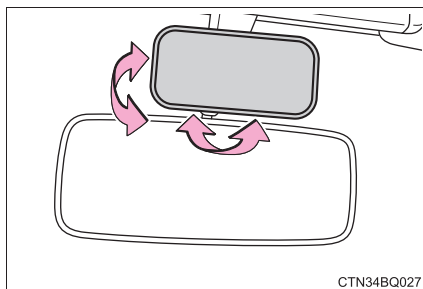
後退時の視界確保に貢献します
ミラー全体を手で動かして調整する

調整後は運転席に座って、後方確認が十分できることを確認してください。



2 段インナーミラー（幼児車★）

客席の状態を確認するときに役立ちます
ミラー全体を手で動かして調整する



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

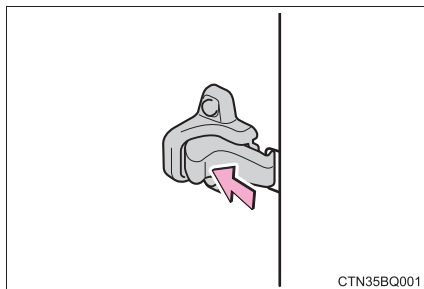
 注意**■補助ミラーについて**

- 補助ミラーの鏡面部に汚れが付着しているときは、やわらかい布などを使用して汚れをふき取ってください。
- 車両直前・直左部や後方の確認は直接確認するか、インナーミラー・アウトターミラーなども併用し十分注意して行ってください。

スライド式サイドガラス★

開けるときは、ノブを押してロック
をはずし、ガラスをスライドさせる

操作後は、ガラスが確実に固定された
ことを確認してください。



⚠ 警告

■ スライド式サイドガラスを開閉するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- サイドガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- お子さまには、サイドガラスの操作をさせないでください。
サイドガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

運転

4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	116
荷物を積むときの注意	126

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション） スイッチ	128
オートマチックトランス ミッション	131
方向指示レバー	134
パーキングブレーキ	135
排出ガス浄化装置	136

4-3. ランプのつけ方・

ワイパーの使い方

ランプスイッチ	141
AHB（オートマチック ハイビーム）	145
フォグランプスイッチ	149
ワイパー & ウォッシャー （フロント）	151
ワイパー&ウォッシャー （リヤ）	153

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	155
---------------	-----

4-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense	159
PCS（プリクラッシュ セーフティ）	167
LDA（レーンディパーチャー アラート）	178
発進遅れ告知機能	183
クリアランスソナー	185
運転を補助する装置	194

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	200
--------------	-----

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンをかける

→ P. 128

発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする (→ P. 131)
- 2 パーキングブレーキを解除する (→ P. 135)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。(→ P. 131)

駐車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 パーキングブレーキをかけて (→ P. 135)、シフトレバーを P にする (→ P. 131)
- 3 エンジンスイッチを “ LOCK ” にしてエンジンを停止する
- 4 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する
坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止めを使用してください。
(→ P. 338)

上り坂の発進のしかた

- 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする
- 2 アクセルペダルをゆっくり踏む
- 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し、発進する

 知識

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなった
りするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンド
ルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてくだ
さい。

■ 走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなることがあります。これは走行状況に
合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うため
で、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離したとき

■ エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制す
る場合があります。

■ 運転者標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー
部に取り付けることはできません。

■ オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

- 暑い日に長い上り坂を走行する
- 高速走行直後に急減速や急停止をする

■ エンジン停止前のアイドリング運転について

ターボ装置の損傷を防ぐため、高速走行・登坂走行直後は、アイドリング運転を
行ってからエンジンを停止してください。

走行状況		アイドリング運転時間
市街地などの一般走行		不要
高速走行	約 80km/h 定速	約 20 秒
	約 100km/h 定速	約 1 分
山岳ドライブウェイなど急な登坂、 または 100km/h 以上の連続走行		約 2 分

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリーブ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■ 運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
 - ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
 - ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
 - ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 314を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→ P. 131)

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転するとき

- 走行中はハンドル・シート・アウターミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- オフロード走行をしないでください。
やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。
- シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出したりして乗員にあたったり、荷物を破損したり、荷物に気をとられたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **すべりやすい路面を運転するとき**

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後は、ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効が悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■ **シフトレバーを操作するとき**

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効が悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき**

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあり危険です。

■ **停車するとき**

- 空ぶかしをしないでください。

シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

- 停車中に空ぶかしをしないでください。

排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターを車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてエンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジン回転中または停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。(→ P. 136)

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また、制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。
- ブレーキシステムは2つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

 注意**■ 運転しているとき**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングポンプの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ ターボ装置の故障を防ぐために

- 高負荷走行直後は、エンジンを停止しないでください。必ずアイドリング運転を行い、ターボ装置などを冷却してからエンジンを停止してください。(→ P. 117)
- 排気管・エアクリーナーなどには純正部品または同等品をお使いください。
- 排気管の改造は絶対にしないでください。
- エンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速は絶対に行わないでください。
- 定期的なオイル交換を必ず行ってください。(→ P. 376)

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 334 を参照してください。

 注意**■冠水路走行に関する注意**

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を受けるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンスト
- 電装品のショート
- 水を吸い込んでのエンジン破損
- グリースが洗い流されたり、グリースに泥などが混入したりすることによる、潤滑不良やゴム製部品・機械部品の故障

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスミッション・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むときは

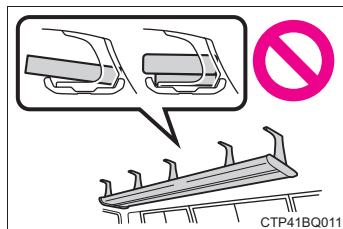
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物は荷室に積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席・リヤシート（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
- シート以外の場所には、絶対に人を乗せて走行しないでください。
乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告**■ 荷物棚に荷物を積むときは（荷物棚装着車）**

重い荷物や棚からはみ出るような荷物を置いたり、荷物を積み重ねたりしないでください。

発進時やコーナリング時、ブレーキをかけたときなどに荷物が飛び出し、けがをするおそれがあります。

**■ 荷物の重量・荷重のかけ方について**

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ

エンジンのかけ方

- ① パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- ② シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- ③ ブレーキペダルをしっかりと踏む
- ④ エンジンスイッチをまわす

“ON” の位置までまわし、（予熱表示灯）が点灯後消灯したら “START” の位置にまわします。

エンジンスイッチの位置の切りかえ

- ① “LOCK”（OFF）
 - ・ ステアリングロックがかかりま
 - す。
 - ・ キーを抜き挿しすることができます。
 - （シフトレバーの位置がPのとき、
 - キーを抜き挿しできます）

- ② “ACC”

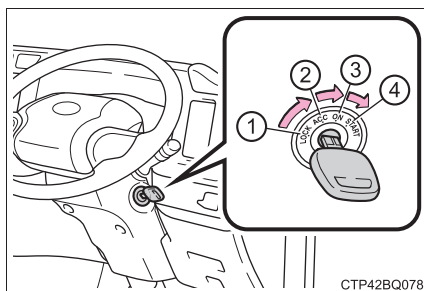
アクセサリソケットなどの電装品が使用できます。

- ③ “ON”

すべての電装品が使用できます。

- ④ “START”

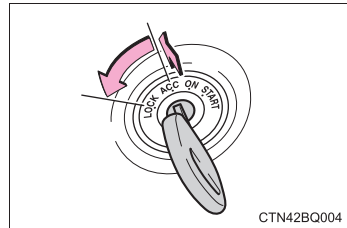
エンジンが始動できます。



知識

■キーを“ACC”から“LOCK”にまわすには

- 1 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 2 キーを押し込みながら“LOCK”までまわす



CTN42BQ004

■エンジンが始動しないときは

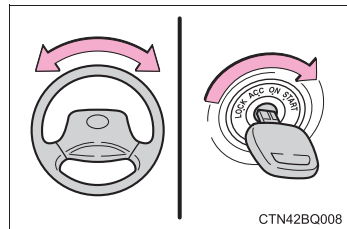
エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。

(→ P. 47)

トヨタ販売店へご連絡ください。

■ステアリングロックを解除するには

ハンドルを左右に動かしながら、エンジンスイッチをまわしてください。



CTN42BQ008

■キー抜き忘れ警告ブザー

キーが挿してあり、エンジンスイッチが“ACC”または“LOCK”のとき、運転席ドアを開けると警告音が鳴ります。

■バキューム警告ブザー

エンジンスイッチを“ON”にしたとき、バキューム警告ブザーが鳴ることがありますが、エンジンをかけて鳴り止めば異常ではありません。(→ P. 328)

■極寒時のエンジン始動について

極寒時は約 30 秒を限度に、エンジンが始動するまでエンジンスイッチをまわし続けてください。約 30 秒スターターをまわしても始動しないときは、エンジンスイッチを“ACC”にもどし、約 20 秒以上待ってから再始動してください。

 警告**■ エンジンを始動するときは**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

走行中はエンジンスイッチを “ LOCK ” にしないでください。
緊急時、走行中にエンジンを停止したい場合には “ ACC ” にしてください。
ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
(→ P. 314)

 注意**■ バッテリーあがりを防止するために**

エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを “ ACC ” または “ ON ” にしたまま長時間放置しないでください。

■ エンジンを始動するとき

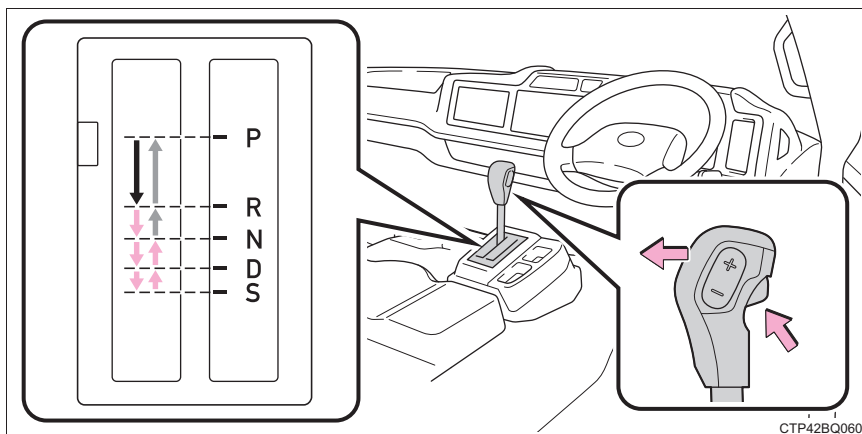
- 一度に 30 秒以上スターターをまわさないでください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 予熱表示灯について

- 予熱表示灯が消灯してからエンジンを始動してください。消灯する前に始動操作を行うと、バッテリーの寿命に悪影響をおよぼします。
- 予熱表示灯の点灯時間は、エンジンが冷えていると長くなります。

オートマチックトランスミッション

シフトレバーの動かし方



CTP42BQ060

← エンジンスイッチが “ ON ” の状態で、ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーのボタンを押して操作します。

← シフトレバーのボタンを押して操作します。

P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

シフトポジションの使用目的

シフトレバー	目的および状態
P	駐車またはエンジン始動・停止
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※ ¹
S	S モード走行 ※ ²

※¹ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※² S モードはシフトレンジを選択することで、加速力やエンジンブレーキ力を切りかえることができます。

S モードでのシフトレンジ選択

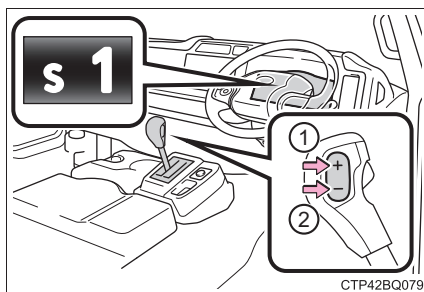
シフトレバーを S ポジションにすると、S モードに切りかわります。シフトスイッチの操作で思い通りのシフトレンジを選択し、運転することができます。シフトスイッチの “-” 側または “+” 側の操作でシフトレンジを選択することができます。

① シフトアップ

② シフトダウン

S1 から S6 レンジのあいだで選択されているシフトレンジがメーターに表示されます。

S ポジションへ操作したときの初期レンジは、車速に応じて設定されます。



■ シフトレンジ機能

- 加速力・エンジンブレーキ力は、6段階から選択が可能です。
- シフトレンジの数字が小さい方が、加速力・エンジンブレーキ力は大きくなり、エンジン回転数も高くなります。

□ 知識

■ リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者と車外の人に知らせます。

■ シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤動作を防ぐシステムです。エンジンスイッチが “ON” でブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

■ S モードについて

S4 レンジ以下のとき、シフトレバーを “+” 側へ保持すると S6 レンジに設定されます。

■ シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが 2 回鳴ります)

■シフトレバーをPからシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

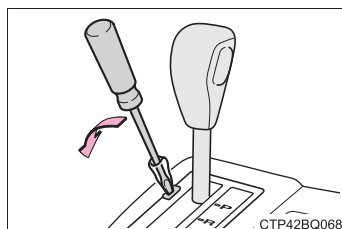
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ただし、一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロック解除のしかた：

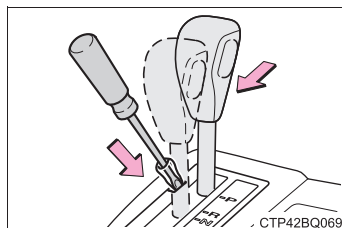
- 1 パーキングブレーキをかける
- 2 エンジンスイッチを“LOCK”にする
- 3 ブレーキペダルを踏む
- 4 マイナスドライバーなどを使ってカバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 5 ドライバーの先などでシフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



⚠ 警告

■ すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が、横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

■ シフトロック解除時の事故を防ぐために

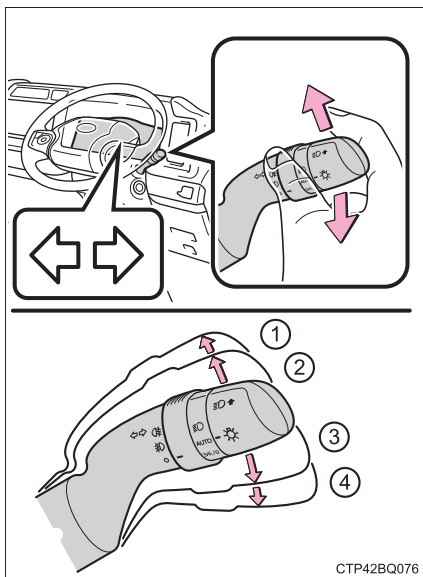
シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

- ① 左折
- ② 左側へ車線変更
(レバーを途中まで動かして離す)
左側方向指示灯が5回点滅します。
- ③ 右側へ車線変更
(レバーを途中まで動かして離す)
右側方向指示灯が5回点滅します。
- ④ 右折



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが “ ON ” のとき

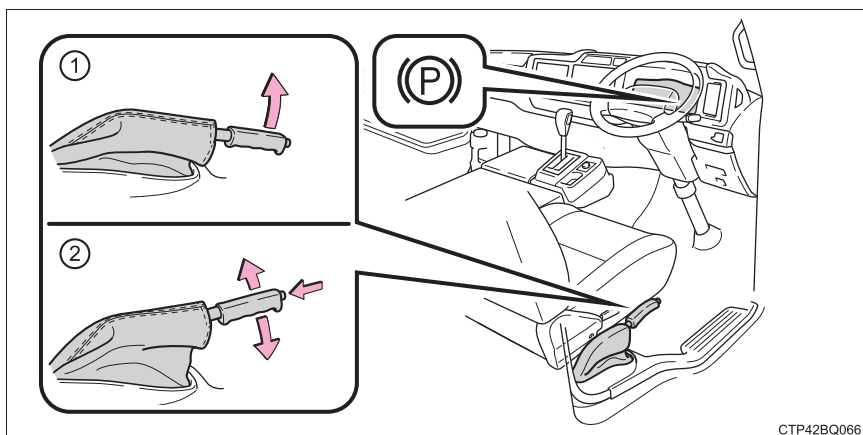
■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

すべての方向指示灯が点滅しているか、確認してください。(→ P. 291)

すべての方向指示灯が点滅しているのに点滅が異常に速いときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

パーキングブレーキ

操作のしかた



- ① パーキングブレーキをかけるには、ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引く
- ② パーキングブレーキを解除するには、レバーを少し引上げ、ボタンを押しながら完全に下までもどす

知識

- 駐車するとき
→ P. 116
- 冬季のパーキングブレーキの使用について
→ P. 200
- パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー
→ P. 325

注意

■ 走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

排出ガス浄化装置

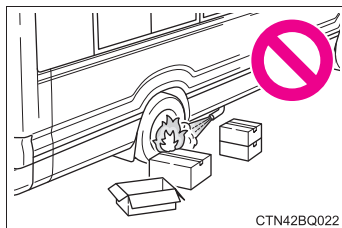
排出ガス浄化装置内のフィルターに捕集したススが一定量堆積すると、自動的にススを燃焼（再生）処理します。

⚠ 警告

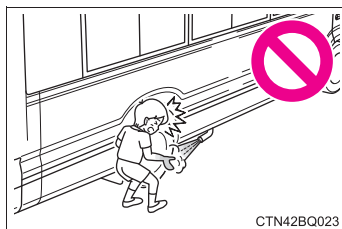
■ ススの燃焼（再生）処理中は

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、高温になった排気管・排気ガスによりやけどなどの重大な傷害を受けたり、火災などが発生するおそれがあり危険です。

- 排気管周辺に燃えやすいものを置かない



- 排気管周辺に人がいないことを確認する



- 車庫内など囲まれた場所ではススの燃焼処理を行わない
- 燃焼処理中は排気管・排気ガスにふれない

 注意**■ 排出ガス浄化装置の故障を防ぐために**

次のことをお守りください。お守りいただかないと、排出ガス浄化装置やエンジンなどの損傷につながるおそれがあります。

- マルチインフォメーションディスプレイに “DPF 再生不可 販売店で点検してください” と表示 ※ されたまま長時間走行しない
- 指定以外の燃料を補給しない
- 指定の規格に相当する品質以外のエンジンオイルを使用しない
- 排気管の改造をしない
- 排気管の腐食や亀裂、異音の発生などがいないか定期的に点検する
異常が発見された場合は、すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※ 警告メッセージに合わせてエンジン警告灯が点灯し、ブザーが鳴ります。

◆ 燃焼（再生）処理について

- 一般走行では数百 km[※] 走行するごとに、自動で捕集したススの燃焼処理が行われます。自動で燃焼処理が行われているときは、マルチインフォメーションディスプレイに “DPF 再生中” が表示されません。
 - ススが規定量以上になったとき、スイッチ操作で燃焼処理を行うことができます。
- ※ 気候や走行状況等により異なります。

◆ 排出ガス浄化装置について

排出ガス浄化装置には、次のような特徴があります。

- 燃焼処理中はアイドル回転数が上がる
- 排気ガスの臭いが従来のディーゼル車とは異なる
- 始動時や燃焼処理中に、排気管から白い煙（水蒸気）が出る場合がある
- 燃焼処理中は作動音（シューという音）が出る場合がある
- 燃焼処理中は加速が悪くなる場合がある

排出ガス浄化装置堆積モニターについて

マルチインフォメーションディスプレイ内の表示でススの堆積量を確認することができます。

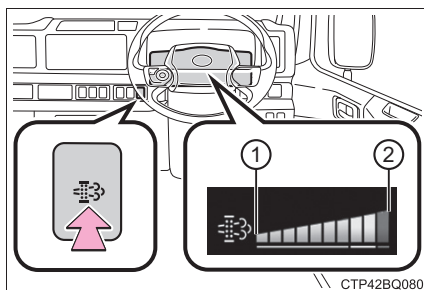
排出ガス浄化スイッチを押したとき、または警告メッセージと一緒に表示されます。表示される情報は、参考としてご利用ください。

① 少ない

② 多い

ススの堆積量が規定以上になると、マルチインフォメーションディスプレイに“DPF 再生不十分 取扱書を確認し 手動再生を実施ください”が表示されます。表示を確認したら必ずススの燃焼（再生）処理をしてください。

(→ P. 139)



排出ガス浄化装置の警告メッセージが表示されたときは

- マルチインフォメーションディスプレイに“DPF 再生不十分 取扱書を確認してください”と表示されたときは、次の手順で燃焼処理を行ってください。

- 1 車を安全な場所に停車する
- 2 パーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーをPにする

エンジンは停止しないでください。

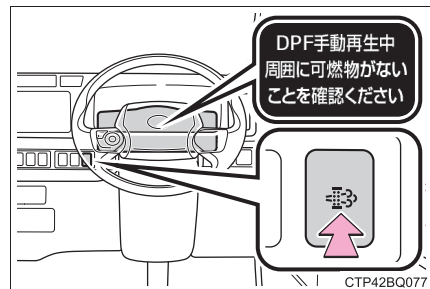
また、排気管の周辺に可燃物等がないことを確認してください。(→ P. 136)

エンジンが暖まっていることを確認してください。エンジンが冷えているときは、アクセルペダルを踏み込んでエンジンを暖めてください。^{※1}

- 3 排出ガス浄化スイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、アイドリング回転数が上がります。

燃焼（再生）処理が終了するまでに、約 15～40 分^{※2}程度の時間が必要です。



燃焼（再生）処理が終了すると、マルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージが消え、アイドリング回転数がもとにもどります。

^{※1} 状況により、エンジン回転数が 3000rpm になるまでアクセルペダルを踏み込む必要があります。エンジン冷却水、または排出ガスの温度が低いと、燃焼（再生）処理に時間がかかったり、燃焼（再生）処理ができなかったりする場合があります。

^{※2} 燃焼（再生）に必要な時間は、外気温により異なります。また、排出ガス浄化スイッチを押してから 10 分後のエンジン回転数が約 2000rpm のときは、排気ガスの温度が低い状態です。その場合は、アクセルペダルを踏み込んで、しばらくのあいだ約 3000rpm までエンジン回転数を上げてください。

- マルチインフォメーションディスプレイに“DPF 再生不十分 取扱書を確認し手動再生を実施ください”と表示されたときは、スイッチ操作で燃焼処理を行ってください。(→ P. 139)
- マルチインフォメーションディスプレイに“DPF 再生不可 販売店で点検してください”と表示^{※3}されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

^{※3} 警告メッセージに合わせてエンジン警告灯が点灯し、ブザーが鳴ります。

 知識

■ 燃焼処理について

- 排出ガス浄化スイッチを押したあとは、アクセルペダルを踏まないでください。ペダルを踏むと処理が中断されます。処理が中断されてしまった場合は、すみやかに燃焼処理をやり直してください。
- 燃焼（再生）処理が終了した後は、排気管をきれいにするために数回空ぶかしをしてください。
- 走行直後など排気管の温度が高いときに行うと、エンジンが冷えているときよりも早く処理が終了します。

■ エンジンオイルについて

必ず指定の規格に相当する品質のオイルをご使用ください。（→ P. 374）

■ 排出ガス浄化装置の警告メッセージについて

走行距離が短い運転が連続したときや、ひんぱんなアイドリングストップを行った場合などに、通常より早く排出ガス浄化装置の警告メッセージが表示される場合があります。

 注意

■ 排出ガス浄化装置の警告メッセージが表示されたとき

排出ガス浄化装置の警告メッセージが表示されたまま走行を続けると、エンジン警告灯が点灯します[※]。そのまま放置すると、排出ガス浄化装置やエンジンが損傷するおそれがあるため、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

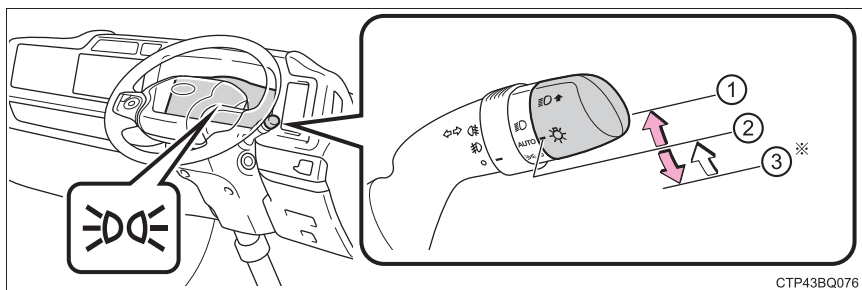
※ このときは、排出ガス浄化スイッチが機能しなくなります。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。

点灯のしかた

次のように  スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



CTP43BQ076

※ スイッチを③ /O の位置へ操作し手を離すと、自動的に② **AUTO** の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
① 	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
② AUTO ※ ¹	消灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
③  /O ※ ¹	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※ ²

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・メーター照明・番号灯・リヤホイール灯を意味します。

※¹ ③ /O の状態に切りかえるには  スイッチを下に回した状態で約 1 秒保持してから、手を離します。

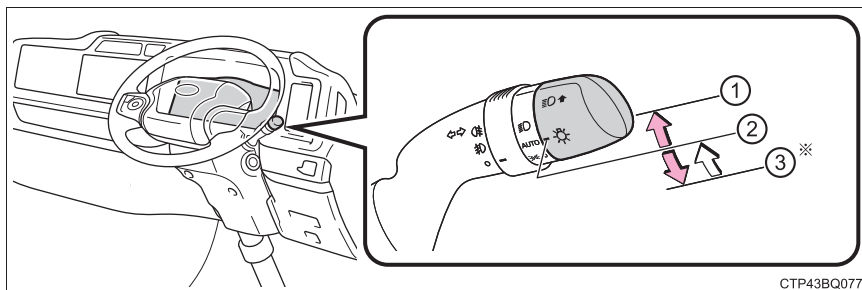
約 1 秒保持しないと、ランプ類の作動は② **AUTO** のまま変化しません。

※² 停車中のみ点灯可能。車両を発進させると② **AUTO** による点灯状態に切りかわります。

消灯のしかた

☀ スイッチを③  の位置で2秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に①  か③  の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。



CTP43BQ077

※ スイッチを③  の位置へ操作し手を離すと、自動的に② **AUTO** の位置へ戻ります。

ポジション	点灯状態	
	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
③ 	ヘッドランプ・スモールランプが消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯※

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・メーター照明・番号灯・リヤホイール灯を意味します。

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

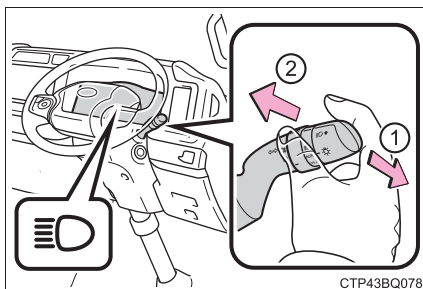
ハイビームにする

- ① ランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

- ② レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

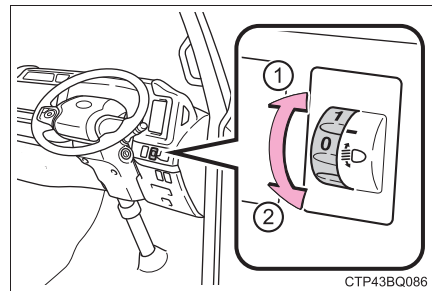


CTP43BQ078

手動光軸調整ダイヤル

乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

- ① 上向きに調整
- ② 下向きに調整



■ 目盛り設定の目安

乗員や荷室の積載条件	ダイヤル位置
運転者のみ乗車時	0
運転者のみ乗車時で、かつ最大積載時	1.5

□ 知識

■ AUTO モードの作動条件

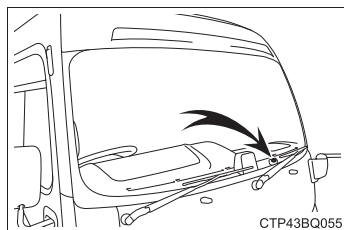
エンジンスイッチが“ON” のとき

■ 自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチを“ACC”または“LOCK”にするとすべてのランプが自動的に消灯します。再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチを“ON”にするか、一度ランプスイッチを **AUTO** にしてから OFF または ON の位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

ランプ消灯後、再度ランプを点灯させ、エンジンスイッチからキーを抜いて運転席ドアを開けた場合、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチが“ACC”または“LOCK”の状態でもヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後にすべてのランプが自動消灯します。次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き、約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

- エンジンスイッチを“ON”にしたとき
- ランプスイッチを操作したとき
- ドアを開閉したとき

■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
(→ P. 385)

⚠ 注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

AHB（オートマチックハイビーム）

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス下部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

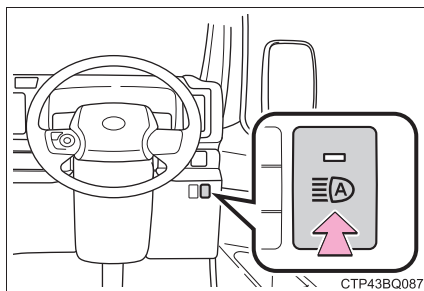
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■ オートマチックハイビームの誤操作を防ぐために

システムを OFF にする必要があるとき：→ P. 160

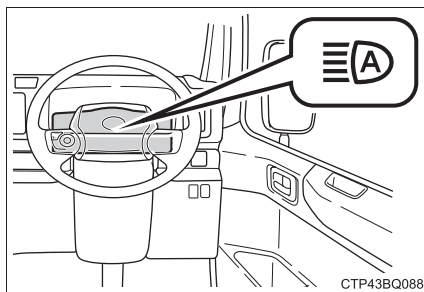
オートマチックハイビームの使い方

- 1 オートマチックハイビームスイッチを押す



- 2 ランプスイッチを **AUTO** または  にする

レバーがロービームの位置にあるとき、オートマチックハイビームシステムが作動し、AHB 表示灯が点灯します。





知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。

- ・ 車速が約 30km/h 以上
- ・ 車両前方が暗い
- ・ 前方にランプを点灯した車両がない
- ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

- 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

- ・ 車速が約 25km/h 以下
- ・ 車両前方が明るい
- ・ 前方車両がランプを点灯している
- ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■前方カメラの検知について

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。

- ・ 車両が割り込んできたとき
- ・ 他車が前方を横切ったとき
- ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
- ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- ・ 前方車両が遠方を走行しているとき
- ・ 前方車両が無灯火のとき
- ・ 前方車両のランプ類の照度が低いとき
- ・ 前方車両が自車のヘッドランプなどの強い光を反射しているとき
- ・ センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→ P. 164

- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

- 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。

- ・ 前方車両のランプの明るさ
- ・ 前方車両の動きや向き
- ・ 前方車両との車間距離
- ・ 前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
- ・ 前方車両が二輪車のとき
- ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
- ・ 乗車人数や荷物の量

- ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
 - ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
 - ・ 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
 - ・ ハイビームとロービームをひんばんに切りかえているとき
 - ・ ハイビームの点灯が不適切と思われるとき、またはほかの運転者・付近の歩行者の迷惑になるとと思われるとき
 - ・ システムを OFF にする必要があるとき：→ P. 160
 - ・ センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→ P. 164

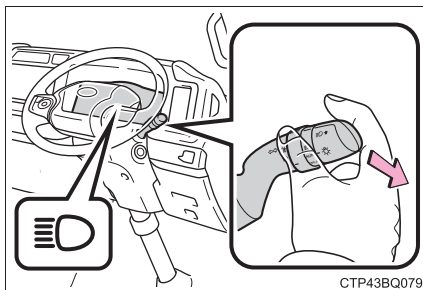
手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

AHB 表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。



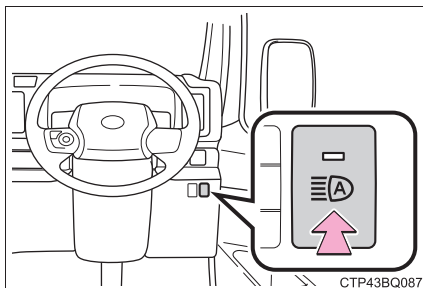
CTP43BQ079

■ ロービームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

AHB 表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度オートマチックハイビームスイッチを押します。



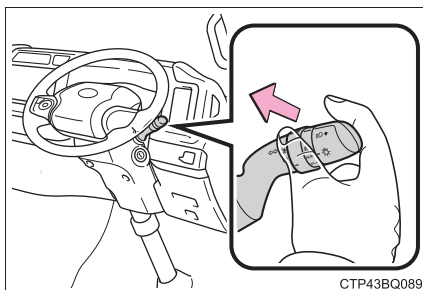
CTP43BQ087

一時的なロービームへの切りかえ

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。



CTP43BQ089

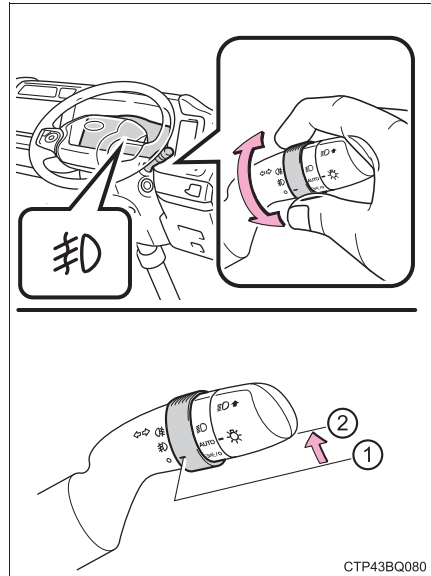
フォグランプスイッチ

雨や霧などの悪天候下での視界を確保します。

操作のしかた

▶ フロントフォグランプ

- ① ○ 消灯する
- ② ㊦ 点灯する



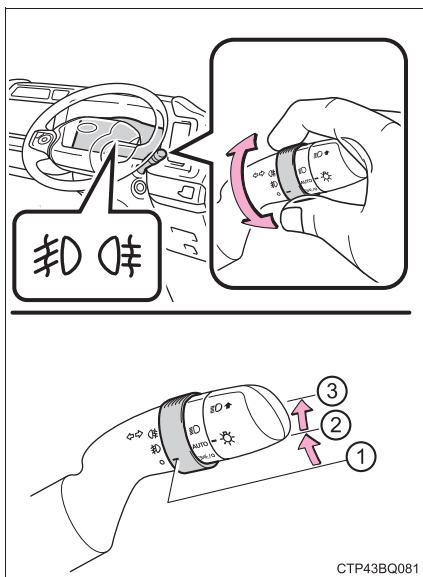
CTP43BQ080

▶ フロント&リヤフォグランプ★

- ① ○ 消灯する
- ② ㇀ フロントフォグランプを点灯する
- ③ ㇁ リヤフォグランプを点灯する

手を離すと㇀の位置までもどります。

再度操作すると消灯します。



知識

■点灯条件

フロントフォグランプ：ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプ：フロントフォグランプが点灯しているときに使用できます。

■リヤフォグランプについて

- リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧、雪などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なき以外は使用しないでください。

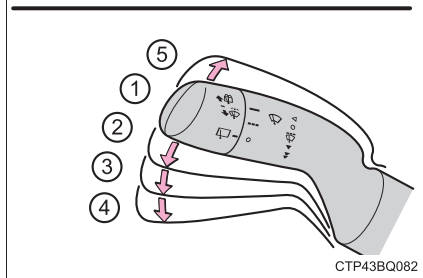
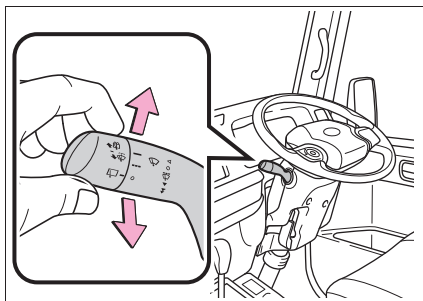
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

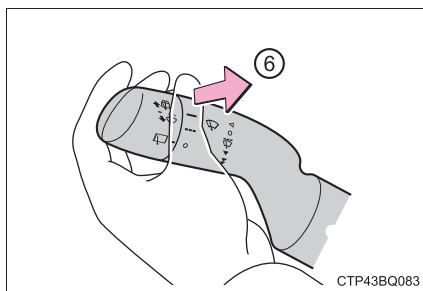
操作のしかた

次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

- ① ○ 停止
- ②  間欠作動
- ③ ▼ 低速作動
- ④ ▼▼ 高速作動
- ⑤ ▲ 一時作動



- ⑥  ウォッシャー液を出す
レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが “ ON ” のとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 警告

■ ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ フロントウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったときは

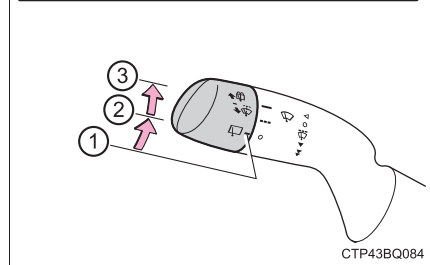
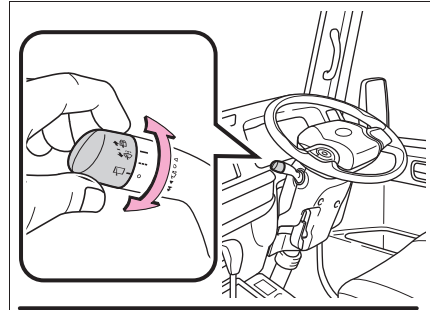
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパー&ウォッシャー（リヤ）★

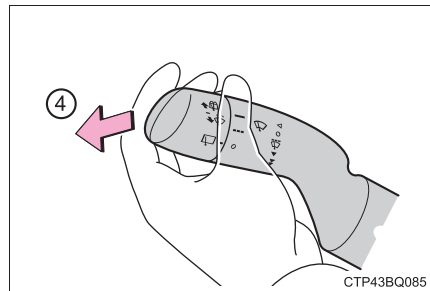
操作のしかた

次のように  スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。

- ① ○ 停止
- ② --- 間欠作動
- ③ — 通常作動



- ④  ウォッシャー液を出す
ワイパーが連動して作動します。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが “ ON ” のとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ リバース連動機能

フロントワイパーが作動中、シフトレバーを R に入れるとリヤワイパーが 1 回作動します。

 注意

■ リヤガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったらときは

ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

給油口の開け方

給油する前に

- すべてのドアとサイドガラスを閉め、エンジンスイッチを“LOCK”にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。

知識

■ 燃料の種類

超低硫黄軽油（S10ppm 以下）

警告

■ 給油するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。

静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がある場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。

すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。

- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

 注意**■ 給油するとき**

指定の軽油を使用してください。

指定以外の軽油や、他の燃料（ガソリン・灯油・高濃度バイオ混合軽油※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

次のような状態になるおそれがあります。

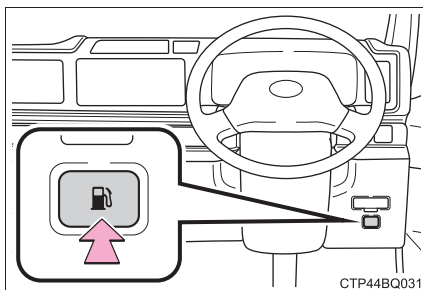
- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する
- 排出ガス浄化装置が正常に機能しない

指定以外の軽油を補給すると、白煙が発生し続ける場合があります。また、排出ガス浄化装置の故障につながるおそれがあります。

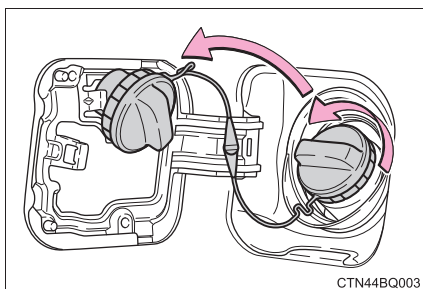
※ 脂肪酸メチルエステル混合率 5%をこえるもの

給油口の開け方

- 1** 給油扉オープナーを押して、給油扉を開ける



- 2** キャップをゆっくりまわして開け、ハンガーにかける

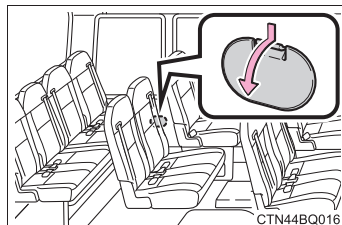


知識

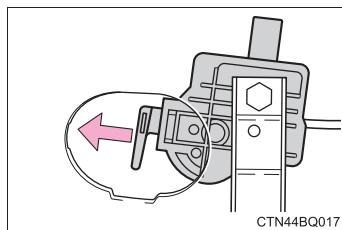
■ 給油扉が開かないとき

給油口オープナーを押しても給油扉が開かないときは、次の方法で開けることができます。

- 1 最後部座席足元（最後席シート搭載車）またはラゲージルーム（最後席シート非搭載車）のカバーを取りはずす



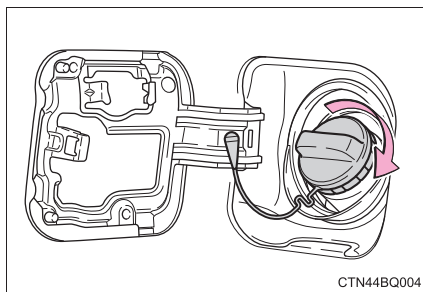
- 2 レバーを引き、給油扉が開いたことを確認する



給油口の閉め方

キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



 警告**■ キャップが正常に閉まらないとき**

必ずトヨタ販売店へご連絡ください。

正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Toyota Safety Sense

Toyota Safety Sense は、運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

警告

■ Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■ 安全にお使いいただくために

- システムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。本システムはあらゆる状況で動作するものではなく、支援には限界があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- お客様ご自身で作動テストを行わないでください。対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。ディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。
- 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。

 警告**■ システムを OFF にする必要があるとき**

次のときは、システムを OFF にしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過積載やパンクで車両が傾いているとき
- 過度な高速走行をしているとき
- けん引時
- トラック／船舶／列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、タイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- 洗車機を使用するとき
- センサーやセンサー周辺への衝撃などによりセンサーの向きがずれているとき、変形しているとき
- センサーやライトをさえぎるような装備品を装着しているとき
- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき、タイヤパンク応急修理キットで修理したとき
- タイヤの残り溝が十分でないとき、または空気圧が不足しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 事故や故障などにより走行不安定なとき

◆ PCS（プリクラッシュセーフティ）

→ P. 167

◆ LDA（レーンディパーチャーアラート）

→ P. 178

◆ 発進遅れ告知機能

→ P. 183

◆ AHB（オートマチックハイビーム）

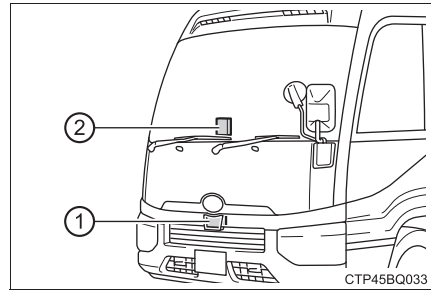
→ P. 145

Toyota Safety Sense で使用するセンサー

複数のセンサーにより、システムの作動に必要な情報を認識します。

■ 周囲の状況を検出するセンサー

- ① 前方レーダー
- ② 前方カメラ



⚠ 警告

■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

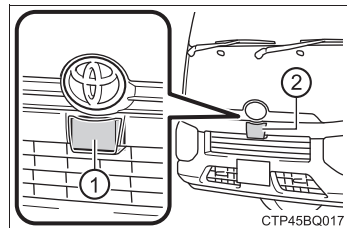
お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布で汚れをふき取ってください。

- ① レーダー
- ② レーダー専用カバー



● レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

● レーダー周辺への強い衝撃を避ける

レーダー／フロントグリル／フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

● レーダーを分解しない

警告

- レーダーやレーダー専用カバーを改造、塗装したりしない。純正部品以外に交換しない。
- 次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
 - ・ レーダーを脱着や交換したとき
 - ・ フロントバンパー／フロントグリルを交換したとき

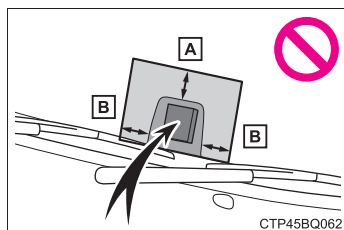
前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく
 - ・ フロントウインドウガラス外側に汚れ／油膜／水滴／雪などが付着した場合は、取り除いてください。
 - ・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用しているも、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
 - ・ フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない

A: 約 4cm
 B: 約 4cm



- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する

 警告

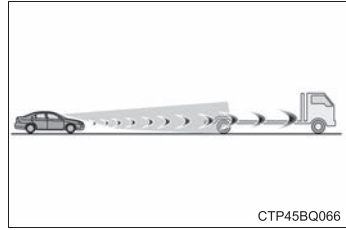
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない
- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インストルメントパネルなどの前方カメラ周辺部品を改造しない
- フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

 知識

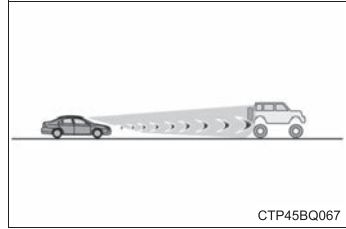
■ センサーやシステムが正しく作動しないおそれがあるとき

- 車両の高さや傾きが変わるような改造をしているとき
- フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき、ひび割れや破損があるとき
- 外気温が高温または低温のとき
- センサー前面に泥、雨滴、雪、虫、ゴミなどが付着したとき
- 悪天候時（雨・霧・雪・砂嵐など）
- 前方に水／雪／土ぼこりなどの巻き上げや水蒸気・煙があるとき
- 夜間やトンネル内など暗い場所でヘッドランプを点灯していないとき
- ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いとき
- ヘッドランプの光軸がずれているとき
- ヘッドランプが故障しているとき
- 対向車のヘッドランプ光／太陽光／反射光などが前方カメラに入射しているとき
- 急激な明るさの変化があるとき
- テレビ塔／放送局／発電所／レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき
- ワイパーブレードがセンサーの視界をさえぎっているとき
- 周囲に次のようなレーダーの電波を反射するものがあるとき
 - ・ トンネル
 - ・ トラス橋
 - ・ 砂利道
 - ・ 轍のある雪道
 - ・ 壁
 - ・ 大型トラック
 - ・ マンホール
 - ・ ガードレール
 - ・ 鉄板
- 周囲に段差や突起物があるとき
- 超小型モビリティなどのように対象車両の全幅が狭いとき
- 空荷のトラックなど対象車両の前端・後端面積が小さいとき

- 低床トレーラーなど対象車両の前端・後端が低い位置にあるとき



- 対象車両の最低地上高が極端に高いとき



- 対象車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
- 対象車両の一部が布で覆われているなど金属の露出が少ない車両のとき
- トラクター・サイドカーなど対象車両が特殊な形状のとき
- 対象車両との車間距離が極端に短くなったとき
- 対象車両の位置がずれている場合
- 対象車両に雪や泥などが付着している場合
- 次のような道路を走行しているとき
 - ・ 急なカーブや曲がりくねった道
 - ・ 急な上り坂や下り坂など、路面勾配が変化する道
 - ・ 左右に傾きのある道
 - ・ 路面に深いわだちがある道
 - ・ 整備されていない荒れた道
 - ・ 起伏や段差が多い道路
- ハンドル操作が不安定な場合
- 車線内での自車の位置が一定でない場合
- 本システム部品もしくはブレーキ等の関連部品が冷えている・過熱している・ぬれているなど
- ホイールアライメントがずれているとき
- 凍結路・積雪路・砂利道などのすべりやすい路面を走行するとき
- カーブの形状とは異なる経路で走行するとき
- カーブに対して進入速度が過度に高いとき
- 駐車場や車庫、カーエレベータなどに出入りするとき
- 駐車場内を走行するとき

- 生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など自車に覆い被さるような障害物がある場所を走行するとき
- 風が強いとき

■ 車線を検知できないおそれがあるとき

- 車線の幅が極端に狭い、または広いとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 工事によって規制された車線、または仮設の車線を走行しているとき
- 周囲に車線もしくは類似の構造物、模様、影があるとき
- 同一車線上に複数の白線があるとき
- 車線が明瞭でないとき、濡れた路面を走行しているとき
- 車線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような照り返しなどで明るい路面を走行しているとき

■ システムの一部もしくは全てが作動しないとき

- 本システムもしくはブレーキ、ステアリング等関連システムに異常検出時
- VSC、TRC 等の安全システムが作動時
- VSC、TRC 等の安全システムが OFF の時

■ ブレーキの作動音や踏み応えの変化について

- ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。
- システムの制御によるブレーキ作動中はブレーキペダルがお客様の想定よりも固く感じられたり、ブレーキペダルが沈みこんだりすることがあります。どちらの場合もブレーキの踏み増しは可能です。必要に応じてブレーキを踏み増ししてください。

■ レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→ P. 168）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON/OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→ P. 177）

警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・ 安全にお使いいただくために：→ P. 159

■ プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

システムを OFF にする必要があるとき：→ P. 160

システムの作動対象

システムは次のものを作動対象として検出しています。(機能によって、作動対象が異なります)

- 車両
- 自転車 ※
- 歩行者
- 自動二輪車 ※
- 壁

※ 人が乗車している場合のみを作動対象としています。

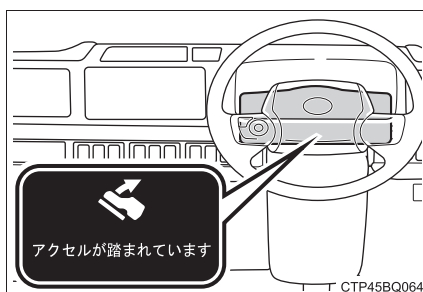
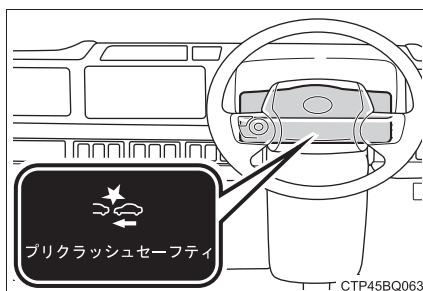
機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ…”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンとメッセージを表示し、回避操作をうながします。

作動対象が車両の場合、緩ブレーキによる警告も行います。

アクセルが強く踏み込まれているとシステムが判断した場合は、図で示すアイコンとメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



■ ブリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、運転者のブレーキ操作で不足しているブレーキ力を増強します。

■ ブリクラッシュブレーキ

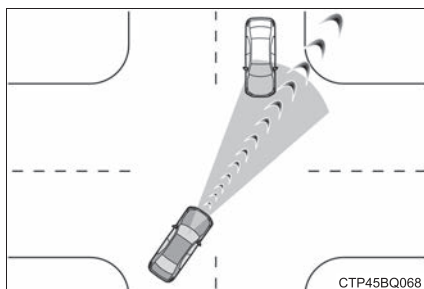
衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

■ 交差点衝突回避支援（右左折）

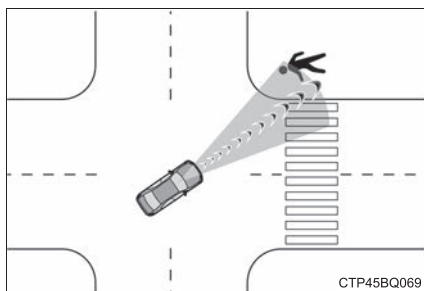
次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびブリクラッシュブレーキによる支援を行います。

交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

- 交差点で右折して対向車／対向自動二輪車の進路を横切るとき

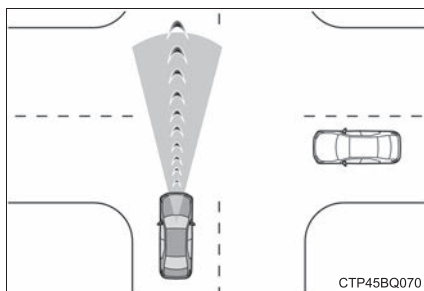


- 右左折中に、横断歩行者や、自転車を検出したとき



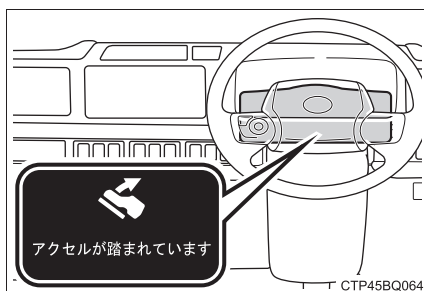
■ 交差点衝突回避支援（出合頭車両）

交差点など、側方から接近する車両や自動二輪車との衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。



■ 低速時加速抑制

低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとシステムが判断したとき、エンジン出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告灯とメッセージを表示します。



 警告**■プリクラッシュブレーキについて**

- プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。
- プリクラッシュブレーキは停止状態を保持する機能ではありません。プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、必要に応じて速やかに運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない、または作動が解除される場合があります。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない、または作動が解除される場合があります。

 知識

■プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件

プリクラッシュセーフティがONで、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

- バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- シフトレバーがRのとき
- VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 180km/h
対向車両	約 30 ～ 180km/h	約 80 ～ 220km/h
自転車	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
歩行者	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 80km/h
対向自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 30 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h
歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 10 ～ 80km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 180km/h
対向車両	約 30 ～ 180km/h	約 80 ～ 220km/h
自転車	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
歩行者	約 5 ～ 80km/h	約 5 ～ 80km/h
先行自動二輪車、静止自動二輪車	約 5 ～ 180km/h	約 5 ～ 80km/h
対向自動二輪車	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

- ・ アクセルペダルを強く踏み込む
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●交差点衝突回避支援（右左折）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 5 ～ 40km/h	約 5 ～ 75km/h	約 10 ～ 115km/h
歩行者	約 5 ～ 30km/h	－	約 5 ～ 40km/h
自転車	約 5 ～ 30km/h	－	約 5 ～ 50km/h
対向自動二輪車	約 5 ～ 40km/h	約 5 ～ 75km/h	約 10 ～ 115km/h

●交差点衝突回避支援（出合頭車両）

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
車両、自動二輪車（側面）	約 5 ～ 60km/h	・ 自車速度以下 ・ 約 40km/h 以下	約 5 ～ 60km/h

●低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両、静止車両、歩行者、自転車、壁	約 0 ～ 15km/h	約 0 ～ 15km/h

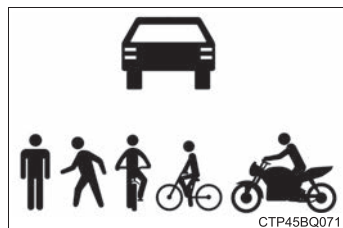
低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

- ・ アクセルペダルを離す
- ・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

■ 作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

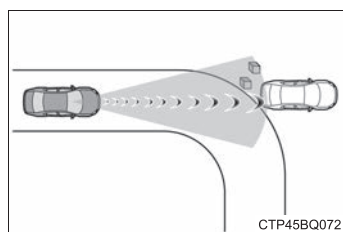
図は作動対象として検出する対象のイメージです。



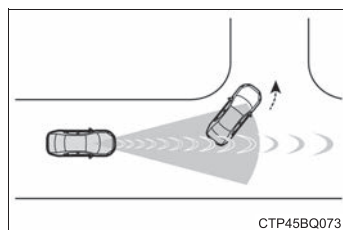
■ 衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

- 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります

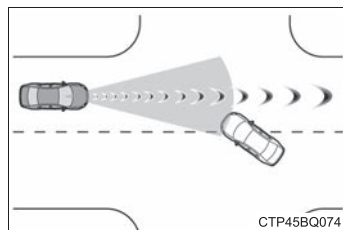
- ・ 作動対象などのすぐそばを通過するとき
- ・ 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- ・ 作動対象などに急接近したとき
- ・ 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
- ・ カーブの道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



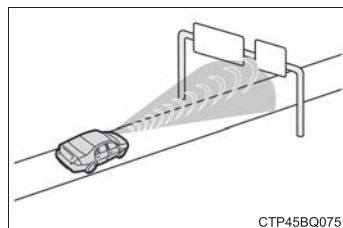
- ・ 自車の前方に作動対象との区別が付きにくい模様・ペイントがあるとき
- ・ 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



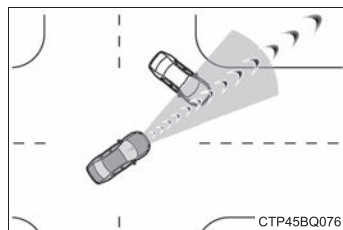
- ・ 右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



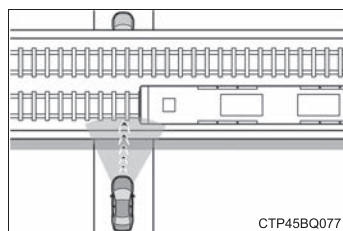
- ・ 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止または進路変更したとき
- ・ 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



- ・ ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
- ・ 右左折中に、対向車／対向自動二輪車／横断歩行者／横断自転車が自車の前方を通過したとき
- ・ 右左折中に、対向車／対向自動二輪車／横断歩行者／横断自転車の手前を通過しようとしたとき
- ・ 右左折中に、対向車／対向自動二輪車／横断歩行者／横断自転車が自車進路に入る手前で停止または進路変更したとき
- ・ 交差点内で右折中、対向車／対向自動二輪車が右折しているとき、または左折しているとき



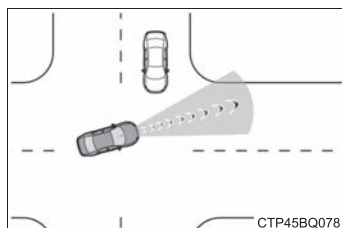
- ・ 対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
- ・ 道路上方／下方を移動するものがあるとき



■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

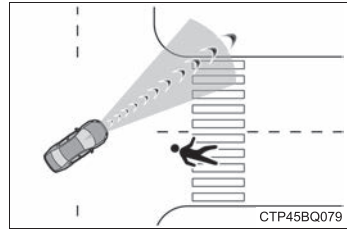
- 例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- ・ 自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
- ・ 自車や作動対象がふらついているとき
- ・ 作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・ 作動対象に急接近したとき
- ・ 作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
- ・ 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- ・ 作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
- ・ 作動対象が複数重なっているとき
- ・ 作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
- ・ 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- ・ 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- ・ 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- ・ 斜めを向いている前方車両に近付いたとき
- ・ 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、前傾姿勢で乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
- ・ 歩行者・自転車の大きさが約1m以下、または約2m以上のとき
- ・ 歩行者・自転車の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- ・ 歩行者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- ・ 歩行者・自転車の移動速度が速いとき
- ・ 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- ・ 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
- ・ エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- ・ 右左折中および右左折後の数秒間
- ・ カーブ走行中およびカーブを曲がりきってから数秒間
- ・ 右折中に、対向車／対向自動二輪車が自車の走行する車線よりも3つ以上離れた車線を走行しているとき
- ・ 右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき



CTP45BQ078

- ・ 右左折中に、横断歩行者／横断自転車が自車と同じ方向から直進して近づいてくるとき
- ・ 右左折中に、歩行者や自転車が自車の後方から追い抜くように前方にでてくるとき



- ・ 交差点で出会い頭に大型トラック／牽引トレーラーなど全長の長い車両が接近してくるとき
- 上記に加えて、例えば次のような状況では壁を作動対象として検知できず、低速時加速抑制が作動しないおそれがあります。
 - ・ ガラス扉や網目状のフェンスなど壁の背面が透けているとき
 - ・ 壁が傾いていたり、高さが低いとき
 - ・ 壁がポールなど幅の狭いもののとき
 - ・ 壁が生垣など草木のとき
 - ・ 壁に路面などが映りこんでいるとき
 - ・ 自車が壁に斜めに近づくとき

PCS の設定を変更する

- PCS の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→ P. 385)
エンジンスイッチが ON になるとシステムは ON になります。
- システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- カスタマイズ設定から、PCS の設定を変更することができます。(→ P. 385)

LDA（レーンディパーチャーアラート）

基本機能

車線または走路※からの逸脱の可能性を警告します。

車線または走路※を前方カメラで認識します。

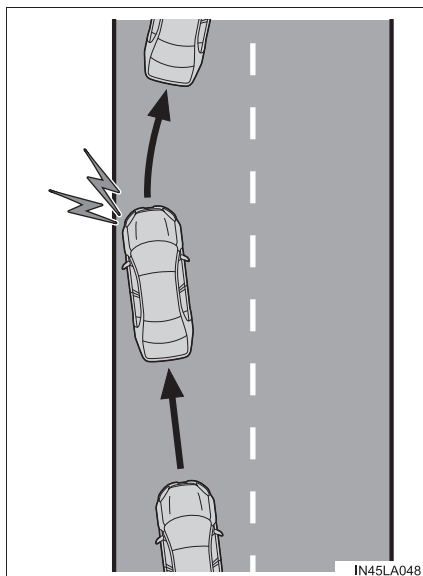
※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合にディスプレイの表示および、警報ブザーにより注意をうながします。

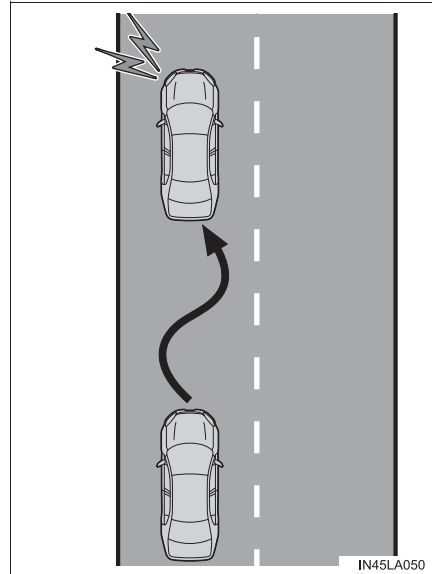
道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、車線または走路※内の中央付近にもどってください。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体



■ 休憩提案機能

車両がふらついて走行しているときに、ディスプレイの表示およびブザーにより休憩をうながします。



⚠ 警告

■ LDA をお使いになる前に

- LDA を過信しないでください。LDA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたときに作動します。

- ・車速が約 50km/h 以上のとき

車線の周囲に車両、自動二輪車、自転車、歩行者を検知した場合は約 40km/h 以上のときに作動することがあります。

対象が縁石、ガードレールなどの構造体の場合は約 35km/h 以上のときに作動します。(カスタマイズメニューで低車速支援を作動にしたとき)

- ・システムが車線または走路※を認識しているとき(車線または走路※が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します)
- ・車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・方向指示レバーを操作していないとき
- ・急カーブを走行していないとき
- ・一定以上の加減速がないとき
- ・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・VSC または TRC を OFF にしていないとき

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

■機能の一時解除

作動条件(→ P. 180)が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■車線逸脱警報機能の作動について

- 走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報が作動しない場合があります。
- 意図的に歩行者や駐車車両を避けたと判断した場合に警報が作動しない場合があります。

※ アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体

■休憩提案機能について

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- 車速が約 50km/h 以上のとき
- 車線の幅が約 3m 以上のとき

車両の状態や路面状況によっては休憩提案が行われない場合があります。



CTP45BW137

LDA の設定を変更する

- LDA の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→ P. 385)
エンジンスイッチが ON になるとシステムは ON になります。
- カスタマイズ設定から、LDA の設定を変更することができます。(→ P. 385)

警告

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- アスファルトと草・土などの境界や、縁石、ガードレールなどの構造体が不明瞭または直線的でないとき
- 横風を受けているときなど、周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線を検知できないおそれがあるとき：→ P. 166
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→ P. 164
- システムの一部もしくは全てが作動しないとき：→ P. 166
- システムを OFF にする必要があるとき：→ P. 160

ディスプレイ表示とシステムの作動状況

車線逸脱警報の作動状態をディスプレイ表示で示します。

表示灯	車線表示	状態
 黄色 点灯	消灯	システムが非作動
消灯	 灰色	システムが車線を認識していない
消灯	 白色	システムが車線を認識している
 黄色 点滅	 黄色 点滅	点滅している側の車線に対して車線逸脱警報機能が作動中

発進遅れ告知機能

先行車の発進または信号が青にかかったあと、自車が停止し続けた場合、告知音とマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止中、先行車が発進しても停止し続けた場合にお知らせします。

信号切替り告知機能

交差点の先頭で停止中、信号が青（方向指示器と同一方向の青矢印信号も含む）にかわっても停止し続けた場合にお知らせします。



知識

■ 作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- シフトレバーが P・R 以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトレバーが N で停止しているとき

■ 発進遅れ告知機能が正しく作動しない恐れがある状況

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 先行車がオートバイ・自転車などのとき
- 車両や樹木、看板などにより信号を正しく認識できないとき
- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき
- センサーが正しく作動しないおそれがあるとき：→ P. 164

■ 先行車が発進していなくても告知する場合があります

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- 先行車がない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自転車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき
- 自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■ 信号機が青にかわっていても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、信号が青にかわったと判断し、システムが作動する場合があります。

- 道路標識や看板などの信号機でないものを信号機と認識した場合
- 歩行者用、または自転車用の信号機の形状が自動車用と似ている場合
- 交差側や遠くの交差点にある信号機など、自車の対象ではない信号機を認識した場合
- 日照条件などにより、正しく自車対象の信号機を判別できない場合

システムの ON / OFF を変更する

発進遅れ告知機能の作動／非作動は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→ P. 386)

発進遅れ告知機能の設定を変更する

カスタマイズ設定から発進遅れ告知機能の設定を切りかえることができます。(→ P. 386)

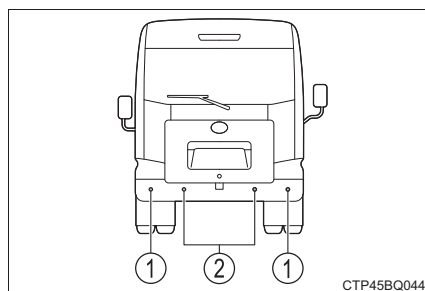
クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、マルチインフォメーションディスプレイの距離表示とブザー音で運転者にお知らせします。

システムの構成部品

■ センサーの種類

- ① リヤコーナーセンサー
- ② リヤセンターセンサー

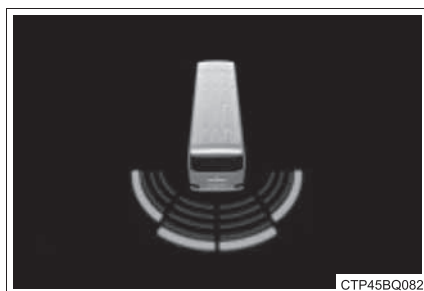


■ クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

イラストは説明のための例であり、仕様により異なります。

- マルチインフォメーションディスプレイの表示



■ クリアランスソナー検知表示灯★

静止物を検知するとクリアランスソナー検知表示灯が点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識**■ クリアランスソナー検知表示灯の有無について**

クリアランスソナーが OFF の状態でシフトポジションを R にしたとき、クリアランスソナー OFF 表示灯 (→ P. 186) が消灯する車両はクリアランスソナー検知表示灯があります。

クリアランスソナーの ON / OFF を切りかえるには

クリアランスソナーの ON / OFF は、カスタマイズメニューから切りかえることができます。(→ P. 385)

クリアランスソナー機能が OFF のときは、クリアランスソナー OFF 表示灯 (→ P. 52) が点灯します。

OFF (非作動) に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、カスタマイズメニュー (→ P. 385) から ON (作動) に切りかえないとシステムは復帰しません。

(エンジンスイッチを “LOCK” にしたあとで再度 “ON” にしても、復帰しません)

クリアランスソナー検知表示灯がある車両は、シフトポジションを R にすると自動的に ON (作動) になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。

このとき、クリアランスソナー機能の ON / OFF を切りかえることができません。

クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

 警告**■安全にお使いいただくために**

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。守れないときはシステムを OFF してください。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けしないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。リヤバンパーの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けしないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- 純正品以外のサスペンションを取り付けしないでください。

■洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

 知識

■ 作動条件

- エンジンスイッチが“ON” のとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- シフトポジションが R にあるとき
- クリアランスソナー検知表示灯がある車両は、シフトポジションを R にすると、クリアランスソナー機能を OFF（非作動）に設定している場合でも、自動的に ON（作動）になり、クリアランスソナー OFF 表示灯が消灯します。
クリアランスソナー機能の設定自体は変更されません。

■ センサーの検知について

- センサーの検知範囲は車両後部のバンパー周辺に限られます。
- 静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。
- センサーが静止物に近付きすぎると検知できないことがあります。
- 静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。
- オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- 他システムのブザーの音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。
- メーター故障時はブザーの音が鳴らないことがあります。

■ システムが正しく検知できないことがある静止物

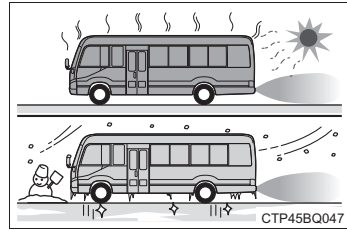
静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの
- 鋭角的な形のもの
- 背の低いもの
- 背が高く上部が張り出しているもの
特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。
- 炎天下や寒冷時

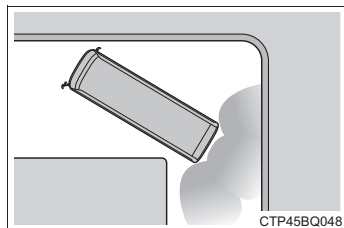


- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- センサーに静止物が近付きすぎたとき
- 超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき
- 風が強いとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 作動対象物と車両のあいだに検知できない対象物があるとき
- 車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

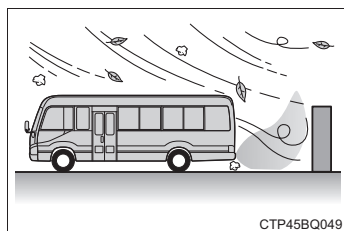
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 狭い道路を走行するとき

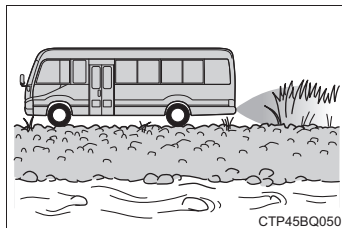


- 垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETCのバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- 地面にわだちや穴があるとき
- 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
- 急な登坂路や降坂路を走行するとき
- 冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき
- センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- 大雨や水しぶきがかかったとき
- 霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき
- 風が強いとき



- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- 衝突などで、センサーの方向がずれたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱（H形鋼など）の付近を走行するとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき

- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

距離表示の見方

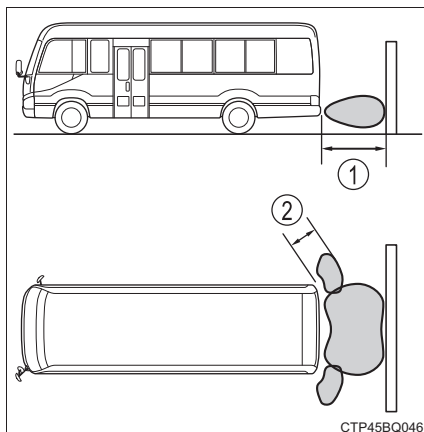
■ 静止物を検知できる範囲

① 約 150cm

② 約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。
ただし、静止物がセンサーに近付き
すぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検
知できる距離が短くなることや、検
知できないことがあります。



■ 検知距離とブザー音

静止物までのおおよその距離	ブザー音
リヤセンターセンサー： 約 150cm ～ 60cm	断続音
約 60cm ～ 45cm	速い断続音
約 45cm ～ 30cm	非常に速い断続音
約 30cm 以下	継続音

ブザー音

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。



知識

■ ブザー音量調整

カスタマイズメニューから、クリアランスソナーの音量を切りかえることができます。(→ P. 385)

■ ブザー音の一時ミュート（消音）について

マルチインフォメーションディスプレイに一時ミュート（消音）スイッチが表示されているときにこのスイッチを押すと、一時的にブザー音を消すことができます。

クリアランスソナーのブザー音がミュート（消音）されます。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

◆ ヒルスタートアシストコントロール（教習車を除く）

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

◆ 緊急ブレーキシグナル

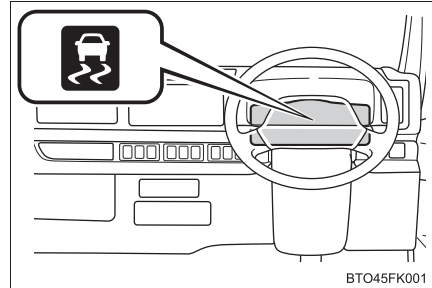
急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

◆ セカンダリーコリジョンブレーキ

SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

TRC・VSC が作動しているとき

TRC・VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



TRC を停止するには

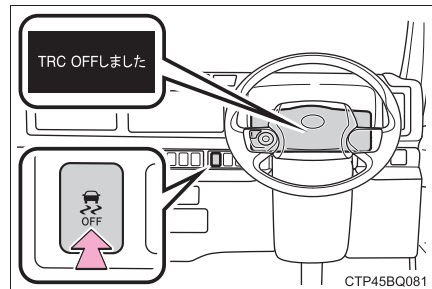
ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに  を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには  を押す

マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFFしました」と表示されます。

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。



 知識

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に  を押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF しました」と表示されます。※

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ ブリクラッシュブレーキアシスト・ブリクラッシュブレーキも停止します。
PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。(→ P. 167)

■ を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに「TRC OFF しました」が表示されたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はトヨタ販売店にご相談ください。

■ ヒルスタートアシストコントロール（教習車を除く）の作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトレバーの位置が P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない
- エンジンスイッチが “ON”

■ ヒルスタートアシストコントロール（教習車を除く）の自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトレバーを P または N のシフト位置にした
- アクセルペダルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルを踏んで、かつパーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大 2 秒経過した
- エンジンスイッチを “LOCK” (OFF) にした

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール（教習車を除く）の作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがあります。異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・車体やハンドルに振動を感じる
 - ・車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ABSの作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ABSの作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■TRCやVSCの自動復帰について

TRCやVSCを作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

- エンジンスイッチを“LOCK”（OFF）にしたとき
- （TRCのみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき

ただし、TRCとVSCの作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上
- 車両の減速度から急ブレーキであるとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- 車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中にSRSエアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。

ただし構成部品が破損した場合システムは作動しません。

■セカンダリーコリジョンブレーキの自動解除

次のいずれかのとき自動的にシステムが解除されます

- 車速が約 0km/h になったとき
- 作動して一定時間経過したとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

 警告**■ ABS の効果を発揮できないとき**

- タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき(雪で覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど)
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ ヒルスタートアシストコントロール(教習車を除く)の効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

 警告**■ タイヤまたはホイールを交換するときは**

6 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→ P. 380）異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■ セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬の前の準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
 - ・ 燃料
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（6 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を使用してください。

タイヤは 6 輪とも同一サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→ P. 280）

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- 外装ランプ・アウターミラー・ドアガラス・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、必ず輪止めをしてください。(→ P. 338)
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かないこと※を確認してください。
※ ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。



知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 後4輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
- 取り付け後0.5～1.0km走行したら締め直しを行う

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

■燃料について

軽油は外気温が低温になると凍結し、燃料配管のつまりなどの故障の原因となります。寒冷地へ行くときは、現地に着くまでに燃料残量を半分以上にしておき、現地に着いたら寒冷地用燃料を補給してください。

使用燃料	使用限界温度の目安※
JIS 2 号軽油	－ 5℃
JIS 3 号軽油	－ 12℃
JIS 特 3 号軽油	－ 19℃

※ 環境や使用状況により異なります。

⚠ 警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 6 輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

 注意**■ タイヤチェーンの使用について**

この車両に適合したトヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
なお、トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。市販のタイヤチェーンを使用する場合は、車体に干渉しないことをあらかじめご確認ください。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■ フロントウィンドウガラスに付いた氷を除去するときは

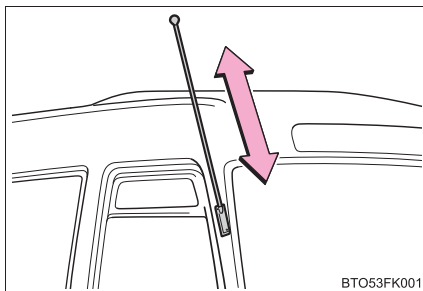
たたいて割らないでください。
ウィンドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

オーディオ**5**

5-1. ラジオの使い方	
アンテナ	206
5-2. マイク／マイクアンプの 使い方	
マイク／マイクアンプの 使い方	207
5-3. 後席ディスプレイの 使い方	
後席ディスプレイの 使い方	208

アンテナ

ラジオ使用時は、いっぱいまで引き出してください。



注意

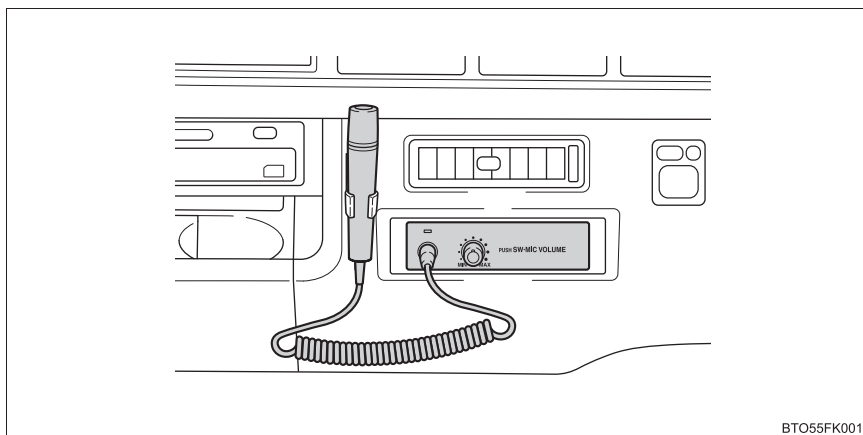
■ アンテナの損傷を防ぐために

次のようなときはアンテナを格納してください。

- 車庫の天井などにアンテナがあたるとき
- カーカバーをかけるとき
- 自動洗車機で洗車するとき

マイク／マイクアンプの使い方★

マイクをマイクアンプの挿し込み口に挿し込んで使用してください。



マイクアンプの使い方

■ 電源の ON / OFF

スイッチを押して、電源の ON と OFF を切りかえる

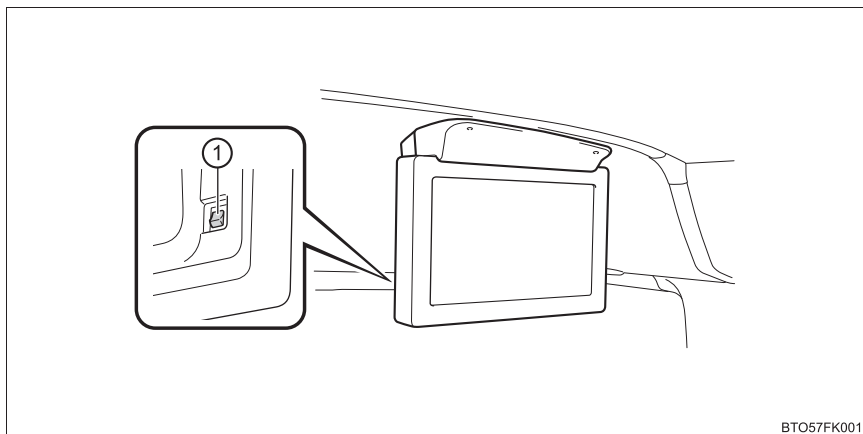
■ 音量の調整

音量を大きくするときはずまみを右に、小さくするときには左にまわす

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

後席ディスプレイの使い方★

販売店オプションのナビゲーションシステムに表示されているオーディオの映像を、後席ディスプレイに表示させることができます。



- ① 電源の ON / OFF

後席ディスプレイの手入れ

後席ディスプレイはやわらかい乾いた布で軽くふいてください。汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤をやわらかい布に付けてふき取り、乾いた布で仕上げてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

こんなときは

次のようなときは、映像が映りにくくなることがありますが、異常ではありません。

症状	車両の状態
・ 揺れる ・ 雑音が入る ・ 2重3重になる(ゴースト)	・ ビルとビルの間を走行または停車しているとき ・ 飛行機が飛んでいるとき、電車の近くを走行しているとき ・ 送電線の付近を走行しているとき ・ 山や木立の影に入ったとき
・ 雑音が入る ・ モニターの映りがだんだん悪くなり、雑音が入る ・ 色が出たり、消えたりする	・ 山影または、放送局から遠いところにいるとき ・ トンネル付近を走行しているとき
・ 画面に斑点が出る	・ 自転車・バイク・高圧線・ネオンサインなどの近くを走行しているとき
・ 色縦模様が出たり色が消える	・ ラジオ放送・アマチュア無線局の送信アンテナの近くを走行しているとき ・ カー無線を取り付けると、画面に色縦模様が出たり、雑音が出ることがあります。

故障とお考えになる前に

ちょっとした操作違いで故障と間違えることがありますので、次の表にもとづき、まず確認してください。

処置をしても直らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

症状	考えられること	処置
画面に小さい斑点や輝点がある	液晶モニター特有の現象です。液晶パネルは非常に高密度の高い技術で作られており、99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや常時点灯するものが生じることがあります。	故障ではありませんので、そのままご使用ください。

 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが“ON” のとき

■ 後席ディスプレイについて

- 使用しないときは、電源スイッチを OFF にしてください
- 液晶モニターは、斜め方向から見ると画面が白っぽく見えたり、黒っぽく見えたりします。
- モニターを見ているときに、車内または車の近くでデジタル式携帯電話を使用した場合、モニターのスピーカーからノイズ（雑音）が聞こえることがあります。異常ではありません。
- 太陽の光などの外光が画面にあたると、画面が見にくくなります
- 偏光レンズを使用したサングラスなどを装着すると、画面が暗く見えたり、見にくくなったりします。
- モニターに磁石類を近付けると、画面の色が乱れる原因となります。

■ きれいな映像・音声を楽しむためには

- 後席ディスプレイの電源が入っていると、ラジオに雑音が入ることがあります。ラジオを聞くときはモニターの電源を OFF にしてください
- AV システムの近くで無線機・電話などを使用すると、雑音や誤作動の原因となることがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

 警告

■ 後席ディスプレイの手入れについて

樹脂加工部に、ベンジンやシンナーなどの溶剤を使用しないでください。部品変形により故障し、火災などの原因となるおそれがあります。

 注意**■ バッテリーあがりを防ぐために**

エンジン停止中に長時間使用しないでください。

■ 後席ディスプレイについて

- 走行中に操作するときは、安全に十分な配慮をして操作してください。
- 安全運転をさまたげないように適度な音量でお聞きください。

■ 後席ディスプレイの手入れについて

水をかけないでください。故障の原因となります。

室内装備・機能

6

6-1. エアコン・デフォグガーの使い方

フロントヒーター	214
クーラー	220
リヤヒーター	223
オートエアコン	225
パワーヒーター	233
アイドルアップ	234

6-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	235
・フロントパーソナル ランプ	236
・ルームランプ	236

6-3. 収納装備の使い方

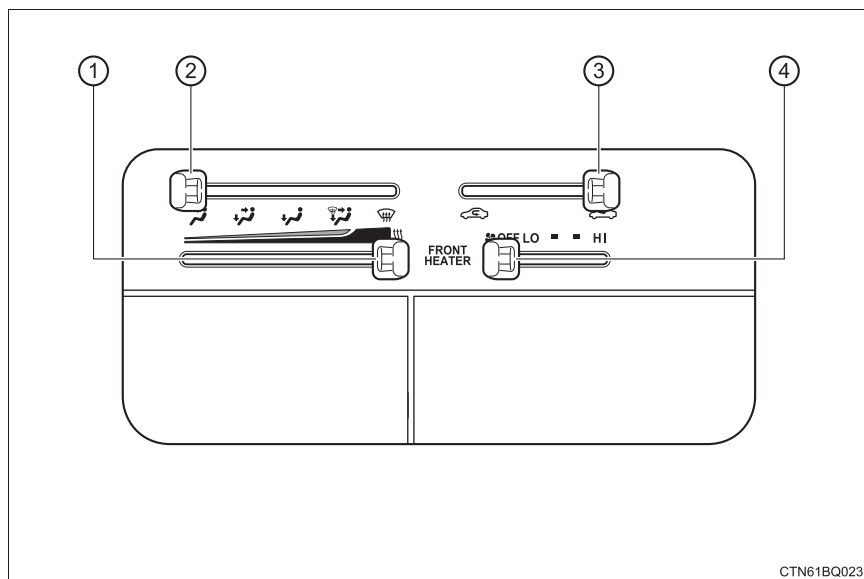
収納装備一覧	237
・カップホルダー	238
・ボトルホルダー	239
・小物入れ	240
・カードホルダー	241
ラゲージルーム内の装備	242

6-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	244
・サンバイザー／ お客様表示板	244
・アクセサリソケット	244
・充電用 USB 端子	245
・時計	246
・床洗い用水抜き穴	247
・アームレスト	247
・冷蔵庫	248
・カーテン	250
・運転席ガード	251
・セパレーターパイプ	251
・セパレーターカーテン	252
・アシストグリップ	254
タコグラフ	255

フロントヒーター（マニュアルエアコン）★

操作パネルについて



CTN61BQ023

- ① 温度調整レバー
- ② 吹き出し口切りかえレバー
- ③ 内外気切りかえレバー
- ④ ファン調整レバー

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整レバーを右に、下げるときは左に動かす

■ 風量を切りかえる

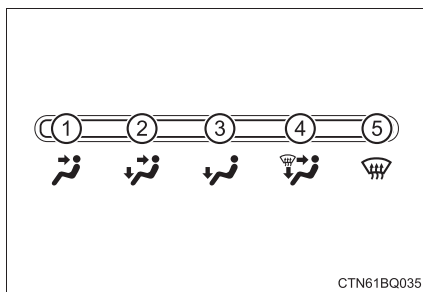
風量を増やすときはファン調整レバーを右に、減らすときは左に動かす

送風を止めるときは、OFF の位置にします。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえレバーを動かす

- ① 上半身に送風
- ② 上半身と足元に送風
- ③ 足元に送風
- ④ 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る
- ⑤ フロントウインドウガラスの曇りを取る



その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

内外気切りかえレバーを動かす

内気循環にするには、レバーの位置を  にします。

外気導入にするには、レバーの位置を  にします。

■ フロントガラスの曇りを取るには

吹き出し口切りかえレバーを  の位置に合わせる

内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。

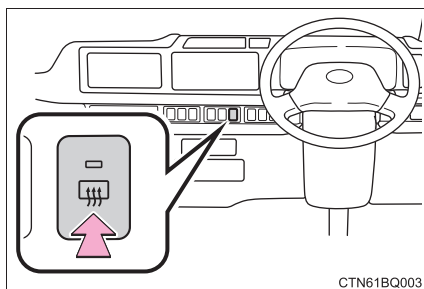
■ リヤウインドウデフォグガー★ & ミラーヒーター★

リヤウインドウの曇りを取るときや、アウターミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

ON/OFF

ON にするとスイッチの表示灯が点灯します。

リヤウインドウデフォグガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。



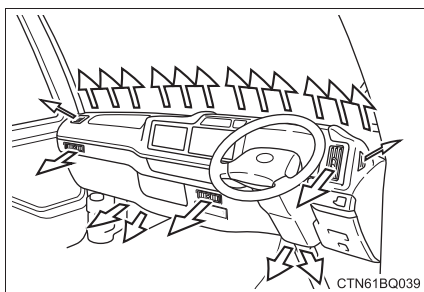
CTN61BQ003

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置 ※ や風量が変わります。

※ 吹き出し口の数・位置などは車両により異なります。



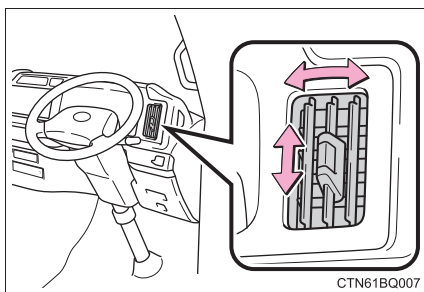
CTN61BQ039

■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ 運転席側吹き出し口

風向きを調整するには、ノブを上または左右に動かす

閉めるときは、ノブをいっぱいまで下に動かします。



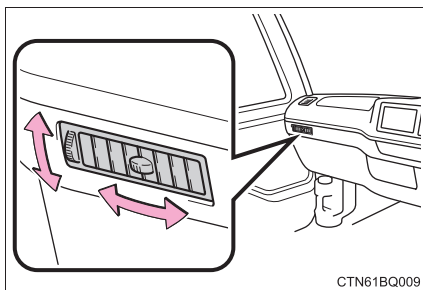
CTN61BQ007

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ 助手席側吹き出し口

風向きを調整するには、ノブを上下または左右に動かす

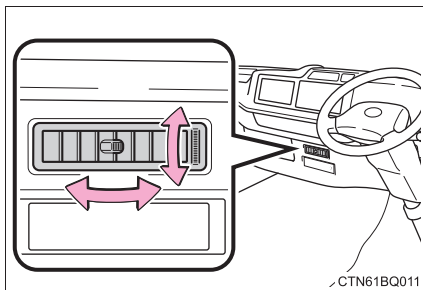
閉めるときは、ノブをいっぱいまで左に動かします。



▶ 中央側吹き出し口

風向きを調整するには、ノブを上下または左右に動かす

閉めるときは、ノブをいっぱいまで右に動かします。



 知識**■ ガラスの曇りについて**

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、クーラー（→ P. 220）を作動させると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- クーラーを ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 内気循環／外気導入について

トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

■ 換気とエアコンの臭いについて

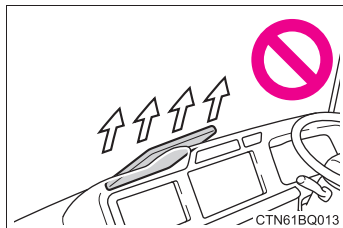
- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

■ エアコンフィルターについて

→ P. 285

⚠ 警告**■ フロントウインドウガラスの曇りを防止するために**

- 外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、吹き出し口切りかえレバーを  の位置に合わせないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。
- フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなる場合があります。

**■ リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒーター作動中の警告（ミラーヒーター装着車）**

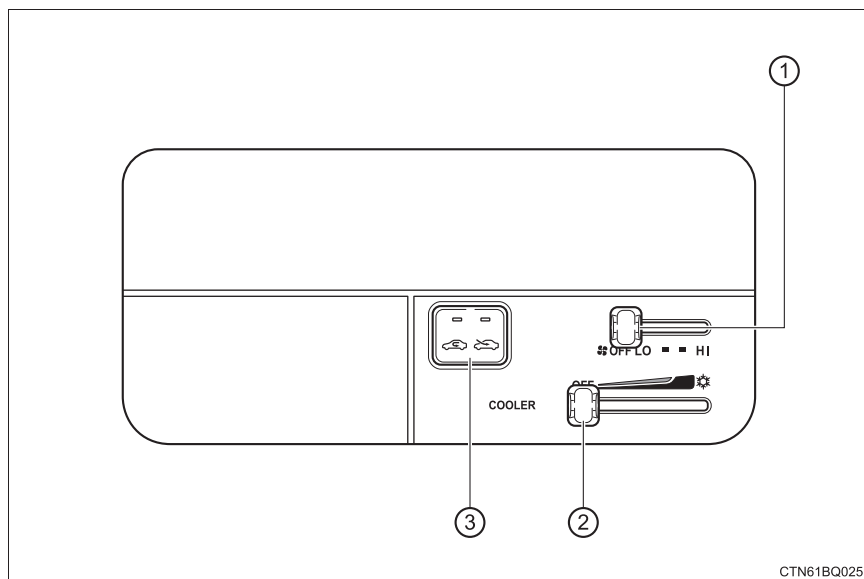
アウターミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

⚠ 注意**■ バッテリーあがりを防ぐために**

エンジン停止中は、フロントヒーターを必要以上に使用しないでください。

クーラー（マニュアルエアコン）★

操作パネルについて



- ① ファン調整レバー
- ② 温度調整レバー
- ③ 内外気切りかえスイッチ

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 温度を調整する

設定温度を下げるときは温度調整レバーを右に、上げるときは左に動かす

クーラー（冷房・除湿）の作動を停止するときは、OFF の位置にします。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときはファン調整レバーを右に、減らすときは左に動かす

送風を止めるときは、OFF の位置にします。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには

内外気切りかえスイッチを押す

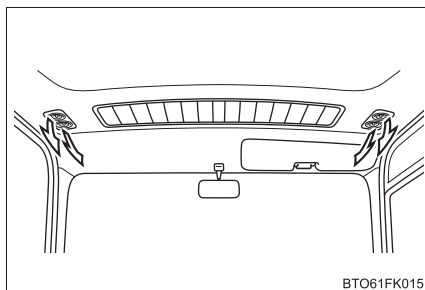
スイッチを押すたびに内気循環／外気導入が切りかわります。

選択しているほうの表示灯が点灯します。

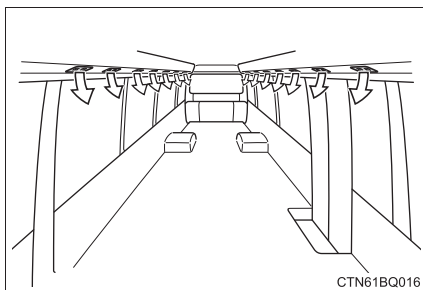
吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

▶ フロント吹き出し口



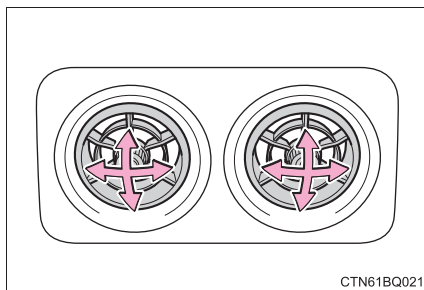
▶ リヤ（客室）吹き出し口※



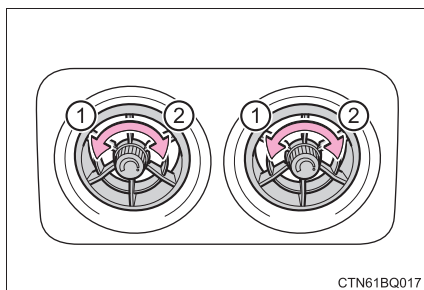
※ 吹き出し口の数・位置などは車両により異なります。

■ 吹き出し口の調整・開閉

風向きを調整するには、ノブを上
下または左右に動かす



- ① 開く
- ② 閉じる



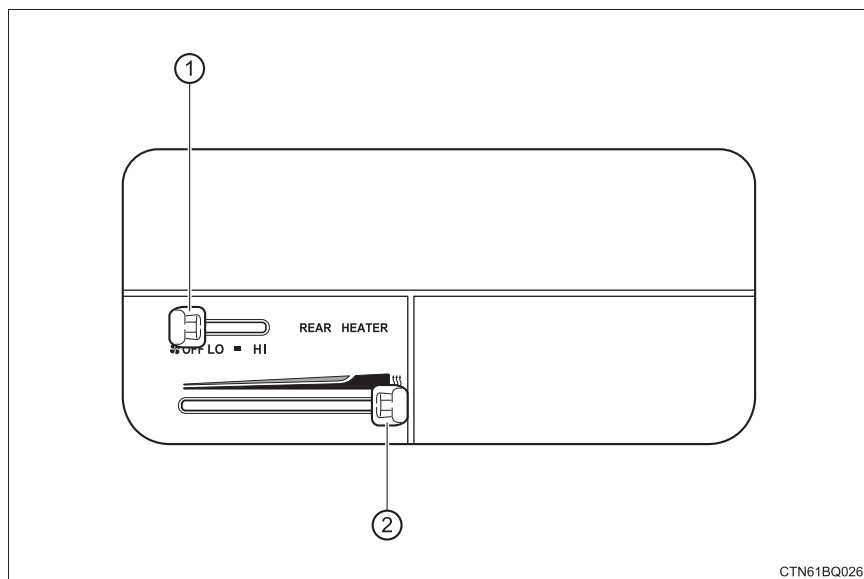
⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、必要以上にクーラーを使用しないでください。

リヤヒーター（マニュアルエアコン）★

操作パネルについて



① ファン調整レバー

② 温度調整レバー

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整レバーを右に、下げるときは左に動かす

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときはファン調整レバーを右に、減らすときは左に動かす

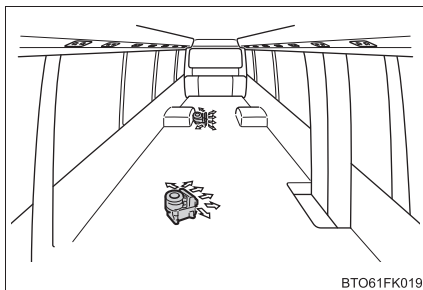
送風を止めるときは、OFF の位置にします。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置 ※

※ 吹き出し口の数・位置などは車両により異なります。



⚠ 注意

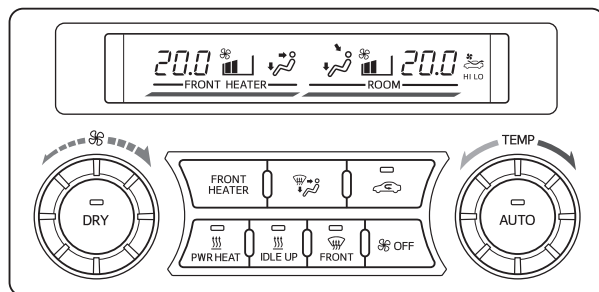
■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、必要以上にリヤヒーターを使用しないでください。

オートエアコン★

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作について



BTO61FK001

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは  を右に、下げるときは左にまわす

除湿機能の ON・OFF を切りかえるには DRY スイッチ★を押します。

■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは  を右に、減らすときは左にまわす

送風を止めるときは、OFF スイッチを押します。

風量が最弱のときに左にまわすと、送風が止まります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

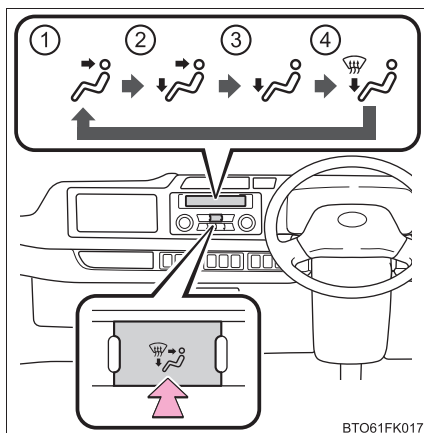
■ 吹き出し口を切りかえる

 を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

- ① 上半身に送風 ※
- ② 上半身と足元に送風 ※
- ③ 足元に送風
- ④ 足元に送風・フロントウィンドウガラスの曇りを取る (FRONT HEATER のみ)

※ FRONT HEATER 側と ROOM 側で表示が異なります。



■ 運転席と助手席のみを個別に設定する

FRONT HEATER スイッチを押し、運転席と助手席の設定温度・風量・吹き出し口を設定する

操作選択バーが、エアコン操作パネルの FRONT HEATER 側下部に表示され個別に設定することができます。

数秒間操作を行わないと、ROOM 側の操作に切りかわります。

AUTO スイッチを押すと室内の設定と同じになり、操作選択バーが、エアコン操作パネルの ROOM 側下部に表示されます。

オート設定で使用する

- 1 AUTO スイッチを押す
- 2 温度を設定する

■ オート設定時の作動表示灯について

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

その他の機能

■ 内気循環／外気導入を切りかえるには



を押す

スイッチを押すたびに内気循環／外気導入が切りかわります。
内気循環を選択しているときは、表示灯が点灯します。

■ フロントガラスの曇りを取るには



を押す

フロント側の風量と吹き出し口が切りかわり、除湿機能★が作動します。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります。）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度を押すと前のモードにもどります。

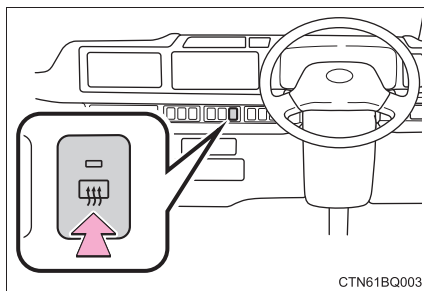
■ リヤウインドウデフォグガー★ & ミラーヒーター★

リヤウインドウの曇りを取るときや、アウターミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

ON/OFF

ON にするとスイッチの表示灯が点灯します。

リヤウインドウデフォグガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

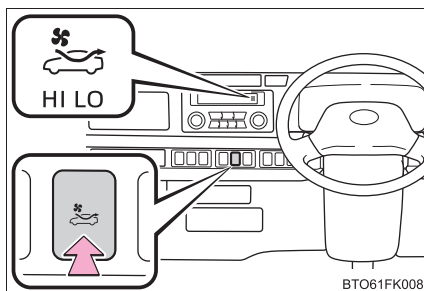
■ 換気扇スイッチ★

換気扇スイッチを押す

作動状態がエアコン操作パネルに表示されます。

押すごとに HI → LO → OFF の順に切りかわります。

内気循環時に作動させると、外気導入に切りかわります。



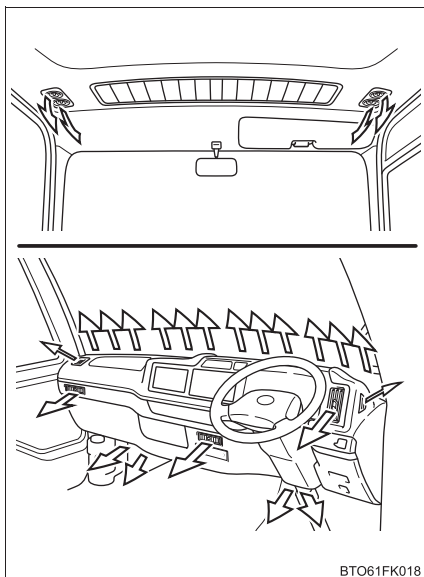
吹き出し口について

■ 吹き出し口の位置

▶ フロント吹き出し口

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置 ※ や風量が変わります。

※ 吹き出し口の数・位置などは車両により異なります。

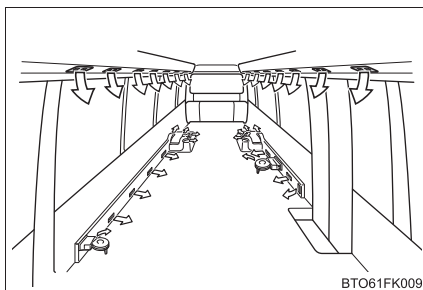


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

▶ リヤ（客室）吹き出し口

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置 ※ や風量が変わります。

※ 吹き出し口の数・位置などは車両により異なります。



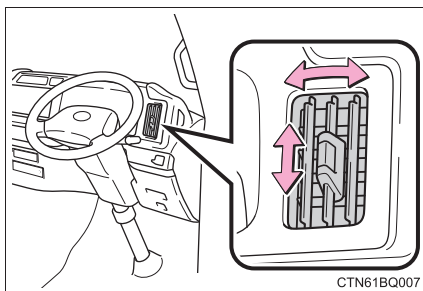
BTO61FK009

■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ 運転席側吹き出し口

風向きを調整するには、ノブを上下または左右に動かす

閉めるときは、ノブをいっぱいまで下に動かします。

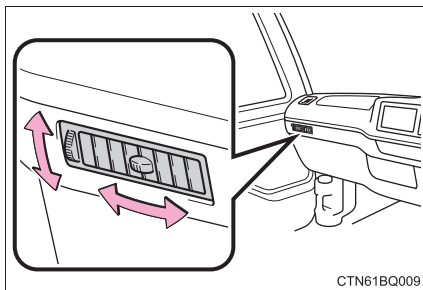


CTN61BQ007

▶ 助手席側吹き出し口

風向きを調整するには、ノブを上下または左右に動かす

閉めるときは、ノブをいっぱいまで左に動かします。

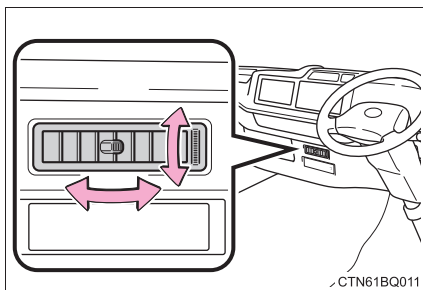


CTN61BQ009

▶ 中央側吹き出し口

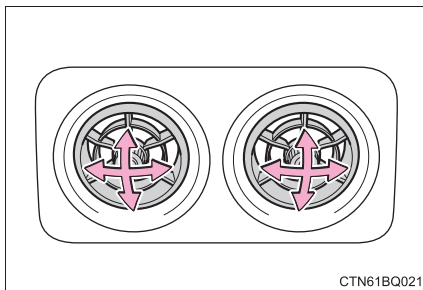
風向きを調整するには、ノブを上
下または左右に動かす

閉めるときは、ノブをいっぱいまで
右に動かします。



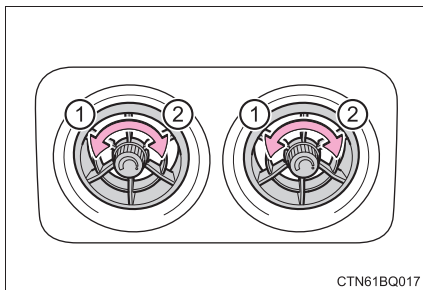
▶ リヤ（客室）吹き出し口

風向きを調整するには、ノブを上
下または左右に動かす



① 開く

② 閉じる



 知識

■ オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、DRY スイッチ★を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- DRY スイッチ★を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。
- 降雨時など湿度の高いときに湿った外気を除湿・暖房しながら導入し、窓の曇りをおさえます。(リヒート機能★)

■ 内気循環／外気導入について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■ 外気温度が 0℃ 近くまで下がったとき

DRY スイッチ★を押しても除湿機能が働かない場合があります。

■ 換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

■ エアコンフィルターについて

→ P. 285

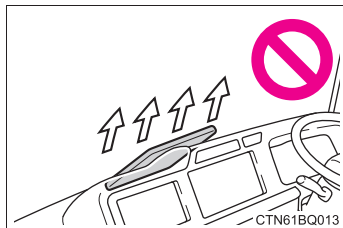
■ 換気扇について（換気扇装着車）

エンジンスイッチが“ON” のとき使用できます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告**■ フロントウインドウガラスの曇りを防止するために**

- 外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。
- フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために、吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風が遮られ、曇りが取れにくくなる場合があります。

**■ リヤウインドウデフォグター&ミラーヒーター作動中の警告（ミラーヒーター装着車）**

アウターミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

⚠ 注意**■ バッテリーあがりを防ぐために**

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

■ 換気扇について（換気扇装着車）

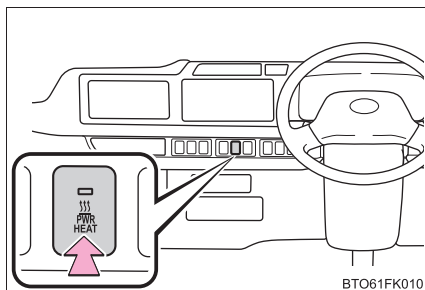
トンネル内や車庫内などの囲まれた場所や、換気の悪い場所で換気扇を使用すると、排気ガスが車内に入るおそれがあるため、内気循環に切りかえてください。

パワーヒーター★

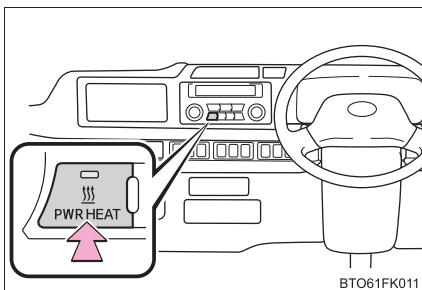
車両の暖房機能を補助し、より強い暖房にすることができます。

パワーヒーターを使用するには

▶ マニュアルエアコン



▶ オートエアコン



パワーヒータースイッチを押す

作動時は、作動表示灯が点灯します。

知識

■ 作動条件

エンジン回転中のみ使用できます。

■ パワーヒーターの異常について

次のときはスイッチを一度 OFF にしてから、再度 ON にしてください。
それでも作動しないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

- マニュアルエアコン：スイッチを押しても表示灯が点灯しない
- オートエアコン：スイッチを押したら表示灯が短い間隔で点滅する。長い間隔で点滅しているときは掃気状態であり、異常ではありません。

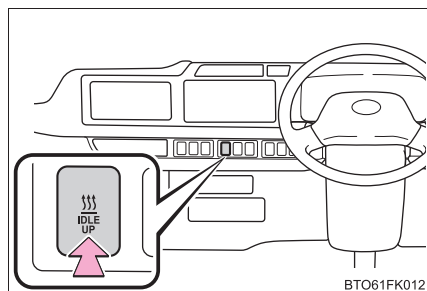
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アイドルアップ

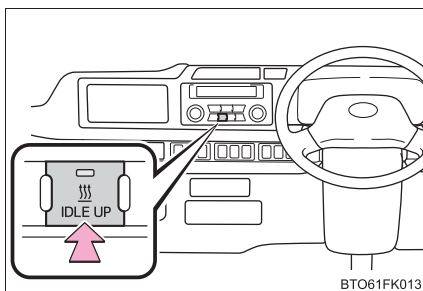
停車中にアイドル回転を上げ、暖房効果を高めます。

アイドルアップを使用するには

▶ マニュアルエアコン



▶ オートエアコン



アイドルアップスイッチを押す

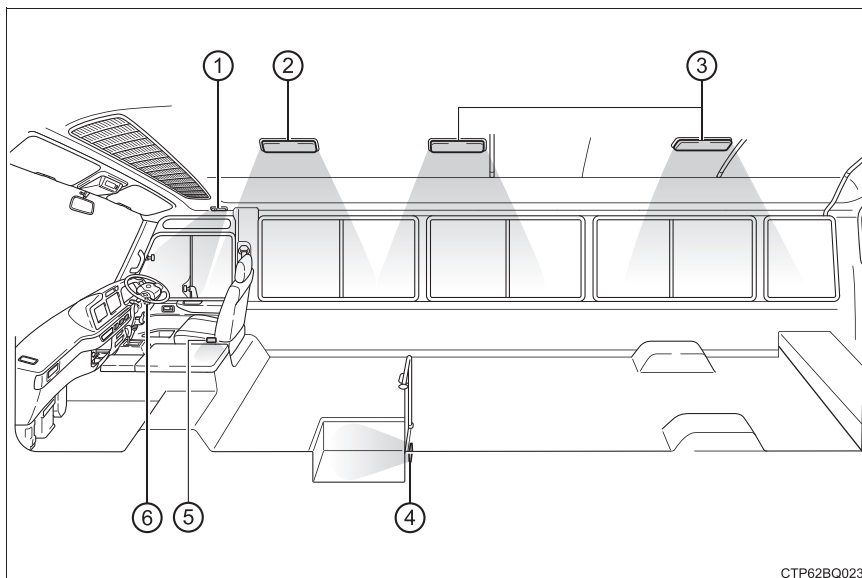
作動時は、作動表示灯が点灯します。(オートエアコンのみ)

知識

■ アイドルアップについて

- アイドルアップ作動中にエンジンスイッチを OFF にしても、作動状態は記憶しています。
- エンジン冷却水が暖まると、アイドル回転数は通常状態にもどります。

室内灯一覧



- ① フロントパーソナルランプ★ (→ P. 236)
- ② フロントルームランプ (→ P. 236)
- ③ リヤルームランプ (→ P. 236)
- ④ ステップランプ (→ P. 75, 85)
- ⑤ ドアカーテシランプ★
- ⑥ エンジンスイッチ照明

仕様により、装着位置・装着数が異なります。

知識

■ エンジンスイッチ照明の自動点灯／消灯について

ドアの開閉・エンジンスイッチの位置により、エンジンスイッチの照明が自動的に点灯・消灯します。(イルミネーテッドエントリースystem)

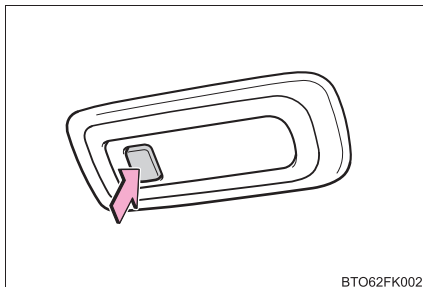
■ カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→ P. 386)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

フロントパーソナルランプ★

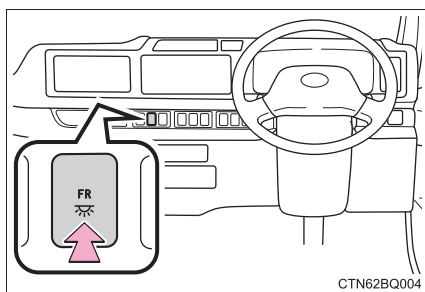
ランプを点灯・消灯する



BTO62FK002

ルームランプ

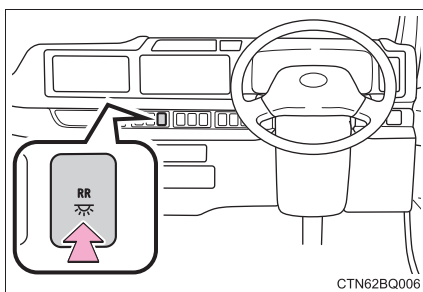
▶ フロント側



CTN62BQ004

ランプを点灯・消灯する

▶ リヤ側



CTN62BQ006

ランプを点灯・消灯する

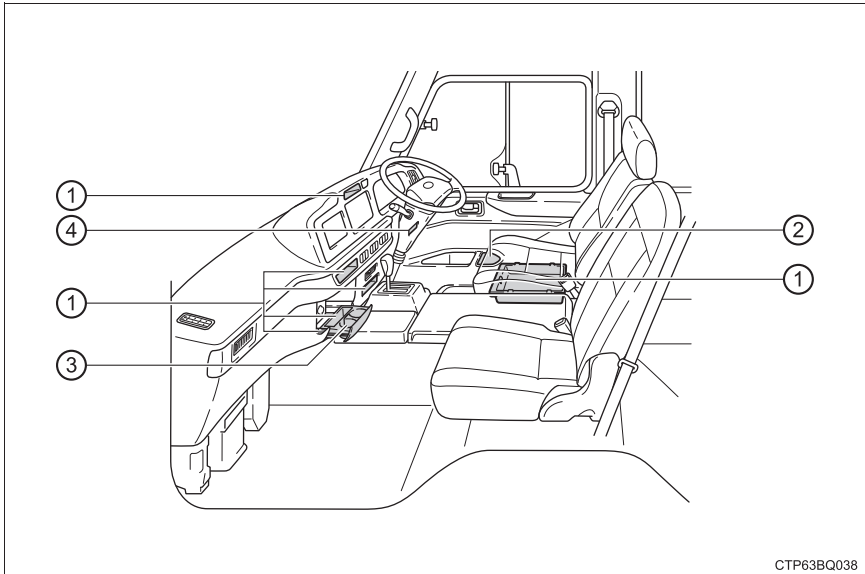
観音扉ドアを開けると、スイッチが
OFF でも点灯します。★

⚠ 注意

バッテリーあがりを防ぐために、エンジンが停止した状態で、長時間ランプ類を点灯しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

収納装備一覧



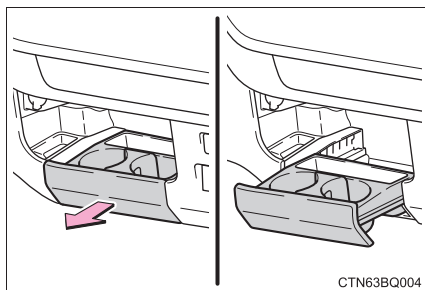
- ① 小物入れ (→ P. 240) ③ カップホルダー (→ P. 238)
 ② ボトルホルダー (→ P. 239) ④ カードホルダー (→ P. 241)

⚠ 警告

- メガネ・ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。
 放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
 - ・ 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる
- 収納装備を使わないときは、フタを必ず閉じてください。
 急ブレーキや急旋回時などに、開いたフタに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

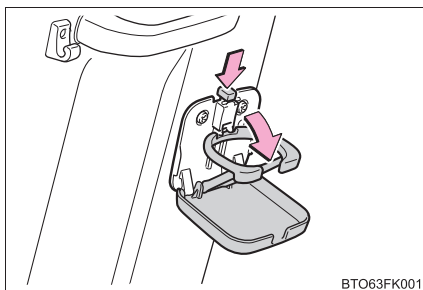
カップホルダー

▶ フロント



使用するときは、手前にいっぱいまで引き出す

▶ 後部座席（最後列を除く）★

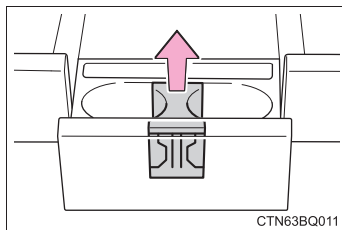


使用するときは、ボタンを押して開く

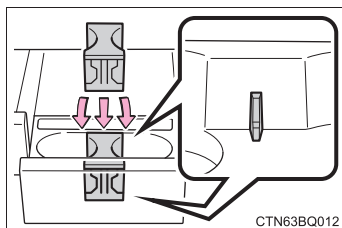
もどすときは、フタの先端を引き上げ、ロックするまで押し付けます。

知識

- フロントカップホルダー内を清掃するために、仕切りを取りはずすことができます。



- フロントカップホルダーの仕切りの位置を左右に動かすことができます。



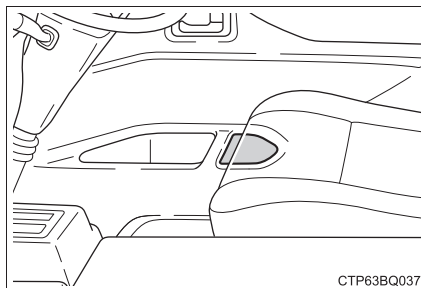
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

- カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。
- カップホルダーを使わないときは、必ずもとにもどしておいてください。急ブレーキ時などに、カップホルダーが体にあたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながりけがをするおそれがあります。

⚠ 注意

- カップホルダーに手をついたり、足で踏んだりしないでください。
- フロントカップホルダーは、必ずいっぱいまで引き出して使用してください。中間位置で使用すると、走行中にカップホルダーが動いて、飲み物がこぼれるおそれがあります。

ボトルホルダー**📖 知識**

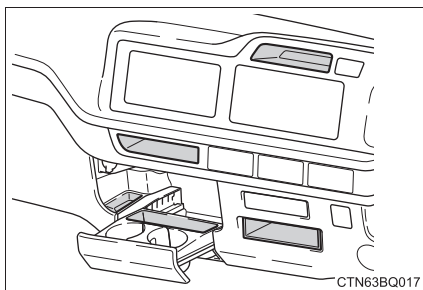
- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

⚠ 注意

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

小物入れ

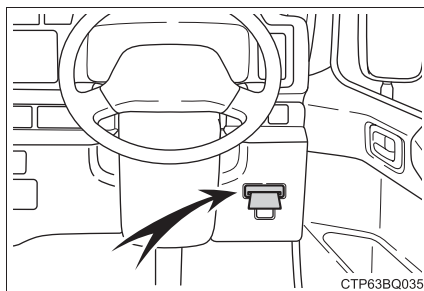
- ▶ A タイプ (シートアンダートレイ) ▶ B タイプ
イ)



ツマミを引いてトレイを引き出す

⚠ 警告

- フロントシートの下 (シートアンダートレイ内を除く) に物を置かないください。物が挟まってシートが固定されず、思わぬ事故につながりけがをする恐れがあります。(A タイプ)
- フタのないトレイには、転がりやすいものや、凹面からはみ出るようなものを置かないください。
急ブレーキ時などに収納していたものが飛び出すなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。(B タイプ)

カードホルダー

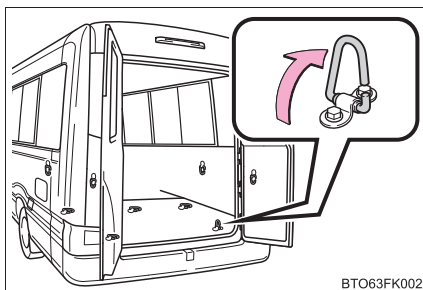
ラゲージルーム内の装備

ロープフック★

フックを起こして使用してください。

フックを使って荷物を固定することができます。

車両によりロープフックの位置や数は異なります。



BTO63FK002

⚠ 警告

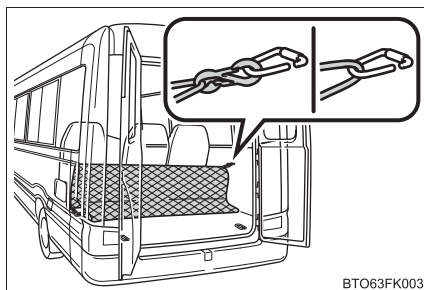
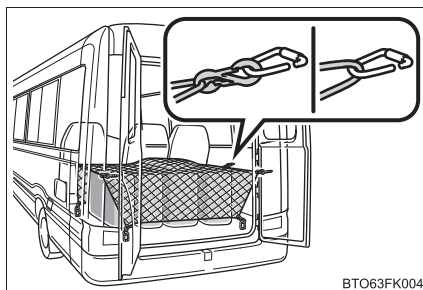
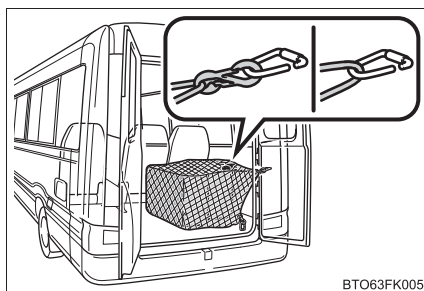
ロープフックを使用しないときは、けがをしないように必ずもとの位置にもどしておいてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ラゲージルームセパレーター（最後席シート非搭載車）

ラゲージルームセパレーターとロープフック（→ P. 242）を使用して、荷室と客室を仕切ったり、荷物を固定したりすることができます。

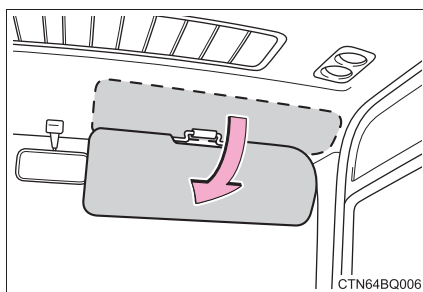
ラゲージルームセパレーターのフックだけでなく、ネットを直接ロープフックにかけることもできます。

■ 使用例**▶ 荷室と客室を仕切る****▶ 大量の荷物を固定する****▶ 少量の荷物を固定する**

その他の室内装備

サンバイザー／お客様表示板★

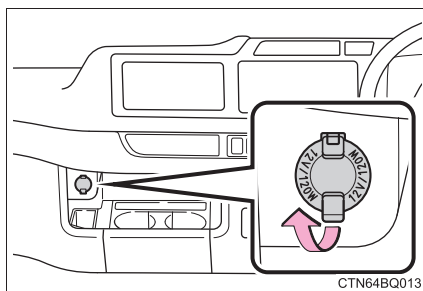
前方をさえぎるには、バイザーを下ろす



アクセサリースOCKET

DC12V / 10A (消費電力 120W) 未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

フタを開ける



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが “ACC” または “ON” のとき

■ エンジンスイッチを ” LOCK ” (OFF) にするとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。

接続したままにしておくと、エンジンスイッチを正常に OFF することができなくなる場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■ ショートや故障を防ぐために

挿し込み口に異物が入ったり、飲料水などがこぼれたりしないように、使用しないときはフタを閉めておいてください。

■ ヒューズが切れるのを防ぐために

DC12Vで最大電流 10A（最大消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間使用しないでください。

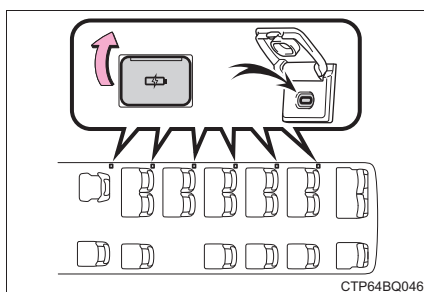
充電用 USB 端子★

DC5V/3A(消費電力 15.75W)の電源としてお使いください。このUSB端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

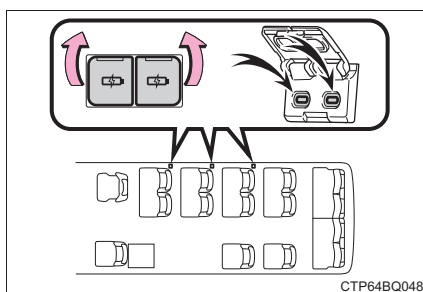
■ 充電用 USB 端子を使用するには

フタを開けて使用する

▶ 1 ポートタイプ



▶ 2 ポートタイプ



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ 充電用 USB 端子の作動条件

エンジンスイッチが“ACC” または “ON” のとき

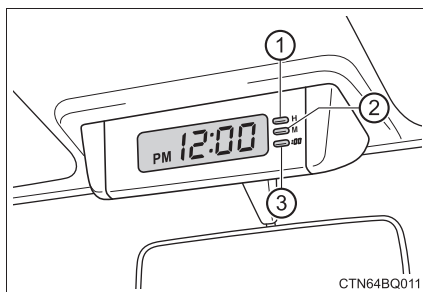
■ 充電用 USB 端子が正常に働かないおそれのある状況

- DC5V/3A(消費電力 15.75W) をこえる電力を要求する機器を接続したとき
- パソコンと通信を行う機器を接続したとき
- 接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）
- 炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

時計

ボタンを押して時刻を調整することができます。

- ① “時” を調整する (H)
 - ② “分” を調整する (M)
 - ③ “分” を 00 にする ※ (: 00)
- ※ (例) 1:00 ~ 1:29 → 1:00
1:30 ~ 1:59 → 2:00



知識

■ 時計表示について

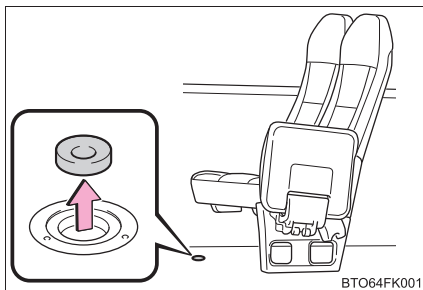
エンジンスイッチに関係なく表示されます。

夜間、エンジンスイッチが “LOCK” の位置では表示が見にくくなります。その場合はエンジンスイッチを “ACC” または “ON” にしてください。

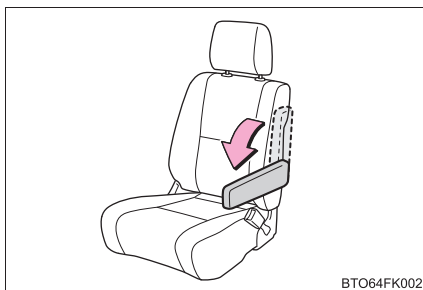
床洗い用水抜き穴★

二人掛けシートの前から３列目のシート下側にあります。

排水するときは、ゴムキャップをはずす

**アームレスト★**

手前に倒して使用する

**⚠ 注意**

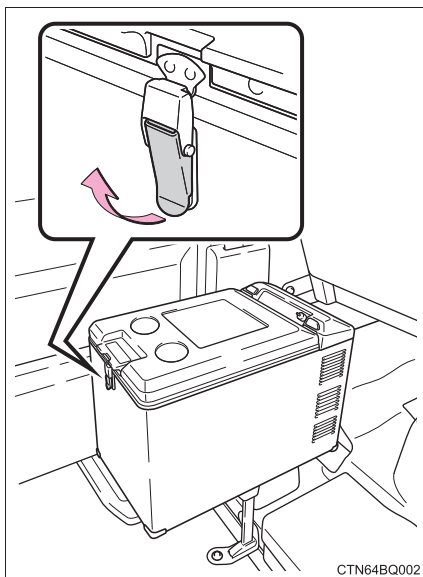
アームレストの損傷を防ぐために、過度の負荷をかけないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

冷蔵庫★**■ 開閉のしかた**

レバーを引き、金具をフックからはずして開ける

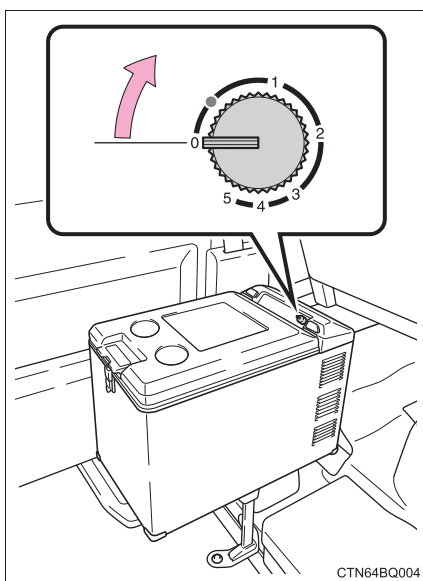
閉めるときは、金具をフックにかけ、レバーを押します。確実に固定されたことを確認してください。

**■ 電源の ON・OFF**

温度調整ダイヤルをまわす

「0」以外の位置にすると、電源が ON になります。

「0」の位置にすると、電源が OFF になります。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 温度調整

温度調整ダイヤルをまわす

使用条件とダイヤルの位置は、冷蔵庫周囲の温度状態およびバッテリーの充電状態などにより異なりますが、一応の目安として次の表を参考にして使用してください。

ダイヤル位置	冷蔵庫温度 (負荷がないとき)	使い方
1	約 + 3℃ ~ + 7℃	通常使用時
2	約 0℃ ~ + 4℃	使用条件に合わせてダイヤルを選択してください
3	約 - 2℃ ~ + 2℃	
4	約 - 8℃ ~ - 4℃	
5	約 - 12℃ 以下	冷凍食品を貯蔵するとき

□ 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが “ ON ” のとき

■ 冷蔵庫の温度調整について

- 長時間エンジンを停止していると、庫内の温度は上昇します。
- 冷蔵庫を効果的に使用していただくために次のような事項に注意して使用してください。
 - ・ 庫内に食料品を詰め込み過ぎない
 - ・ 温かい食料品は、冷ましてから貯蔵する
 - ・ 水気の多いもの、香りの強いものは包んでから貯蔵する
- ダイヤル4の位置での使用はできるだけ短時間にしてください。4の位置で長時間使用すると、庫内が冷えすぎて食料品が凍結したり、ビン類などが割れるおそれがあります。
- アイスクリームを貯蔵するときは庫内が常に - 15℃ 以下でないとやわらかくなることがあります。

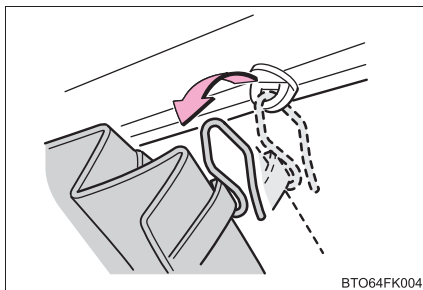
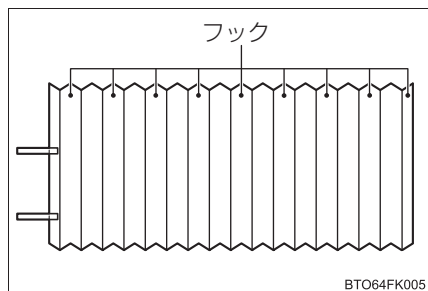
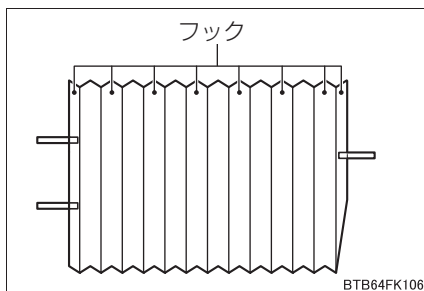
⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間使用しないでください。

カーテン★**■ 取りはずし方**

カーテンレールからフックをは
ずす

**■ フックの取り付け位置****▶ リヤカーテン****▶ サイドカーテン**

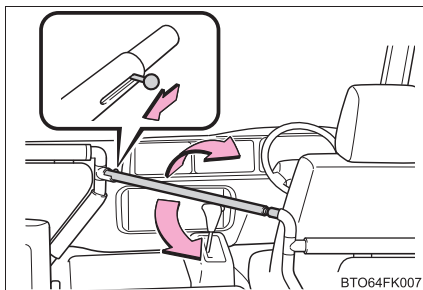
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

運転席ガード（幼児車）

幼児が運転者の操作をさまたげることのないように、運転者とリヤシートの間に取り付けられています。

ガード先端のストッパーを引いたまま操作する

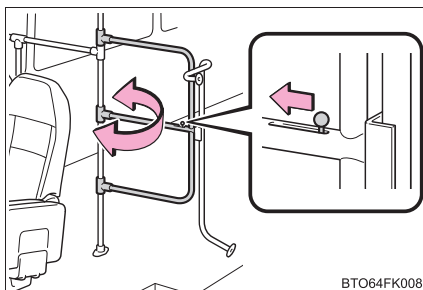
走行中は必ず固定してください。



セパレーターパイプ（バン）

ストッパーを引いたまま操作する

走行中は必ず固定してください。

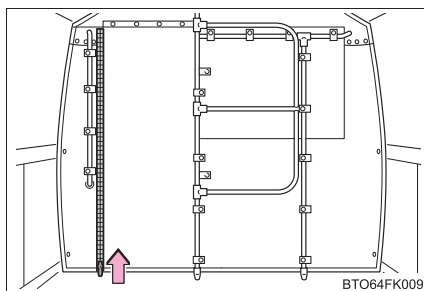


セパレーターカーテン★

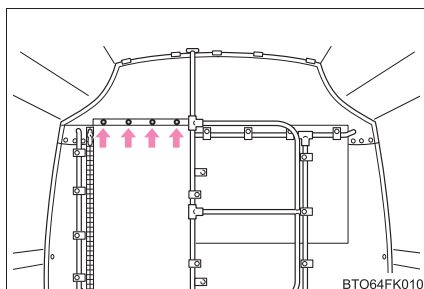
荷室を仕切り、エアコン・ヒーターの効果を高めます。

■ 開け方

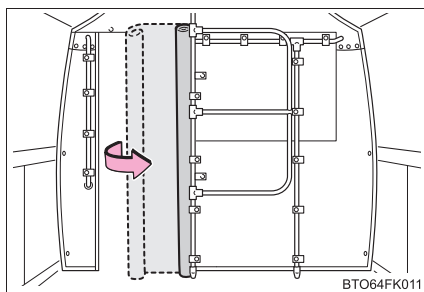
- 1 ファスナーをはずす



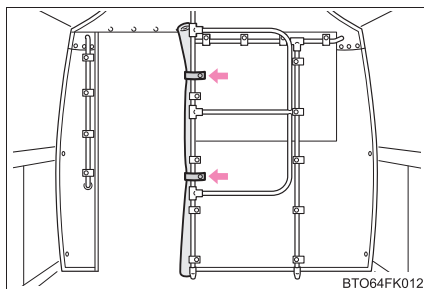
- 2 上部のボタン（4ヶ所）をはずす



- 3 カーテンを丸めながら開ける



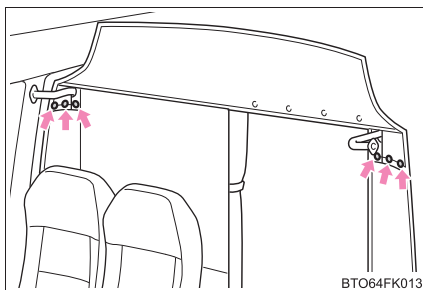
- 4 バンド（2ヶ所）で固定する



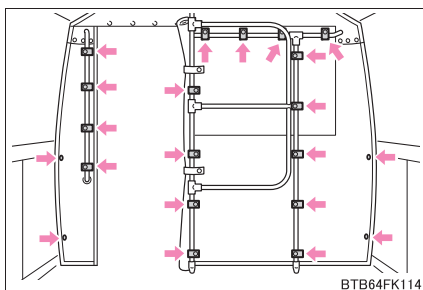
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 取りはずし方

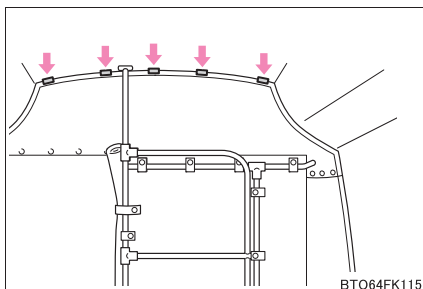
- 1 フロント側からボタン（左右3ヶ所ずつ）をはずす



- 2 リヤ側からセパレーターバーに取り付けられているボタン（左4ヶ所・中央4ヶ所・右5ヶ所・上部4ヶ所）とサイドボタン（左右4ヶ所）をはずす

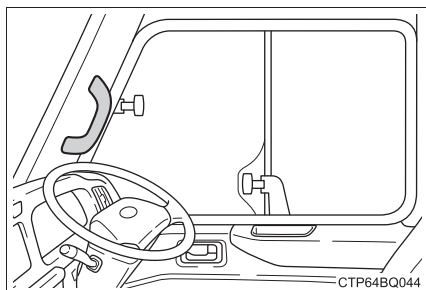


- 3 リヤ側からドライバーで天井に取り付けられているネジ（5ヶ所）をまわしてはずす



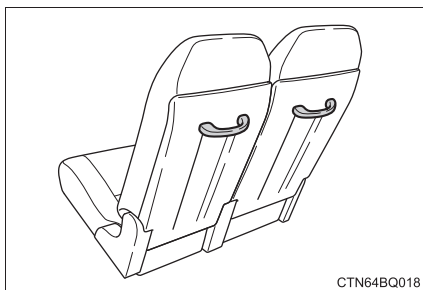
アシストグリップ

▶ フロント



乗降時にお使いください

▶ 後部座席（最後列を除く）★



走行中にシートに座っている状態で、体を支えるときにお使いください

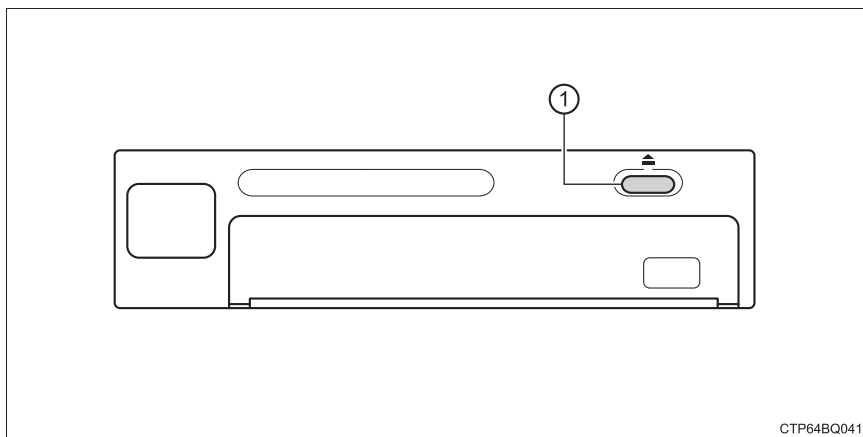
⚠ 注意

破損を防ぐために、アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

タコグラフ★

タコグラフは、車両の速度・走行距離・運転手交替などをチャート紙に記録します。



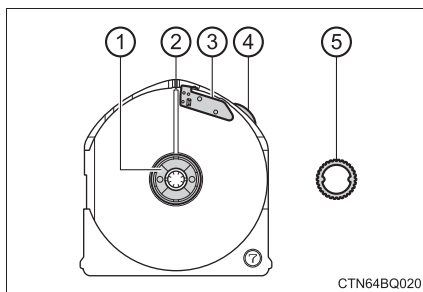
- ① カートリッジ取り出しボタン

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

カートリッジ

カートリッジは、7 日用のチャート紙を取り付けて、タコグラフ本体に挿入してセットする部品です。タコグラフ本体に挿入されたカートリッジは、本体内の時計体と歯車にて結合され、26 時間でチャート紙を 1 回転させます。

- ① チャート紙取付部
- ② 時刻セットマーク
- ③ 切断ナイフ
- ④ 時刻合わせノブ
- ⑤ 圧着リング

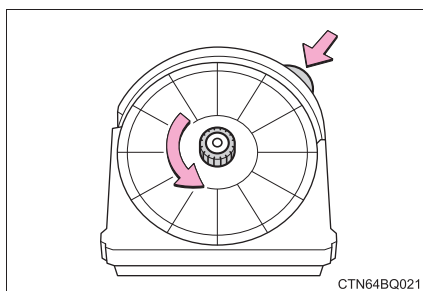


■ チャート紙の交換

- 1 を押してカートリッジを取り出す
カートリッジは手前に真っ直ぐ引き抜いてください。

- 2 を押して開閉カバーを閉じる

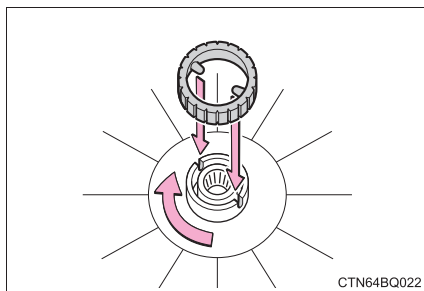
- 3 時刻合わせノブを押さえたまま、圧着リング外周を左に回して上方向に取り外し、チャート紙を抜き取る



- 4 新しいチャート紙に、乗務員コード・車両コード・日付など必要事項を記入する
- 5 新しいチャート紙の外周部を切断ナイフの下側に入れ、チャート紙の中央孔部をカートリッジのチャート紙取付部にはめ込む
- 6 チャート紙の時刻目盛が、カートリッジの時刻セットマークの所で、現在時刻となるようチャート紙を回す
22 時 40 分から 24 時 00 分の時間帯に合わせる場合は、切断ナイフを必ず 1 枚目のチャート紙の下側に入れる

時刻の調整は、カートリッジをタコグラフに挿入する直前に実施ください。

- 7 圧着リングの突部を下にして、
チャート紙取付部の溝に合わせ
たあと、圧着リングを指で押
さえて、右側に回し固定する



- 8  を押して開閉カバーを開く
- 9 カートリッジのチャート紙装着面を上にして、半円形状側からタコ
グラフ本体に挿入する
カチッと音がするまで押し込み、さらに押し込むとカートリッジは
自動的に内部に取り込まれ、開閉カバーも閉じます。

チャート紙の記録の見方

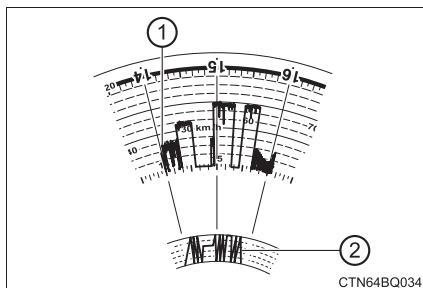
① 速度記録

瞬間速度を記録します。

② 走行距離記録

走行距離を山形の線で記録します。

1 山 : 10 km (6.2 miles)



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが“ON”※のとき

※ エンジンスイッチを“LOCK”または“ACC”にした時でも  を押せば、取り出し・挿入はできます。但し、作動電源は5分後に切れます。

■ 開閉カバーが開けられたままエンジンスイッチを“LOCK”または“ACC”にした場合は

必ず  を押して作動電源が入っている状態で、カートリッジを挿入してください。

カートリッジを無理に押し込んでしまった場合、走行してもチャート紙には何も記録されません。

警告

■ 安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に操作をしないでください。
- 7 日用タコグラフのチャート紙を交換されるときは、切断ナイフの刃に手を触れないでください。
- カートリッジを机の上や座席に放置しないでください。誤って手をついたり、座った場合に切断ナイフ基部の突起でけがをするおそれがあります。

 注意**■ 部品の損傷や誤作動を防ぐために**

- 分解・改造をしないでください。
- チャート紙は、機種にあった純正品をご使用ください。
純正以外のチャート紙を使用しますとタコグラフの故障原因となるおそれがあります。また、精度の良い解析ができない場合があります。
- チャート紙を曲げたり、表面に傷をつけたり、水が掛からないようにご注意ください。正常な記録がとれなくなります。
- タコグラフおよびカートリッジに水などをかけないでください。
- タコグラフ内部の記録針には、触らないでください。
- タコグラフの内部に、物や手を入れないでください。
- 取り出したカートリッジは、直射日光の当たる場所や高温となる場所に置かないでください。
- 開閉カバーは、開けたまま放置しないでください。特にエンジンスイッチをOFFにする時には、開閉カバーが閉じていることを確認ください。
- カートリッジを勢いよく挿入したり、開閉カバーを手で開けてカートリッジを無理に押し込まないでください。
- 途中まで差し込んだカートリッジの上から無理な力を加えないでください。
- 7日用チャート紙は、必ず一番上のもから使い始めてください。2枚目以降のチャート紙から使い始めますと引っかかりが発生し故障の原因となります。
- 7日用チャート紙は、継ぎテープを切り、バラバラにして、一枚ずつ使用しないでください。
- 22時40分から24時00分の時間帯に7日用チャート紙の時刻合わせを行う場合、切断ナイフは必ず一枚目のチャート紙の下側にセットしてください。誤ってセットすると、引っかかりが発生し、時計故障の原因となります。また、正常な記録が取れなくなります。
- チャート紙に合った圧着リングをご使用ください。
- 圧着リングをチャート紙無しの状態、及び中途半端な状態でセットしないでください。本体内で圧着リングが脱落し、故障の原因となります。
- タコグラフ本体の汚れは、柔らかな乾いた布で乾拭きしてください。シンナーやベンジンなど揮発性のものを使用しないでください。

お手入れのしかた

7

7-1. お手入れのしかた

外装の手入れ.....262

内装の手入れ.....265

7-2. 簡単な点検・部品交換

エンジン点検口.....268

AdBlue[®]（尿素水）の
補充271

ウォッシャー液の補充278

タイヤについて280

タイヤ空気圧について283

エアコンフィルターの
清掃285

ヒューズの点検・交換287

電球（バルブ）の交換291

燃料・水分離器の排水306

外装の手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う
ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■ 自動洗車機を使うときは

- アウターミラー・アンテナを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアウターミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。

■ 高圧洗車機を使うときは

- 室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。
- 駆動系部品（ディファレンシャルギヤなど）のベアリングやオイルシール部品に近付けすぎないでください。
近付けすぎると、水圧が高いため、内部への水入りやグリス流出により、性能が劣化するおそれがあります。

■ ホイール・ホイールキャップについて

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・ 硬いブラシを使用しない
 - ・ 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤は使用しない

■ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

- 中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る
- 油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

⚠ 警告

■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。ディーゼル車は特に高温になりますのでご注意ください。

■リヤバンパーについて

リヤバンパーの塗装に傷がつくと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

- クリアランスソナー

 注意**■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために**

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

■ アンテナの損傷を防ぐために

→ P. 206

■ 高圧洗浄機を使用するときは

- レーダー専用カバー裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。部品故障の原因になるおそれがあります。
- ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
 - ・ 駆動系部品
 - ・ ステアリング部品
 - ・ サスペンション部品
 - ・ ブレーキ部品
- モール、バンパーなどの樹脂部分やボデーサイドストライプなどのテープ貼り付け部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を30cm以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- フロントウインドウガラス上部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、次の要領で実施ください。

車内の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

合成皮革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■ カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■ 冷蔵庫の手入れ（冷蔵庫装着車）

- フタ・内箱の手入れ：よく乾いたやわらかい布でから拭きする
・ 汚れがひどいときは、中性洗剤の溶かしたぬるま湯（約 50℃以下）を使用してふき取り、よく乾いたやわらかい布で水分をふき取ります。
- ガスケットの手入れ：よく乾いたやわらかい布に中性洗剤を含ませて汚れをふき取る
- バスケットの手入れ：石けん水で洗ったあと、水でよくすすぎ、乾いた布で水分をふき取る

■冷蔵庫の霜取り（冷蔵庫装着車）

庫内に 6mm 程度の厚さの霜が付いたら、霜取りを行ってください。

- 1 庫内の貯蔵品をすべて取り出す
- 2 電源を OFF にして、霜が溶けるまで待つ
- 3 庫内にたまった水はスポンジまたはフキンなどで取り除く

- 急いで霜を取るとき：約 50℃以下の温水（手が入られる程度の温度）を入れて霜を溶かします。

⚠ 警告**■車の故障や車両火災を防ぐために**

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 車内で可燃性のスプレー（洗剤・消臭剤・潤滑剤など）を使用する場合は、電気部品などにかからないようにしてください。故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線などをめらさないでください。（→ P. 38）電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意**■ 清掃するとき使用する溶剤について**

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・ シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・ シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■ 床を清掃するときは（床洗い用水抜き穴非装着車）

水で洗わないでください。

フロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。
また、レンズにはふれないでください。（→ P. 161）

**■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは
（リヤウインドウデフォグガー装着車）**

- 熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■ 冷蔵庫の手入れについて（冷蔵庫装着車）

- ブラシ・粉石けん・クレンザー・ベンジンなどは使用しないでください。冷蔵庫を傷付けたり、変色やしみの原因になります。
- 布に多量の水を含ませてふき取ると扉の内部に侵入して断熱効果が悪くなるおそれがあります。

■ 冷蔵庫の霜取りについて（冷蔵庫装着車）

- ナイフなどを使用して無理に霜を取らないでください。冷却器に傷が付き、冷蔵庫が損傷するおそれがあります。
- 約 50℃以上の温水を入れると内箱が変形するおそれがありますので、必ず約 50℃以下の温水を入れてください。

エンジン点検口

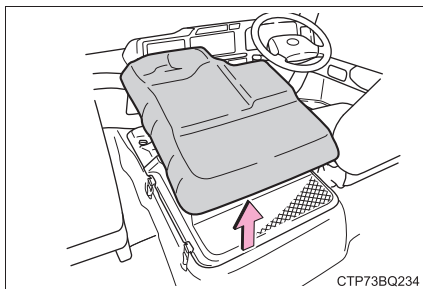
エンジンカバーをはずして、エンジンルームの点検などが行えます。

エンジン点検口の開け方

■ 前側点検口

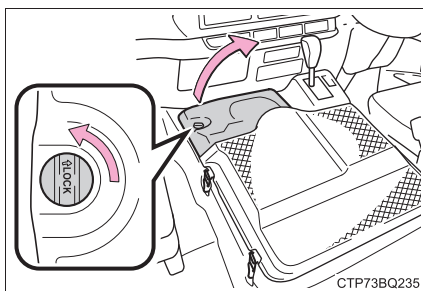
▶ 開けるとき

1 マット★をはずす



2 ノブを左にまわしてロックをはずし、エンジンカバーをはずす

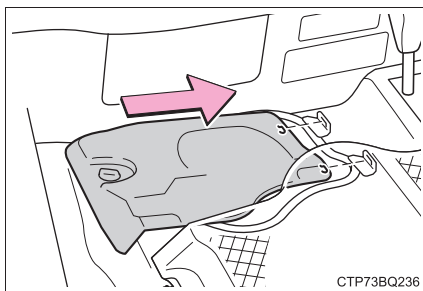
ノブがまわしにくいときは、カバーを押しながらノブをまわしてください。



▶ 閉めるとき

金具をフックにかけ、ノブを右にまわして確実に固定する

確実に固定されたことを確認してください。

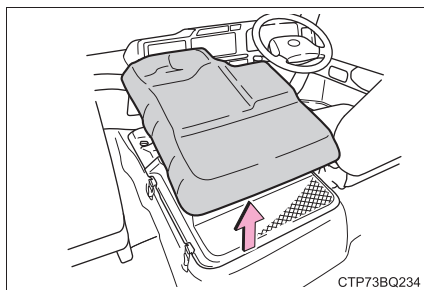


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

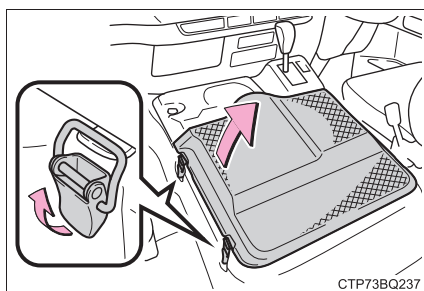
■ うしろ側点検口

▶ 開けるとき

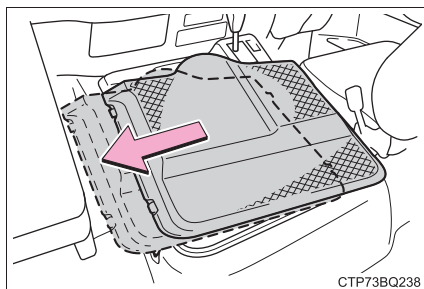
- 1 マット★をはずす



- 2 レバー（2ヶ所）を引いて、エンジンカバーを持ち上げる



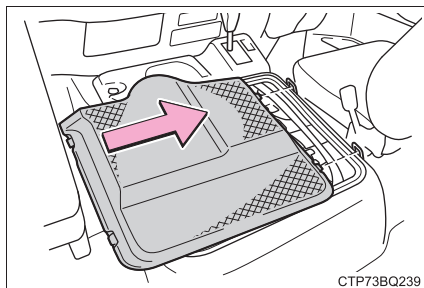
- 3 エンジンカバーを左に動かし
はずす



▶ 閉めるとき

エンジンカバーの金具をフック
にかけ、レバー（2ヶ所）を押し
確実に固定する

確実に固定されたことを確認してく
ださい。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 警告**■ 走行前の確認**

エンジンカバーがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にカバーが突然動いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ エンジンカバーを開けるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中にエンジンカバーを開けない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする
- お子さまに操作させない

■ エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ エンジンカバーを閉めるときは

エンジンカバーを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

AdBlue[®]（尿素水）の補充

この車は排気ガス中の窒素酸化物を低減するために AdBlue[®] を使用しています。AdBlue[®] について、次のことにご留意ください。

- AdBlue[®] は走行に従って消費されます。
- AdBlue[®] の残量がなくなると、エンジンを再始動できなくなります。
- 補充の際に誤ってこぼしてしまうと、車両の部品や塗装などの損傷につながるおそれがあります。

走行可能距離について

AdBlue[®] の消費量は運転状況や走行環境などにより異なります。

AdBlue[®] の消費量が多くなると、AdBlue[®] の補給が必要になるまでの走行可能距離が短くなります。

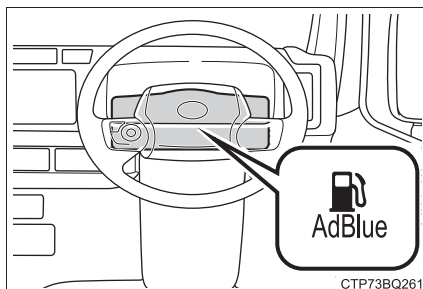
	高負荷走行 [※]	通常走行	低負荷走行
走行可能距離（参考）	4600km	14500km	19600km
尿素水消費量（参考）	200km/L	630km/L	850km/L
走行状況	・ アクセルを深く踏み込んでいるとき ・ 長い上り坂を走行しているとき ・ 排出ガス浄化装置が働いているとき		・ 短距離を走行するとき ・ 渋滞のとき

[※] 高地（標高が高いとき）や気温が低い時も、AdBlue[®] の消費量が増加します。

AdBlue[®] の警告灯・警告メッセージ

AdBlue[®] の残量が少なくなると警告メッセージと警告灯でお知らせします。(→ P. 329)

AdBlue[®] の残量が約 2.3L 以下になると、警告灯が黄色点滅し、警告メッセージが表示されます。



■ マルチインフォメーションディスプレイに AdBlue[®] に関する警告メッセージが表示されたとき

それぞれ、次のように対処してください。

警告メッセージ	対処方法
AdBlue 残量少	AdBlue [®] を補充してください。
AdBlue 残量少 補給してください※	ただちに AdBlue [®] を補充してください。 エンジンを停止させると、再始動できません。
不適切な AdBlue 検出※	AdBlue [®] の品質異常 速やかにトヨタ販売店で点検を受けてください。
不適切な AdBlue 検出 AdBlue を 交換してください※	AdBlue [®] の品質異常 速やかにトヨタ販売店で点検を受けてください。
不適切な AdBlue 検出 エンジン再始動不可 交換してください※	AdBlue [®] の品質異常 エンジンを停止させると、再始動できません。エンジンを停止せず、ただちにトヨタ販売店にご連絡ください。
尿素 SCR システム異常※	尿素水噴射装置の故障 速やかにトヨタ販売店で点検を受けてください。
尿素 SCR システム異常 販売店で 点検してください※	尿素水噴射装置の故障 速やかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

※ 警告メッセージに合わせて警告灯が点灯・点滅し、ブザーが鳴ります。

⚠ 注意

■ AdBlue[®] の残量が少なくなったとき

AdBlue[®] の残量がなくなると、エンジンを始動できなくなります。
残量がなくなる前に AdBlue[®] を補充してください。

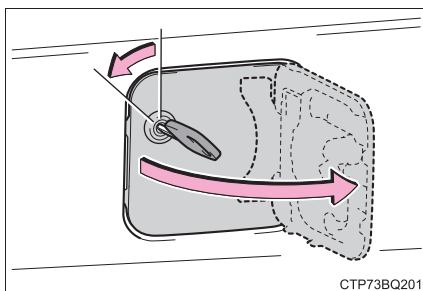
AdBlue[®] を補充するときは

AdBlue[®] は AdBlue[®] 取り扱い給油所の補充装置で補充することができます。※ また、市販の AdBlue[®] (ISO 22241-1 に準拠したもの) も使用することができます。次の手順で AdBlue[®] を補充してください。(AdBlue[®] タンク容量は 23.0 L です)

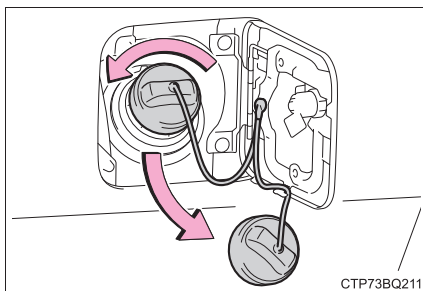
※ トヨタ販売店でも補充することができます。

▶ AdBlue[®] 補充装置で補充するとき

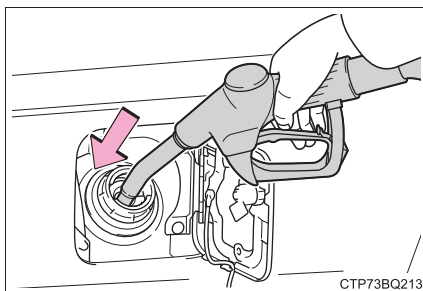
- 1 平坦な場所に駐車してエンジンスイッチを“LOCK”にする
- 2 補給扉にキーを差し込み、反時計回りに回して解錠し、補給扉を開ける。



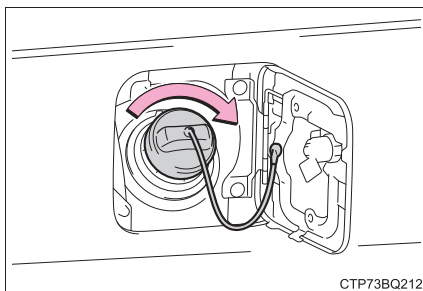
- 3 補給口のキャップを開け、キャップをハンガーにかける。



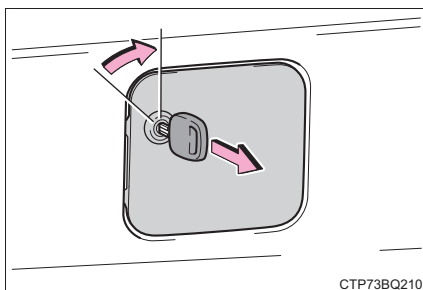
- 4 ノズルを挿入し AdBlue® を補充する



- 5 補給口のキャップを閉める
キャップが「カチッ」と鳴るまで閉めてください。



- 6 補給扉を閉め、キーを時計回りに回して施錠し、キーを抜く。

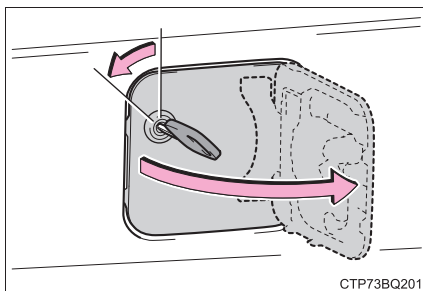


- 7 エンジンが始動することを確認する。

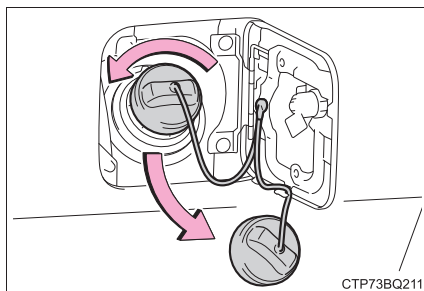
警告灯・警告メッセージが消えたことを確認してください。

▶ 市販の AdBlue® を補充するとき

- 1 平坦な場所に駐車してエンジンスイッチを OFF にする。
- 2 補給扉にキーを差し込み、反時計回りに回して解錠し、補給扉を開ける。

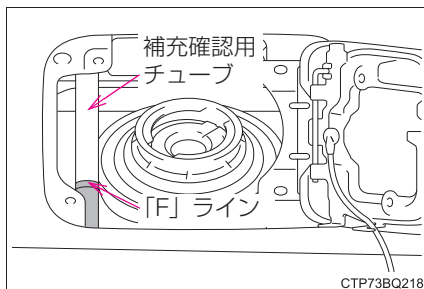


- 3 補給口のキャップを開け、キャップをハンガーに掛ける。



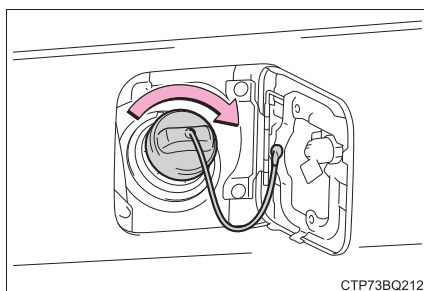
CTP73BQ211

- 4 AdBlue[®] 補充の際は、補給口左側にある補充確認用チューブの「F」ラインを超えないように補充してください。



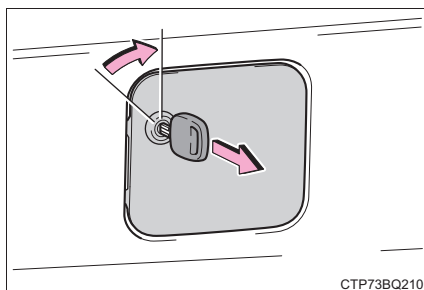
CTP73BQ218

- 5 AdBlue[®] 補充後、補給口のキャップを閉める。
キャップが「カチッ」と鳴るまで閉めてください。



CTP73BQ212

- 6 補給扉を閉め、キーを時計回りに回して施錠し、キーを抜く。



CTP73BQ210

- 7 エンジンが始動することを確認する。

警告灯・警告メッセージが消えたことを確認してください。

 知識**■ AdBlue[®] の補充について**

AdBlue[®] (ISO 22241-1 に準拠したもの) を使用してください。

AdBlue[®] は、Verband der Automobilindustrie e.V. (VDA) の登録商標です。

排出ガス削減のために AdBlue[®] が必要な場合、AdBlue[®] を消費しない車両を使用することは関連法規に違反する可能性があります。

■ AdBlue[®] を補充するとき

- AdBlue[®] の残量がなくなってエンジンが始動できなくなってしまったときは、約 12L 以上の AdBlue[®] を補充することで、エンジンを始動することができます。
- AdBlue[®] の補充後は、エンジンが始動するまでの時間が通常よりも数秒、長くなる場合があります。

■ AdBlue[®] 残量計

AdBlue[®] 残量計 (→ P. 54) 内の AdBlue[®] マークは、エンジンスイッチを“ON” にすると青色で点灯します。

⚠ 注意

■ AdBlue[®] を補充するとき

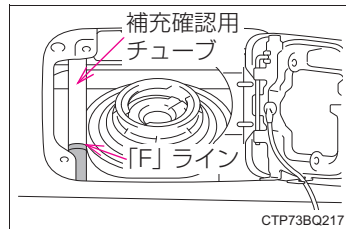
AdBlue[®] を補充するときは次のことをお守りください。お守りいただかないと車両の部品や塗装などの損傷につながるおそれがあります。

- AdBlue[®] 以外の尿素水を補充しない
- AdBlue[®] が車両の塗装部分に付着してしまった場合は、すぐに水で洗い流す

■ 補充装置で AdBlue[®] を補充するとき

AdBlue[®] タンクから AdBlue[®] があふれるのを防ぐため、次のことをお守りください。

- 補給口左側にある補充確認用チューブの「F」ラインを超えて補充しないでください。



- 継ぎ足し補充をしないでください。
- 補給口にノズルを確実に挿入してください。

■ AdBlue[®] の保管について

AdBlue[®] を保管するときは次のことをお守りください。お守りいただかないと車両の部品や塗装の損傷、また、AdBlue[®] の成分が変質し異臭の発生につながるおそれがあります。

- AdBlue[®] を車内に放置しない
- AdBlue[®] の容器を密閉し、直射日光の当たらない、換気の良い冷暗所に保管する

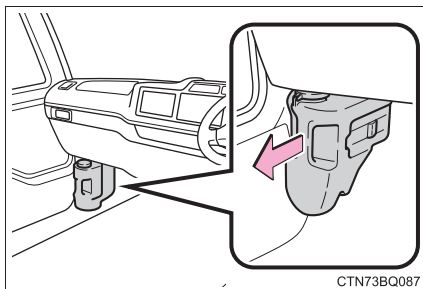
ウォッシャー液の補充

タンク側面から液量を確認し、不足しているときはウォッシャー液を補充する

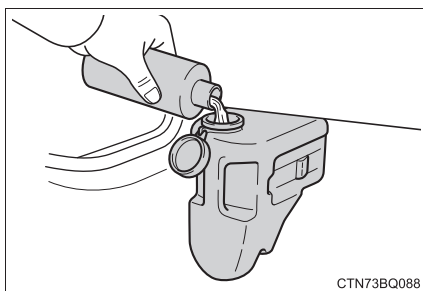
ウォッシャータンクの位置

▶ フロント用

- 1 レールに合わせて手前に引き出す



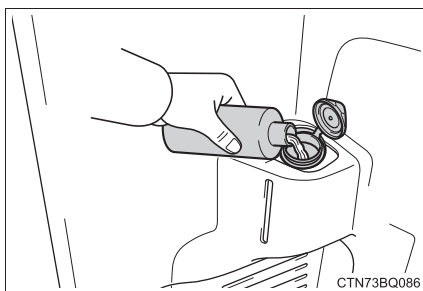
- 2 キャップを開けてウォッシャー液を補充する



▶ リヤ用★

キャップを開けてウォッシャー液を補充する

ラゲージルーム左側にあります



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 注意**■ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

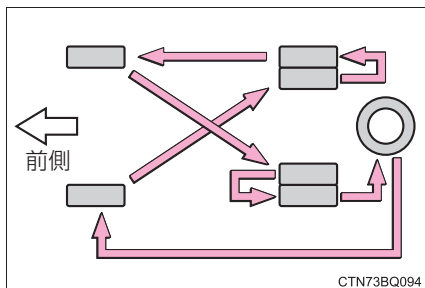
● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

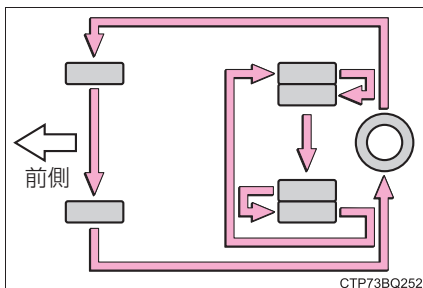
図で示すようにタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

▶ スチールホイール装着車

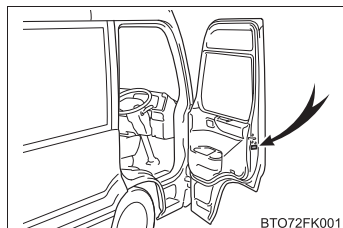


▶ アルミホイール装着車



 知識■ **タイヤ空気圧の数値**

タイヤの指定空気圧は、運転席ドアに貼られているタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

■ **タイヤローテーションをしたときは**

約 50 ～ 100km 走行したあとに、再度ホイール取り付けナットおよびストップボルトを締め付け、ゆるみがないことを確認してください。

■ **アルミホイール装着車のタイヤローテーション**

タイヤローテーションをするときは、前輪を後輪に取り付けたり、後輪を前輪に取り付けたりしないでください。

■ **タイヤ関連の部品を交換するとき**

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナット・ストップボルトを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

 警告■ **点検・交換時の警告**

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない

 警告**■異常があるタイヤの使用禁止**

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

必ずナットのテーパ部を内側にして取り付けてください。（→ P. 344）
テーパ部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■走行中に空気もれが起こったら**

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。(→ P. 380)

知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

 警告**■ タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

 注意**■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの清掃

ヒーター・クーラーを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に清掃してください。

清掃のしかた

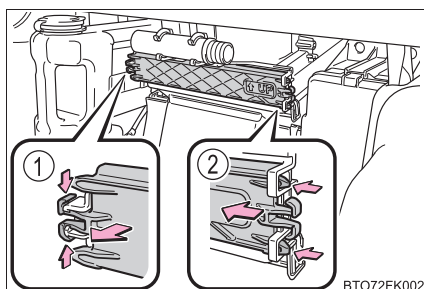
▶ ヒーター用

1 エンジンスイッチを “ LOCK ” にする

2 フィルターカバーを取りはずす

① フィルターカバーの固定を解除する

② フィルターカバーを矢印の方向にずらし、ツメからフィルターカバーを抜く

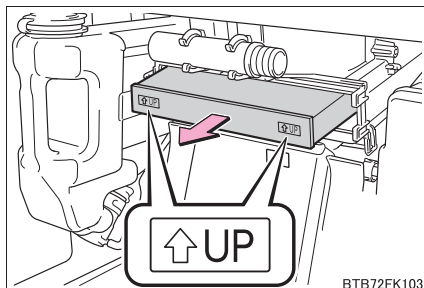


BT072FK002

3 エアコンフィルターを取りはずして清掃する

水洗いするか、裏面からエアブローでほこりを取り除きます。

仕様によりフィルターの形状が異なります。



BTB72FK103

4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

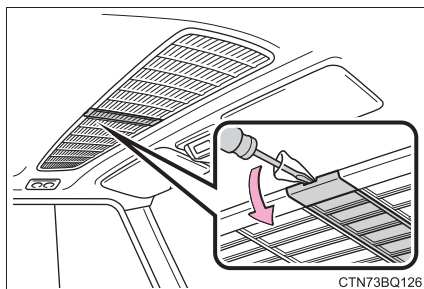
「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。(寒冷地仕様車)

▶ クーラー用

1 エンジンスイッチを “ LOCK ” にする

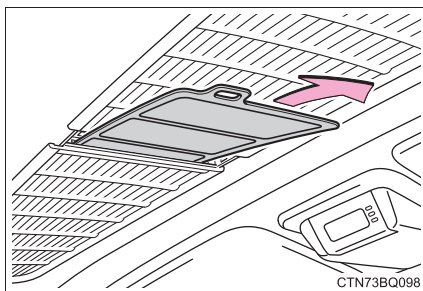
2 カバーをははずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください



CTN73BQ126

- 3 エアコンフィルターの端をもって取りはずす



- 4 水をかけてフィルターの汚れを洗い落とし、しっかり乾かす
- 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

知識

■ フィルターの清掃・交換について

ヒーター・クーラーを快適にお使いいただくために、フィルターを定期的に清掃、または交換してください。

● 清掃：10,000km [5,000km※] ごと

● 交換：30,000km ごと

※ 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■ ヒーター・クーラーの風量が減少したときは

フィルターの目づまりが考えられますので、フィルターを清掃してください。

⚠ 注意

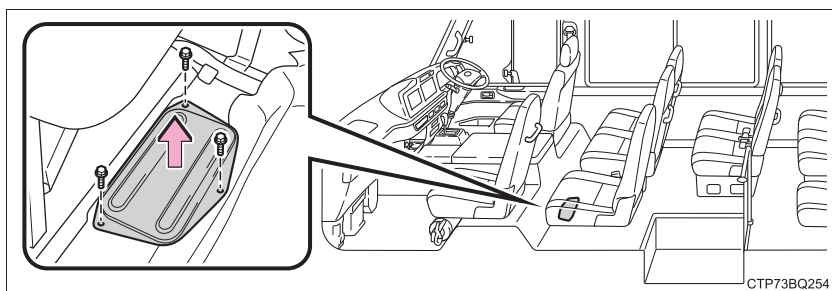
■ ヒーター・クーラーを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにヒーター・クーラーを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは水洗いするか、エアブローを使って清掃してください。ブラシなどでこすると、フィルターが損傷するおそれがあります。

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

- 1 エンジンスイッチを “ LOCK ” にする
- 2 ヒューズボックスを開ける
 - ▶ フロアヒューズボックス A (助手席うしろ床面)

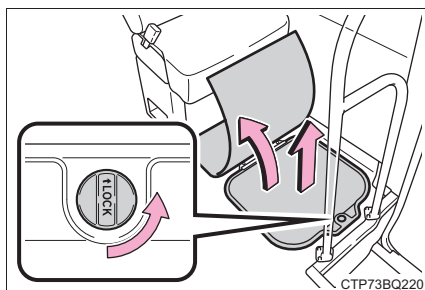


ネジ (3 本) をはずし、カバーをははずす

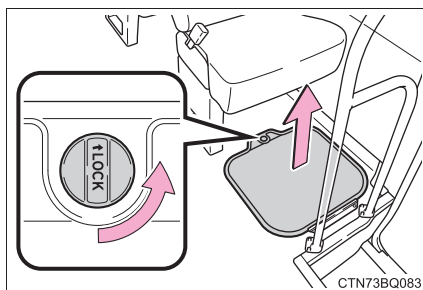
▶ フロアヒューズボックス B (センタードア後部)

- ① フロアカーペットをめくり (20、21 人乗りのみ)、ノブをまわして床面のカバーをははずす
ノブがまわしにくいときは、カバーを押しながらノブをまわしてください。

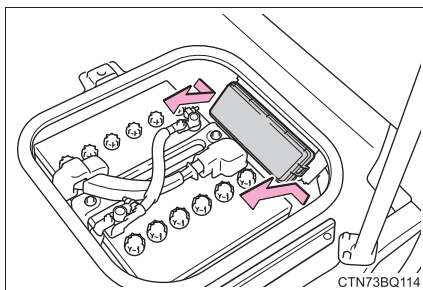
20、21 人乗り：



20、21 人乗りを除く：

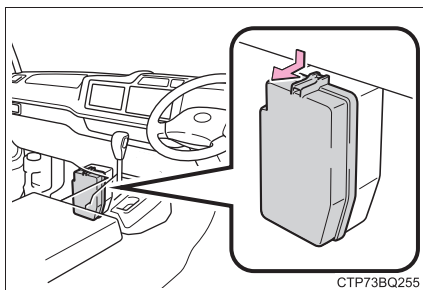


- ② ヒューズボックスカバーのツメを押しながらはずす



▶ 助手席足元

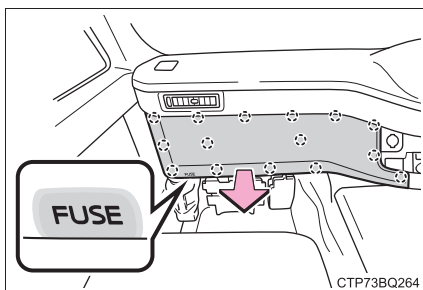
ツメを押しながら、カバーを手前に引く



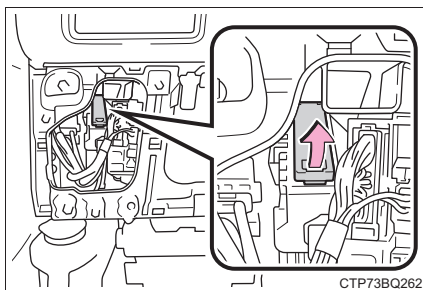
▶ 助手席インストルメントパネル内

- ① インストルメントパネルカバーをはずす

インストルメントパネルカバー左下の「FUSE」の下を持ち、カバーを手前に引いてはずします。



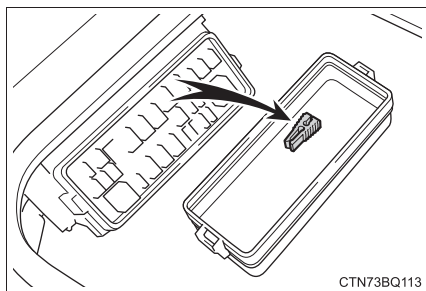
- ② ヒューズボックスカバーをはずす



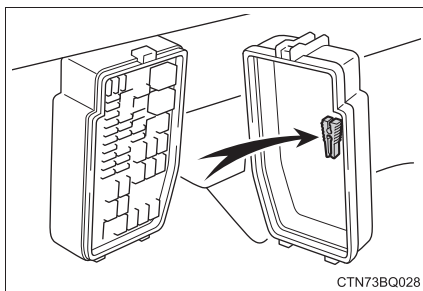
3 ヒューズはずしでヒューズを引き抜く

ヒューズはずしは、フロアヒューズボックス B（センタードア後部）・助手席足元ヒューズボックスのカバーに付いています。

▶ フロアヒューズボックス B
（センタードア後部）



▶ 助手席足元

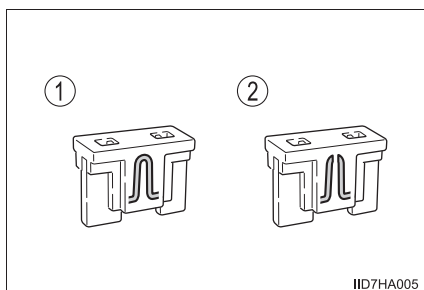


4 ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



 知識

■ ヒューズを交換したあと

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
(→ P. 291)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

 警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

 注意

■ ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

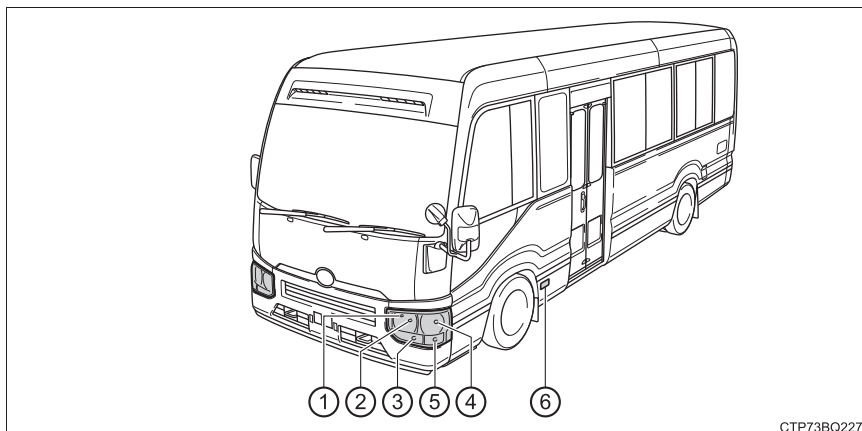
電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 381）

バルブ位置

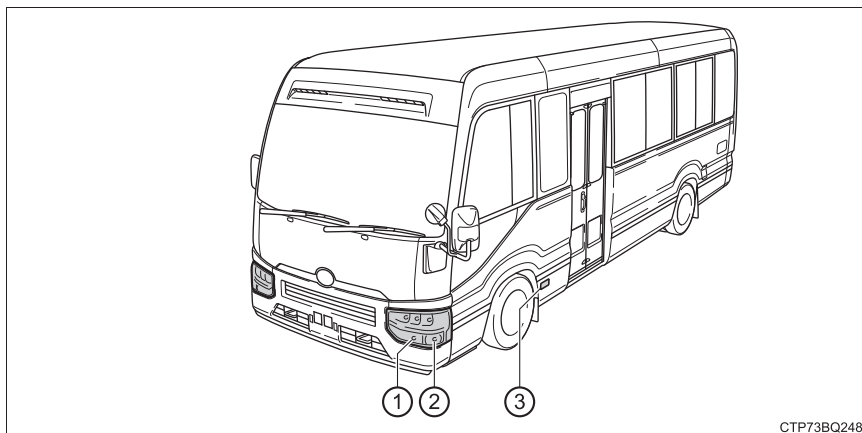
■ フロント

▶ ハロゲンヘッドランプ装着車



- | | |
|-----------------------|------------------|
| ① 車幅灯 | ④ ヘッドランプ（ロービーム） |
| ② ヘッドランプ（ハイビーム） | ⑤ フロントフォグランプ |
| ③ フロント方向指示灯／
非常点滅灯 | ⑥ サイド方向指示灯／非常点滅灯 |

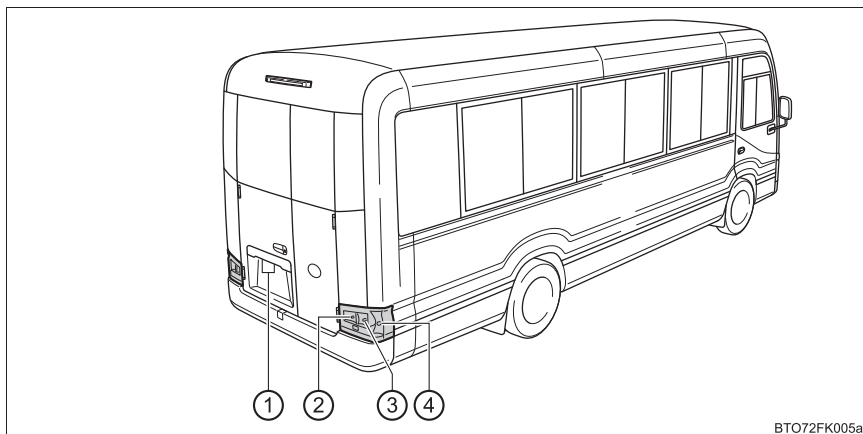
▶ LED ヘッドランプ装着車



- ① フロント方向指示灯／非常点滅灯
② フロントフォグランプ
③ サイド方向指示灯／非常点滅灯

■ リヤ

▶ 観音扉ドア



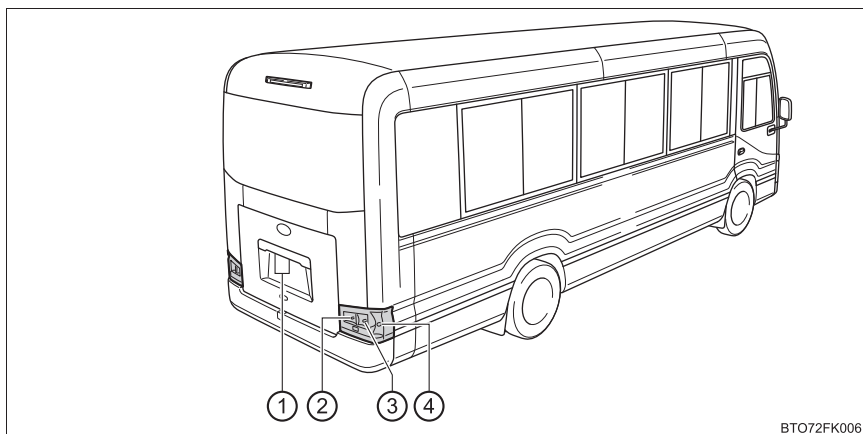
① 番号灯

③ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

② 後退灯

④ 制動灯／尾灯

▶ トランク



① 番号灯

③ リヤ方向指示灯／非常点滅灯

② 後退灯

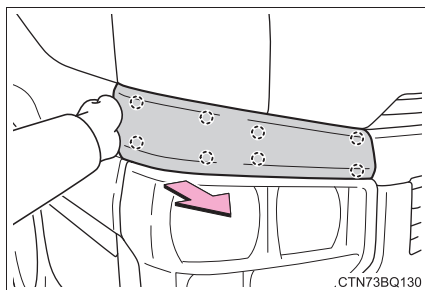
④ 制動灯／尾灯

電球交換のしかた

■ ヘッドランプ（ハイビーム）（ハロゲンヘッドランプ装着車）

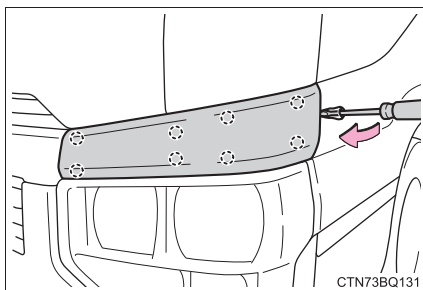
1 ランプ上部のカバーをはずす

▶ 運転席側



カバーと運転席ドアのすき間に手をかけ、カバーを手前に引いて取りはずす

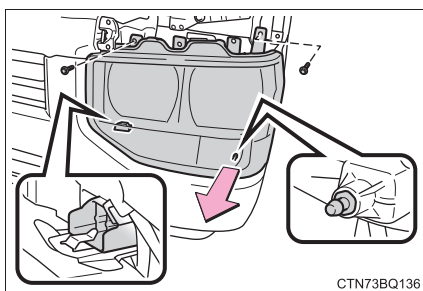
▶ 助手席側



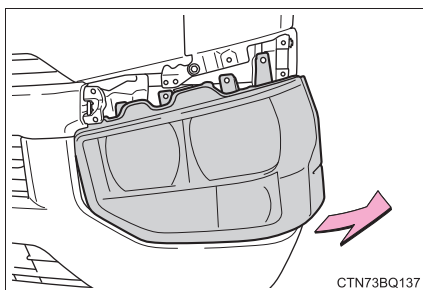
マイナスドライバーをカバーのすき間に入れ、マイナスドライバーを手前に引いてカバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。

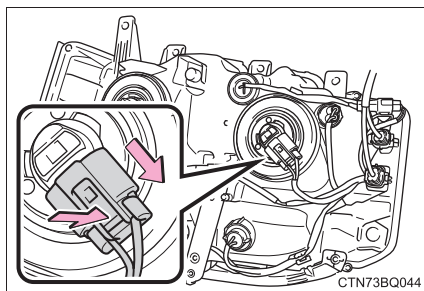
2 ボルト（2本）をはずし、ランプ本体を手前に引き出す



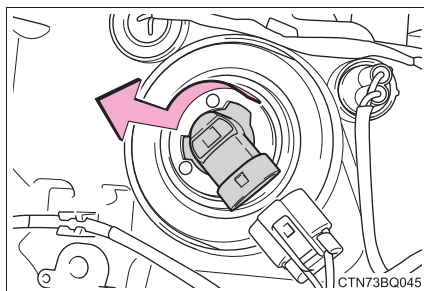
3 ランプ本体を矢印の方向へ動かしながら取りはずす



- 4 ツメを押し、コネクターを取りはずす

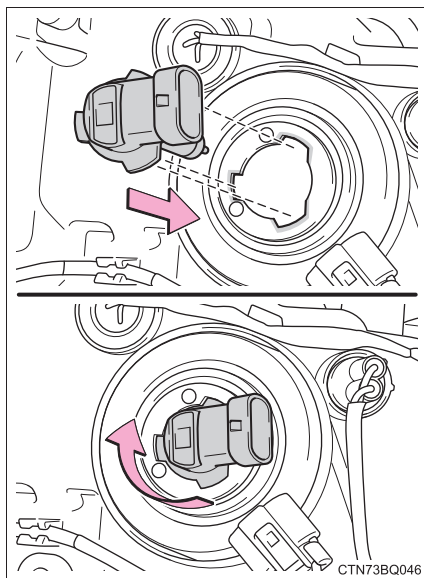


- 5 電球をまわして取りはずす



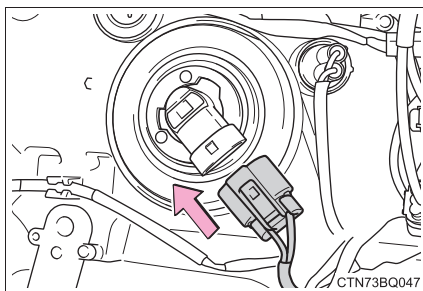
- 6 電球を交換し取り付ける

取付け部と電球のツメ（3ヶ所）を合わせて挿し込み、右にまわして固定します。



7 コネクターを取り付ける

コネクターを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったん交換したヘッドランプ（ハイビーム）を点灯させ、ランプの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください



8 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

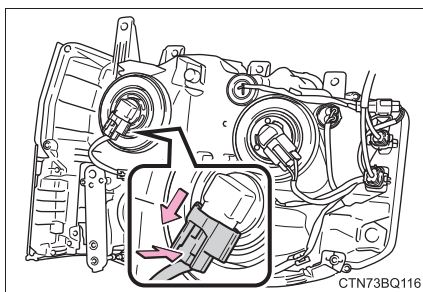
ランプ本体の固定部が、確実に取りついていることを確認してからボルトを取り付けてください。

■ ヘッドランプ（ロービーム）（ハロゲンヘッドランプ装着車）

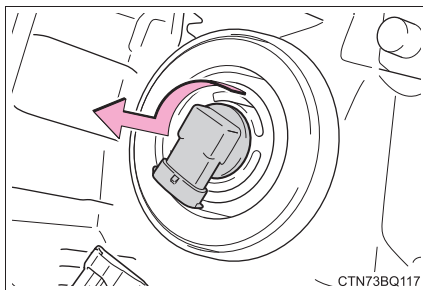
1 ランプ本体を取りはずす

ランプ本体の取りはずしかたは、ヘッドランプ（ハイビーム）の交換手順 **1**～**3** をお読みください。（→ P. 294）

2 ツメを押し、コネクターを取りはずす

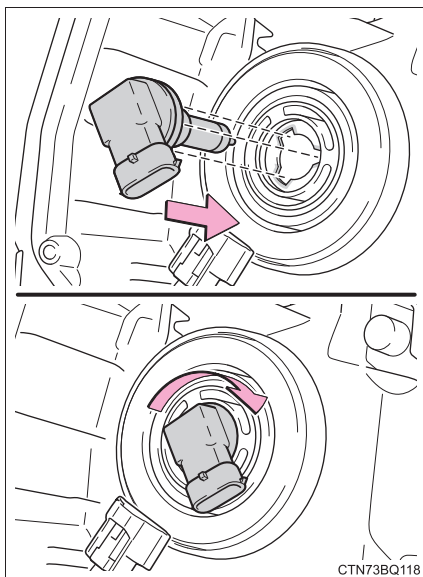


3 電球をまわして取りはずす

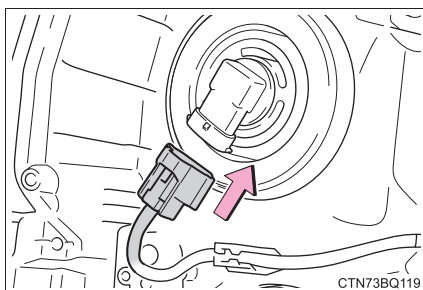


4 電球を交換し取り付ける

取付け部と電球のツメ（3ヶ所）を合わせて挿し込み、右にまわして固定します。

**5** コネクターを取り付ける

コネクターを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったん交換したヘッドランプ（ロービーム）を点灯させ、ランプの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください

**6** 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

ランプ本体の固定部が、確実に取りついていることを確認してからボルトを取り付けてください。

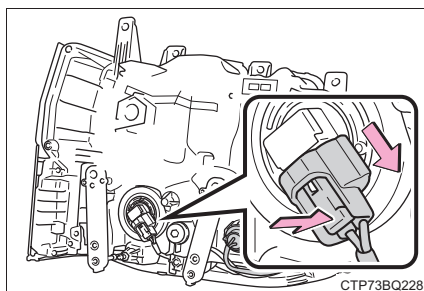
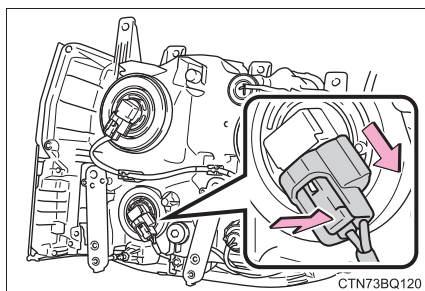
■ フロントフォグランプ

1 ランプ本体を取りはずす

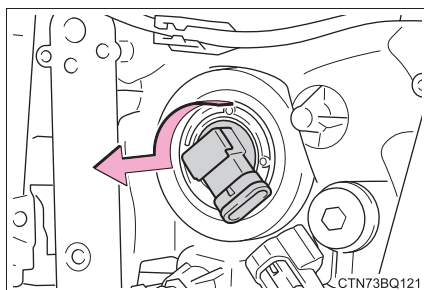
ランプ本体の取りはずしかたは、ヘッドランプ（ハイビーム）の交換手順 **1**～**3**をお読みください。（→ P. 294）

2 ツメを押し、コネクターを取りはずす

- ▶ ハロゲンヘッドランプ装着車 ▶ LED ヘッドランプ装着車

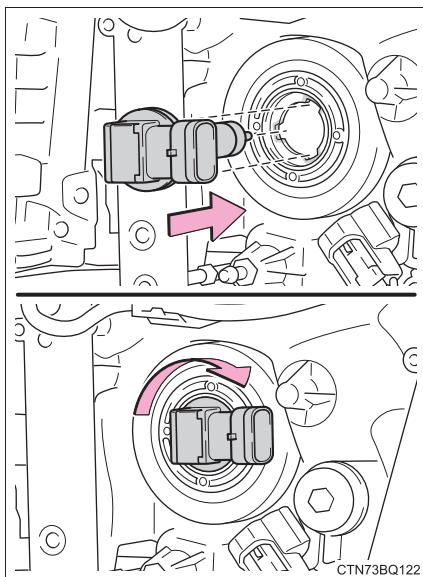


3 電球をまわして取りはずす

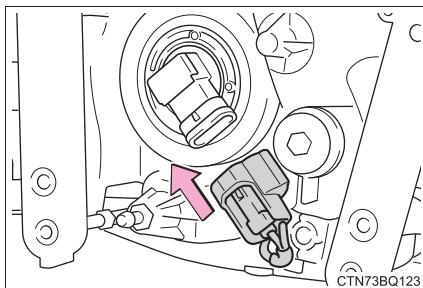


4 電球を交換し取り付ける

取付け部と電球のツメ（3ヶ所）を合わせて挿し込み、右にまわして固定します。

**5** コネクターを取り付ける

コネクターを軽くゆさぶってぐらつきがないことを確認し、いったん交換したフロントフォグランプを点灯させ、ランプの取り付け部からランプの光がもれていないことを目視確認してください

**6** 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

ランプ本体の固定部が、確実に取りついていることを確認してからボルトを取り付けてください。

■ 車幅灯（ハロゲンヘッドランプ装着車）・フロント方向指示灯／非常点滅灯

1 ランプ本体を取りはずす

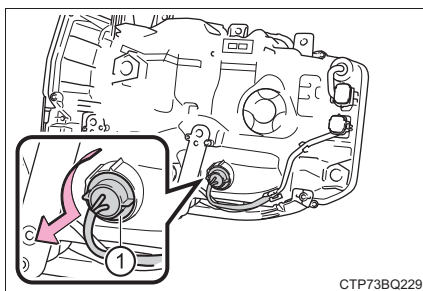
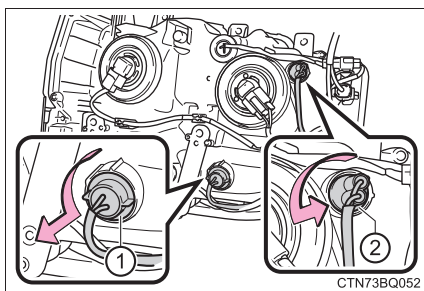
ランプ本体の取りはずしかたは、ヘッドランプ（ハイビーム）の交換手順①～③をお読みください。（→ P. 294）

2 ソケットをまわして取りはずす

- ① フロント方向指示灯／非常点滅灯
- ② 車幅灯

▶ ハロゲンヘッドランプ装着車

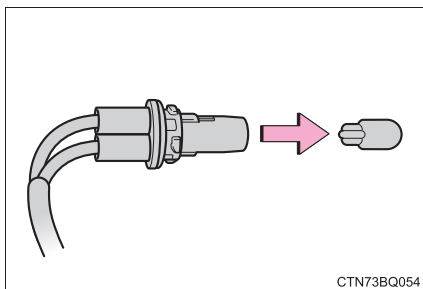
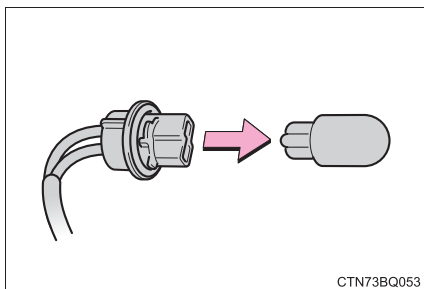
▶ LED ヘッドランプ装着車



3 電球を取りはずす

▶ フロント方向指示灯／非常点滅灯

▶ 車幅灯

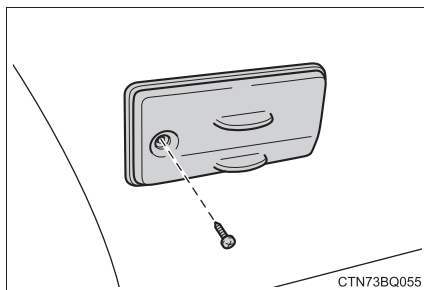


4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

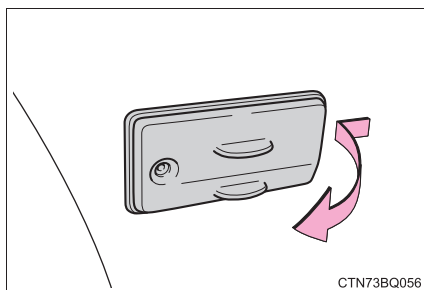
ランプ本体の固定部が、確実に取りついていることを確認してからボルトを取り付けてください。

■ サイド方向指示灯／非常点滅灯

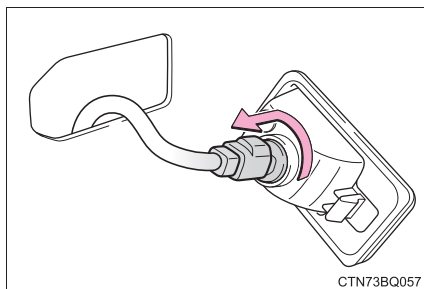
- 1 ネジ（1 本）を取りはずす



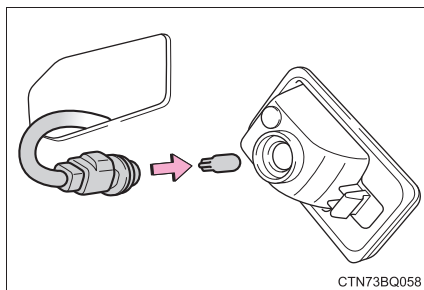
- 2 ランプ本体を車両前側に押し
ながら取りはずす



- 3 ソケットをまわして取りはずす



- 4 電球を取りはずす



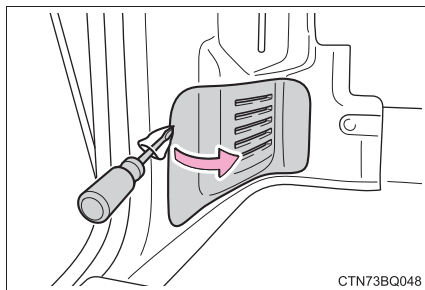
- 5 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 後退灯・制動灯／尾灯・リヤ方向指示灯／非常点滅灯

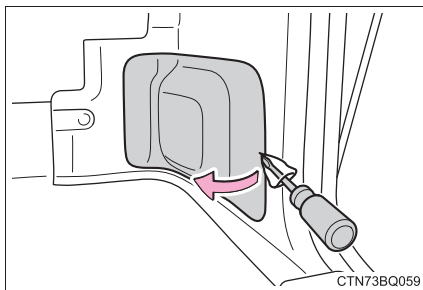
1 トランクまたは観音扉ドアを開けて、カバーを取りはずす

マイナスドライバーなどをカバーの切り欠きに挿し込み取りはずします。傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端にテープなどを巻いて保護してください。

▶ 助手席側

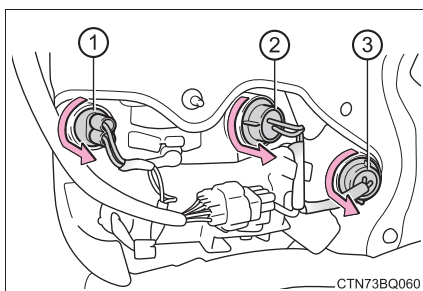


▶ 運転席側



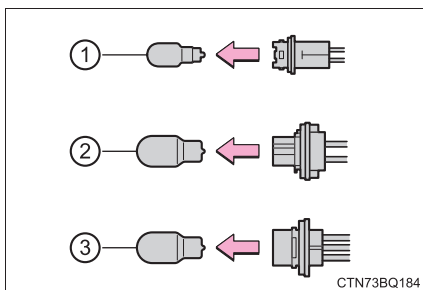
2 ソケットをまわして取りはずす

- ① 後退灯
- ② リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- ③ 制動灯／尾灯



3 電球を取りはずす

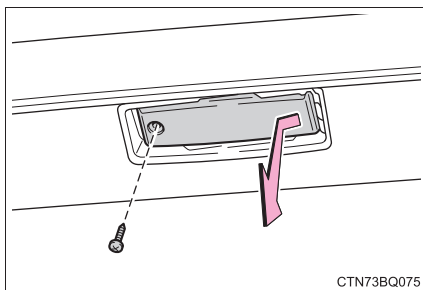
- ① 後退灯
- ② リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- ③ 制動灯／尾灯



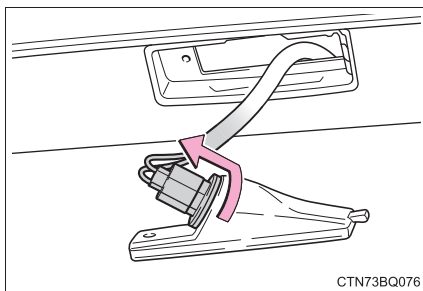
4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける

■ 番号灯

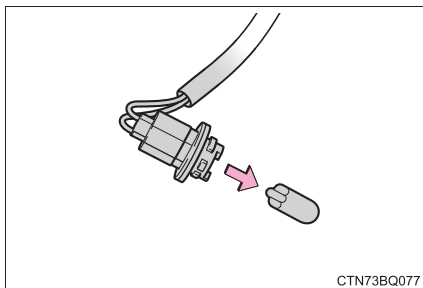
- 1 交換する側のネジ（1 本）をはずし、ランプ本体を引き出す



- 2 ソケットを取りはずす



- 3 電球を取りはずす



- 4 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の手順で取り付ける
ランプ本体のツメが確実にかかっていることを確認してください。

■ 次の電球を交換するには

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ（ハイ／ロービーム）（LED ヘッドランプ装着車）★
- 車幅灯（LED ヘッドランプ装着車）★
- ハイマウントストップランプ
- リヤフォグランプ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ LED ランプについて

ヘッドランプ（ハイ／ロービーム）（LED ヘッドランプ装着車）★・車幅灯（LED ヘッドランプ装着車）★・ハイマウントストップランプ・リヤフォグランプ★は、数個の LED で構成されています。もし、LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■ ヘッドランプ本体の固定をはずすときは

電球を交換したあとは、トヨタ販売店でヘッドランプの光軸の点検を受けてください。

■ 電球の交換について

電球の交換作業をするときに、部品などの破損が心配な方は、トヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 警告**■電球を交換するときは**

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 運転席側ヘッドランプ上部のカバーを取りはずすときは、運転席ドアを開けないでください。カバーとドアのあいだに指を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。
取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路・および構成部品を、修理または分解しないでください。感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

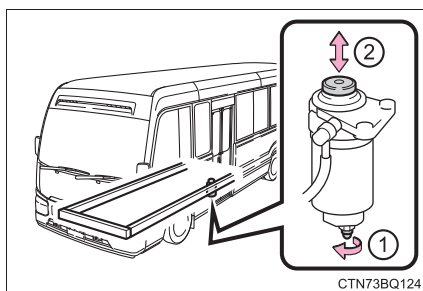
燃料・水分離器の排水

マルチインフォメーションディスプレイに「燃料フィルタに水がたまっています」が表示されたときは、速やかに排水してください。排水作業が困難な場合は、トヨタ販売店で排水することをおすすめします。

- 1 エンジンを停止する
- 2 軽油が飛散しないように排水栓の下に受け皿などを置く

- 3 図のようにポンプを操作し、排水する

- ① 排出栓を2回転ほどゆるめる
排水栓は、ゆるめすぎないようにしてください。
- ② ポンプを押し、水を排出する
コップ半分くらいの水を排出します。



- 4 排水処理が終わったら、排出栓を確実に締め付ける
排出栓の締め付けは、手で行ってください。
- 5 ポンプが抵抗を感じるようになるまで数回押す

万一の場合には

8

8-1. まず初めに

故障したときは.....	308
非常点滅灯 (ハザードランプ)	309
発炎筒	310
消火器	312
車両を緊急停止するには	314
水没・冠水したときは	316
車中泊が必要なときは	317
幼児車では	318

8-2. 緊急時の対処法

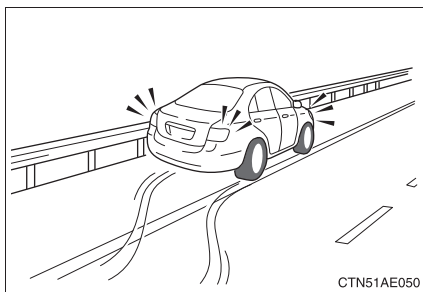
けん引について	320
警告灯がついたときは	325
警告メッセージが 表示されたときは	329
パンクしたときは	334
エンジンがかからない ときは	350
バッテリーがあがった ときは	351
オーバーヒートした ときは	354
スタックしたときは	357
電動格納式補助ステップが 格納できなくなった ときは	359
ドライバー異常時対応 システム	360

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

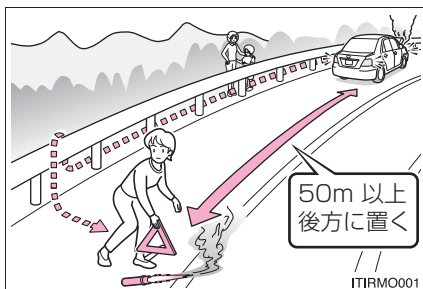
非常点滅灯（→ P. 309）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

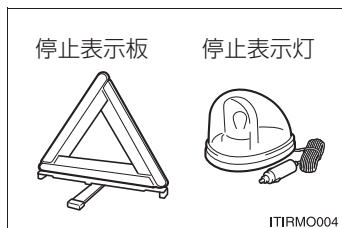
- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 310）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

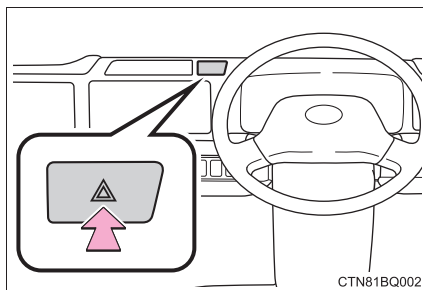


非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

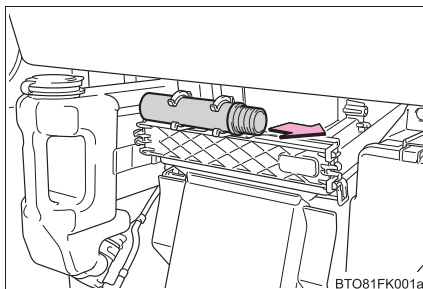
■ 非常点滅灯について

エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

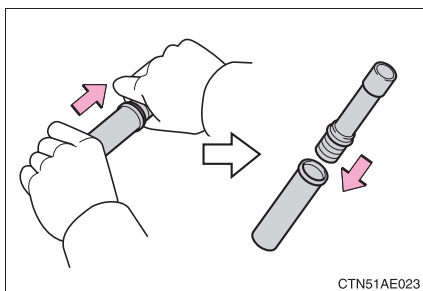
発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
(トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

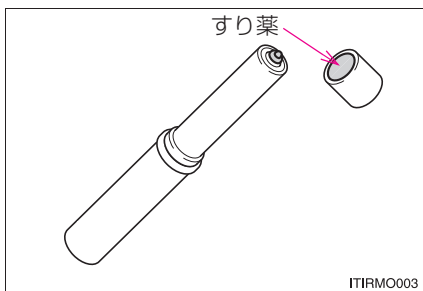
- 1 助手席足元の発炎筒を取り出す



- 2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



- 3 先端のフタを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる
必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向け
ないでください。



知識

■ 発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

 警告**■ 発炎筒を使用してはいけない場所**

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

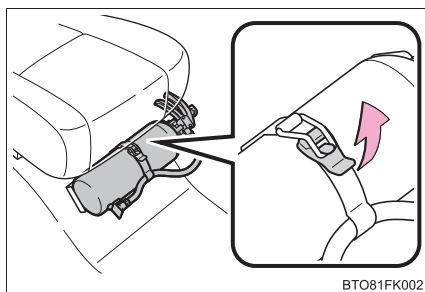
- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさせない

消火器★

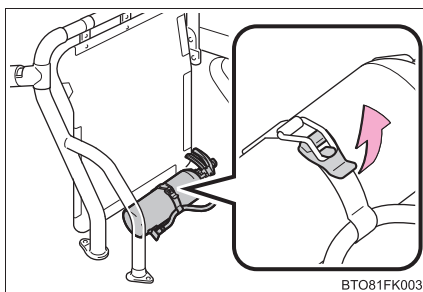
使用方法については、消火器本体に記載されている説明をよく読んで万
一に備えてください。

取り出し方

▶ バス（幼児車を除く）



▶ バス（幼児車）



レバーを引いて、金具をフックからはずす

格納のしかた

消火器のレバーをブラケットの穴に挿し込み、ベルトのフックをかけて
確実に固定する

知識

■有効期限について

消火器には有効期限があります。有効期限が切れる前に新品と交換してください。

⚠ 警告

■消火器の取り扱いについて

消火器は必ず所定の格納位置に格納してください。固定しないままフロアなど
に置いておくと、走行中や急ブレーキをかけたときなどに飛び出し、思わぬ事
故につながるおそれがあり危険です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

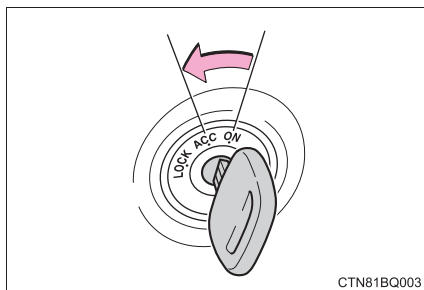
 注意**■ 注意事項について**

消火器本体のラベルに記載されている注意事項を遵守し、正しくご使用ください。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける
ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。
- 2 シフトレバーを N に入れる
▶ シフトレバーが N に入った場合
- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める
- 4 エンジンを停止する
▶ シフトレバーが N に入らない場合
- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる
- 4 エンジンスイッチを “ ACC ”
にして、エンジンを停止する



- 5 車を安全な道路脇に停める

 警告**■ 走行中にやむを得ずエンジンを切るときは**

- ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。
- キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ちて着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、窓を開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ちて着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■ 水位が車体底辺部を超えると

水位が車体底辺部を超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、センタードアのオートドアが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■ 緊急脱出用ハンマー ※ の使用について

この車両のフロントガラスには合わせガラスが使用されています。合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

※ 詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

警告

■ 走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは

⚠ 警告

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

● 詳しい注意事項などを以下の URL で確認することができます。

[https://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/
social_contribution/tdrs/emergency](https://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/tdrs/emergency)



CTP82BQ180

幼児車では

非常ドア

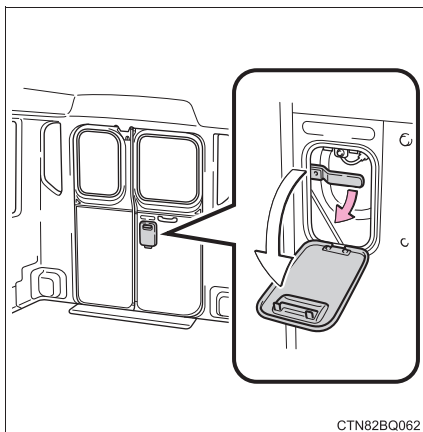
万一の場合は非常ドアを使用して、車内および車外へ出入りすることができます。

観音扉ドアの操作については、P. 93 をお読みください

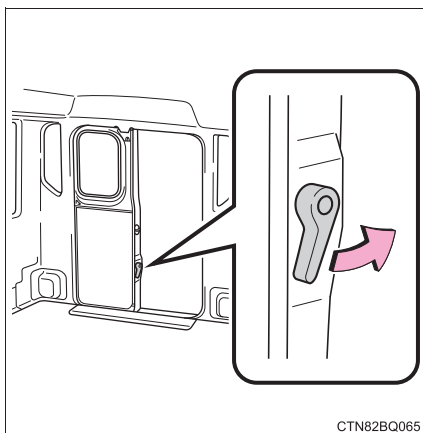
■ 車内からの開閉

- 1 カバーを手前に引いてはすし、レバーを下に動かし、助手席側ドアを開ける

エンジンスイッチが“ON” のとき、ブザーが鳴り非常ドア開放警告灯が点灯します。



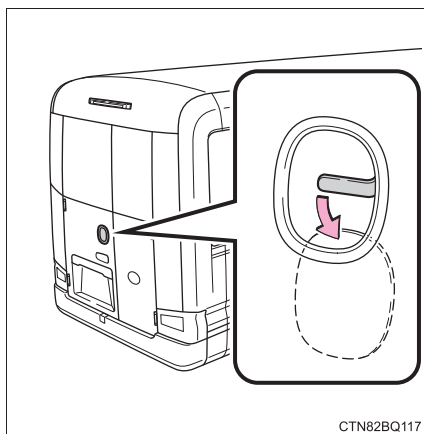
- 2 レバーを外側に動かし、運転席側ドアを開ける



■ 車外からの開閉

透明プラスチックの板をはずし、レバーを下に動かし、助手席側ドアを開ける

エンジンスイッチが“ON”のとき、ブザーが鳴り非常ドア開放警告灯が点灯します。



CTN82BQ117

⚠ 警告

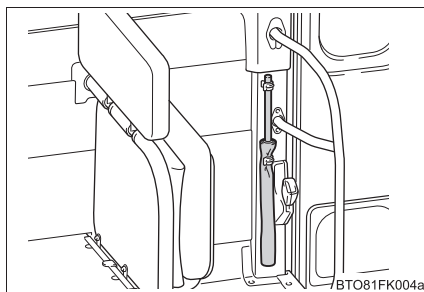
- お子さまを非常ドアから乗り降りさせるときは、必ず保護者の人が付き添ってください。乗り降りする位置が高いため、足を踏みはずし、けがをするおそれがあります。
- 観音扉ドアの操作にあたって：→ P. 97

赤旗

緊急時や交通量が多い場所での幼児の乗り降りに使用します。

■ 搭載場所

センタードアのうしろ側



BTO81FK004a

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。
その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

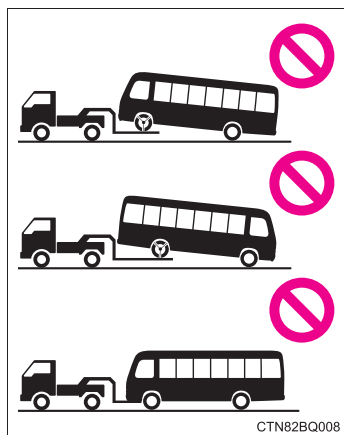
やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき

必ず6輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、車の向きがかわり事故につながったりするおそれがあります。



CTN82BQ008

■ 他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- エンジンスイッチを“LOCK”にしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤーロープは使用しない
 - ・ 速度 30km/h 以下、距離 80km 以内でけん引する
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■ 長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で 6 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■ 輸送用フックについて

輸送用フックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

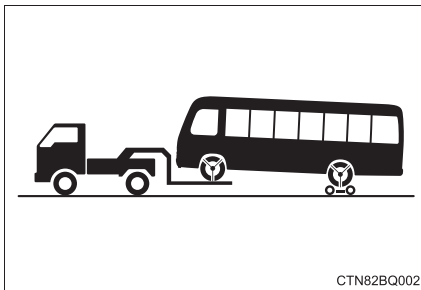
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンがかかるが車が動かない
- 異常な音がする

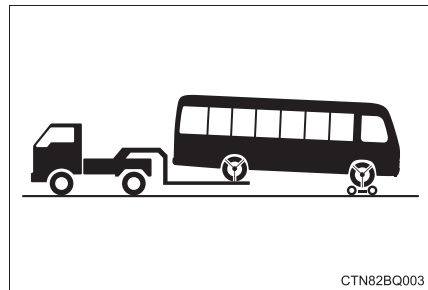
レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは

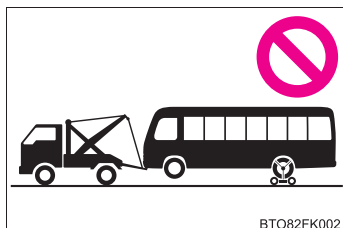


台車を使用して前輪を持ち上げる

⚠ 注意

■ レッカー車でけん引するとき

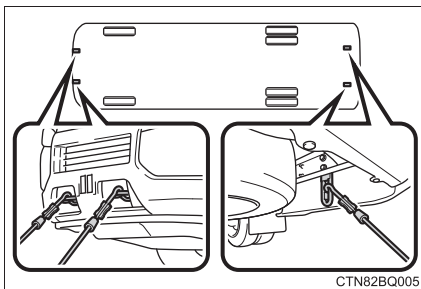
車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



BTO82FK002

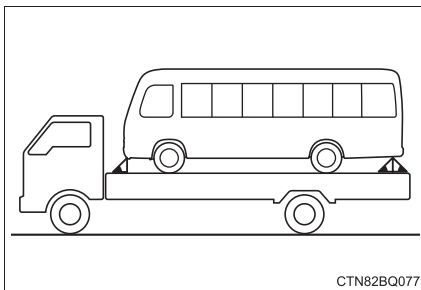
車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



CTN82BQ005

鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45°になるように固縛する



CTN82BQ077

⚠ 注意

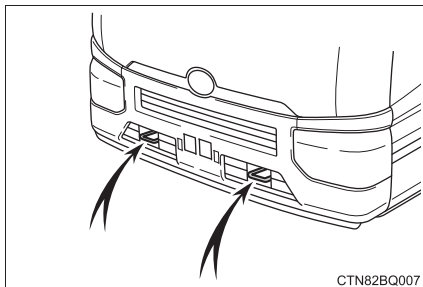
■ 車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

他車にけん引してもらおうとき

- 1 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

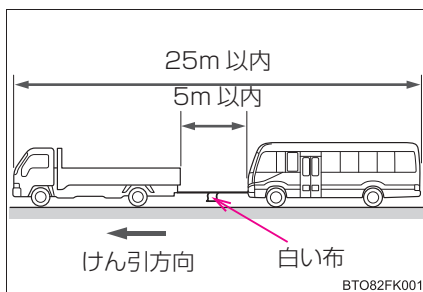


CTN82BQ007

- 2 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3m 平方 (30cm×30cm) 以上



BTO82FK001

- 3 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンを始動する

エンジンが始動しないときは、エンジンスイッチを“ON”にしてください。

- 4 けん引される車両のシフトレバーをNにしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 133

 知識

■けん引フックの使用目的

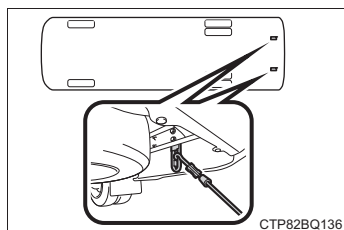
けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■輸送用フックについて

このフックは車両を輸送するときに固定するためのものです。他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引したりすることはありません。



警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ブレーキ警告灯／バキューム警告灯（警告ブザー ※¹） ・ ブレーキ液の不足 ・ ブレーキシステムの異常 → ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
	エンジン警告灯 ・ エンジン電子制御システムの異常 ・ 排出ガス浄化装置の異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ プリテンショナー付シートベルトシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	ABS 警告灯 ・ ABS の異常 ・ ブレーキアシストの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	パーキングブレーキ未解除警告灯（警告ブザー ※²） パーキングブレーキがかかっている → パーキングブレーキを解除する
	センタードア開放警告灯（警告ブザー ※³） 運転席ドアまたはセンタードアが確実に閉まっていない → 全ドアを閉める

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	非常ドア開放警告灯★（警告ブザー） エンジンスイッチが“ON” のとき、非常ドアのカバー、または非常ドアが開いた → 非常ドアのカバー、または非常ドアの状態を確認する
	燃料残量警告灯 燃料の残量が約 14.3L 以下になった → 燃料を補給する
 (点滅または点灯)	AdBlue[®] 残量警告灯 AdBlue [®] の残量不足 → AdBlue [®] を補充してください
 (点滅または点灯)	AdBlue[®] 品質異常警告灯 AdBlue [®] の品質異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
 (点滅または点灯)	AdBlue[®] 噴射異常警告灯 AdBlue [®] システム異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。
	運転席シートベルト非着用警告灯(警告ブザー※4) 運転席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する
	スリップ表示灯 ・ VSC の異常 ・ TRC の異常 ・ ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 VSC・TRC システムの作動時は点滅します。 (→ P. 195)
 (点滅または点灯)	PCS 警告灯（警告ブザー） PCS（プリクラッシュセーフティ）の異常が考えられます。 → ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。 プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 → P. 172

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	LDA 表示灯（警告ブザー） LDA（レーンディパーチャーアラート）の異常が考えられます。 → ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。
 (黄色)	AHB 表示灯（警告ブザー） AHB（オートマチックハイビーム）の異常が考えられます。 → ディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。
	クリアランスソナー OFF 表示灯（警告ブザー） クリアランスソナーの異常 → ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。 センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。
	運転支援情報表示灯 次のシステムに異常が考えられます。 ・ PCS（プリクラッシュセーフティ） ・ LDA（レーンディパーチャーアラート） → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。

※1 **ブレーキ警告ブザー：**

ブレーキ液が不足しているときに、車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。

※2 **パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：**

パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。

警告ブザーが鳴ったときは、パーキングブレーキを解除してください。

※3 **センタードア開放走行時警告ブザー：**

運転席ドアまたはセンタードアが確実に閉まっていない状態で走行し、車速が約 5km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。

※4 **運転席シートベルト非着用警告ブザー：**

運転席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的になります。

 知識

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

 警告

■ ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。
ABS に異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ ブレーキ警告灯について

ポンピングブレーキ※を行うと、一時的に点灯することがあります。この場合、ブレーキの効が悪くなり、制動距離が長くなるおそれがあります。効が悪いときは、ブレーキペダルを強く踏んでください。なお、その後消灯すれば異常ではありません。

※ ブレーキペダルを数回に分けて小刻みに踏むブレーキのかけ方

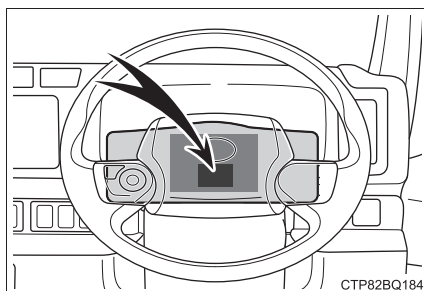
■ バキューム警告灯・ブザーについて

エンジン回転中、バキュームタンク内の負圧が低下すると警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ります。ただちに安全な場所に停車させ、エンジンをアイドル回転させて警告灯が消灯するまで、負圧を上昇させてください。
この場合、ブレーキの効が悪くなり、制動距離が長くなるおそれがあります。効が悪いときはブレーキペダルを強く踏み続けてください。
アイドル回転させても消灯しないときは、ただちにトヨタ販売店にご連絡ください。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

マルチインフォメーションディスプレイ



処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。販売店で点検をするように表示されたときは、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

専用警告灯	警告ブザー ※	警告内容
—	あり	・ 走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。 ・ 車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
—	なし	・ 電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。 ・ 車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

 知識

■ 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■ 取扱説明書の確認を指示する警告メッセージが表示されたとき

● 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。
ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

- ・「エンジン油圧不足」
- ・「燃料フィルタに水がたまっています」
- ・「補機バッテリー充電システム異常」

■ 「エンジンオイル不足」が表示されたとき

エンジンオイルが不足しているときにメッセージが表示されます。エンジンオイル量を点検し、オイルを補給してください。

また、傾斜路などに停車したときに表示される場合があります。水平な路面に移動し、メッセージが表示されるか確認してください。

■ “機能故障 販売店で点検”が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS（プリクラッシュセーフティ）
-  LDA（レーンディパーチャーアラート）
-  AHB（オートマチックハイビーム）
-  発進遅れ告知
-  クリアランスソナー★

すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能停止 取扱書を確認” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS（プリクラッシュセーフティ）
-  LDA（レーンディパーチャーアラート）
-  AHB（オートマチックハイビーム）
-  発進遅れ告知
-  クリアランスソナー★

次の対処法に従ってください。

- バッテリー電圧を確認する
- Toyota Safety Sense で使用するセンサーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→ P. 161）
- クリアランスソナーで使用するセンサーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→ P. 185）
- センサーが正しく作動しなくなる状況が解決すると、表示が消える場合があります。

■ “機能停止 前方カメラ視界不良 取扱書を確認” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS（プリクラッシュセーフティ）
-  LDA（レーンディパーチャーアラート）
-  AHB（オートマチックハイビーム）
-  発進遅れ告知

次の対処法に従ってください。

- ワイパー機能を使って、フロントウインドウガラスの汚れや付着物を取り除く。
- エアコン機能を使って、フロントウインドウガラスの曇りを取り除く。
- ステッカーを剥がすなど、カメラの視界を遮らないようにする。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “機能停止 前方カメラ作動温度範囲外常温までお待ちください” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS（プリクラッシュセーフティ）
-  LDA（レーンディパーチャーアラート）
-  AHB（オートマチックハイビーム）
-  発進遅れ告知

次の対処法に従ってください。

- 炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる
- 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります
- 極寒での駐車時など、前方カメラが低温の時は、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる

■ “機能停止 前方レーダー汚れ 汚れを除去してください” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS（プリクラッシュセーフティ）
-  発進遅れ告知

次の対処法に従ってください。

- レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→ P. 161）
- 砂漠・草原・郊外などの、周辺車両や構造物が少ない広々とした地域を走行すると表示される場合があります。車両周辺に構造物や車両などが存在する場所まで走行すると、表示が消える場合があります。

■ “機能停止 前方レーダー作動温度範囲外 常温までお待ちください” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS（プリクラッシュセーフティ）
-  発進遅れ告知

レーダー周辺の温度が作動条件外です。適切な温度になるまでお待ちください。

■ “機能停止 前方レーダー向き調整中 取扱書を確認” が表示されたときは

次のいずれかのシステムが停止しています。

-  PCS（プリクラッシュセーフティ）
-  発進遅れ告知

次の対処法に従ってください。

- レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除いてください。（→ P. 161）
- レーダーの向きがずれている可能性があり、レーダーが走行中に自動で再調整しています。しばらく走行を続けてください。

 注意

■ エンジンオイル量に関する警告が表示されたとき

エンジンオイルが不足した状態で走行を続けると、エンジンの損傷につながります。

■ “燃料フィルタに水がたまっています 取扱書を確認してください” が表示されたとき

警告メッセージが表示されたまま走行しないでください。燃料フィルタ内に水がたまった状態で走行を続けると、燃料噴射ポンプの損傷につながります。

パンクしたときは

パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。(タイヤについての詳しい説明は、P. 280 を参照してください)

警告

■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。

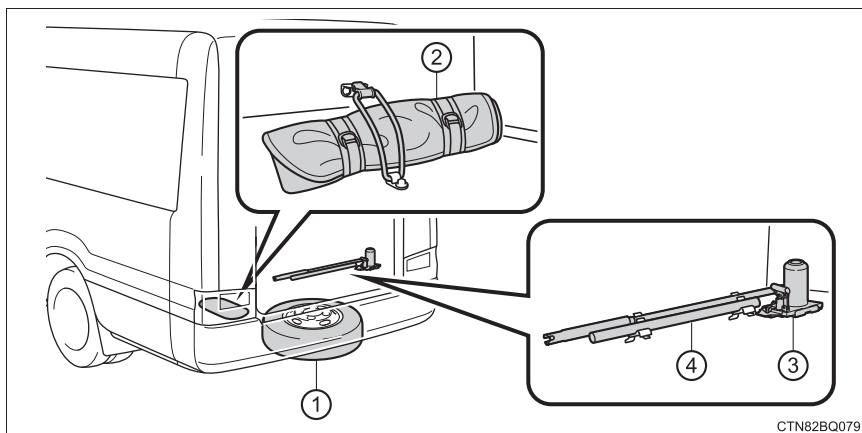
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる (→ P. 309)

スペアタイヤ・工具・ジャッキの位置

▶ バス（幼児車を除く）A タイプ



CTN82BQ079

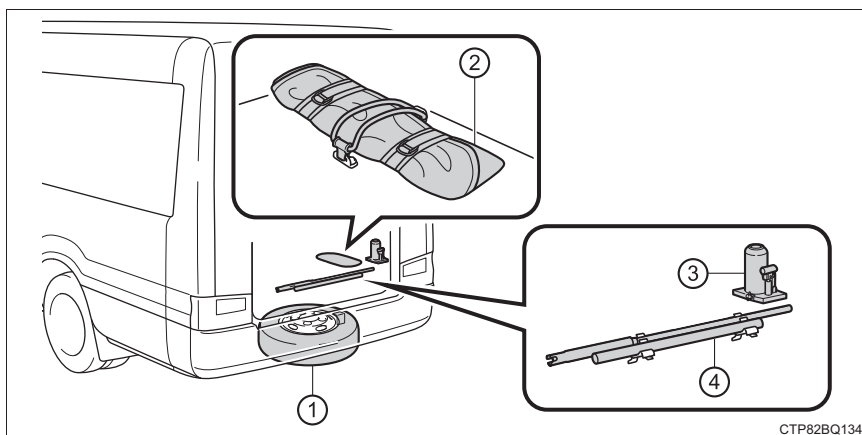
① スペアタイヤ

② 工具袋

③ ジャッキ

④ ジャッキハンドルバー・
ホイールナットレンチバー

▶ バス（幼児車を除く）B タイプ



CTP82BQ134

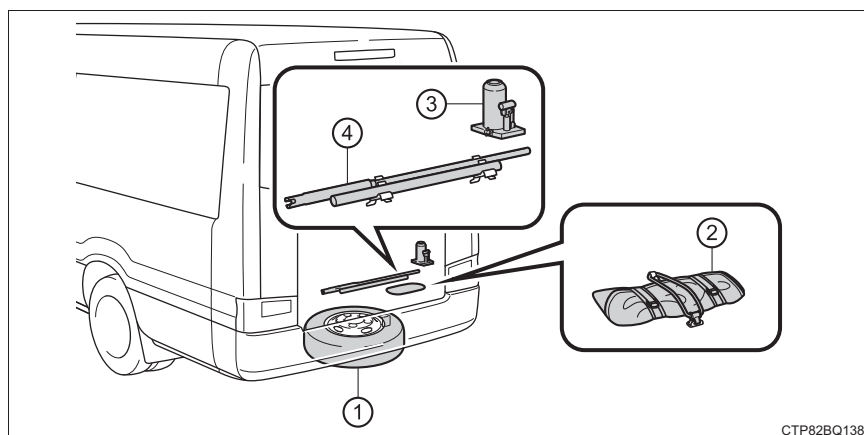
① スペアタイヤ

② 工具袋

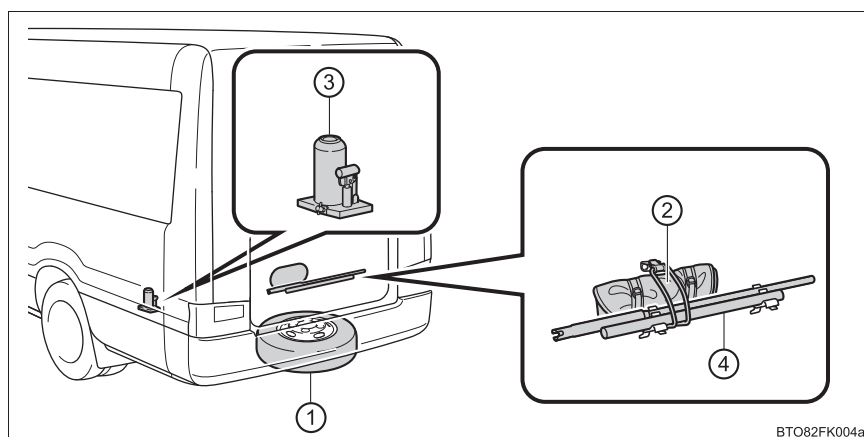
③ ジャッキ

④ ジャッキハンドルバー・
ホイールナットレンチバー

▶ バス（幼児車を除く）Cタイプ

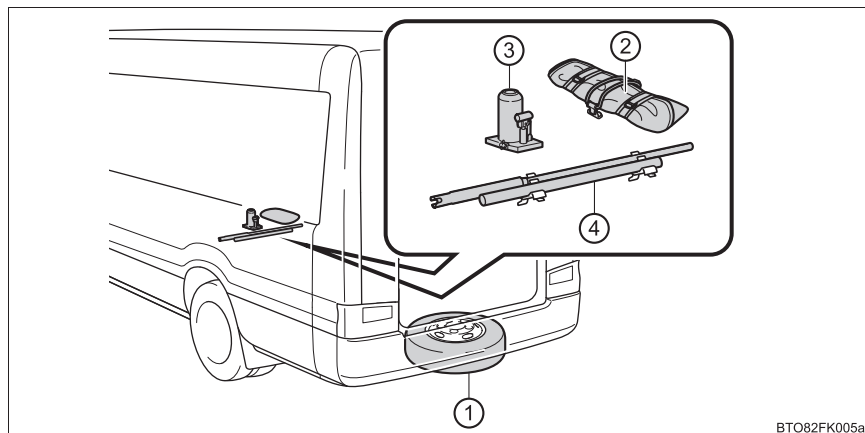


- ① スペアタイヤ
 - ② 工具袋
 - ③ ジャッキ
 - ④ ジャッキハンドルバー・ホイールナットレンチバー
- ▶ 幼児車



- ① スペアタイヤ
- ② 工具袋
- ③ ジャッキ
- ④ ジャッキハンドルバー・ホイールナットレンチバー

▶ バン



① スペアタイヤ

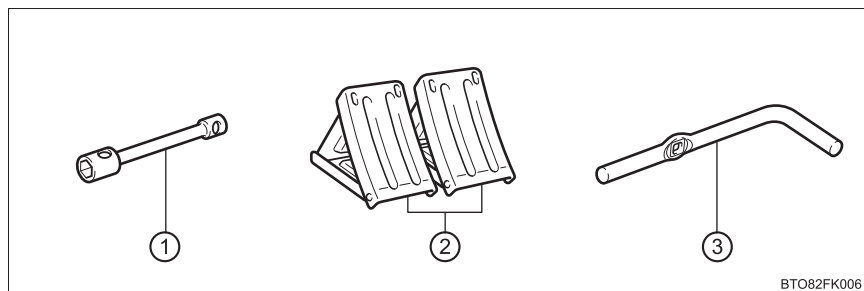
② 工具袋

③ ジャッキ

④ ジャッキハンドルバー・
ホイールナットレンチバー

工具

工具袋の中に収納されています。(工具袋の取り出し方：→ P. 339)



BTO82FK006

① ホイールナットレンチ

③ スペアタイヤ格納用ハンドル

② 輪止め

⚠ 警告

■ ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

次のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
 - 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
 - ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
 - ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
 - ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
 - 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
 - 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを載せない
 - 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
 - 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

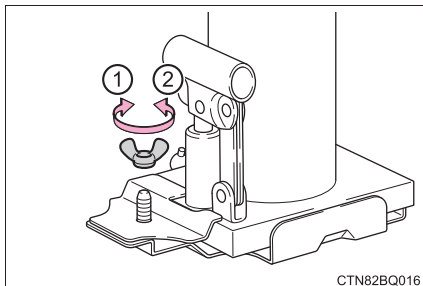
■ ジャッキハンドルバー・ホイールナットレンチバーを使用するときは

使用中、不意に分解しないように、工具が確実に挿し込まれていることを確認してください (→ P. 340)

ジャッキの取り出し方

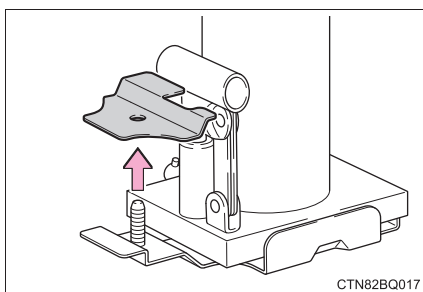
1 蝶ネジをゆるめる

- ① 締まる
- ② ゆるむ



2 プレートをはずしてジャッキを取り出す

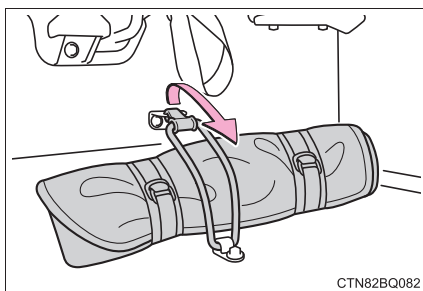
取り付けるときは、プレートにかみ合わせて蝶ネジを締めます。



工具袋の取り出し方

固定バンドをはずす

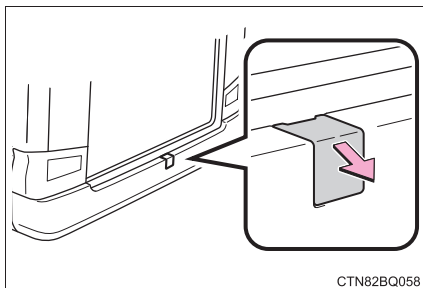
使用後はもとの位置にもどします。
固定バンドで確実に固定してください。



スペアタイヤの取り出し方

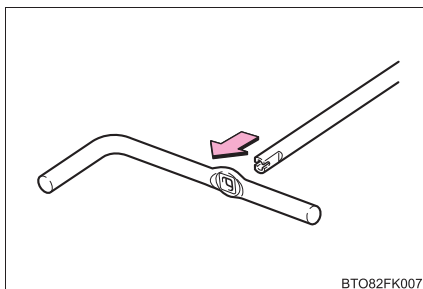
▶ 折りたたみ式バックステップ非装着車

- 1 観音扉ドアまたはトランクを開け、カバーをはずす

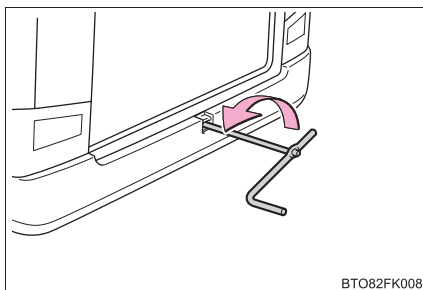


▶ 折りたたみ式バックステップ装着車

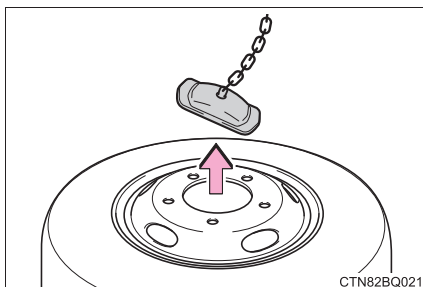
- 1 折りたたみ式バックステップを降ろす (→ P. 95)
- 2 ジャッキハンドルバーをスペアタイヤ格納用ハンドルの穴部に確実に挿し込む



- 3 組み付けたジャッキハンドルバーをスペアタイヤ格納具の穴部に挿し込んでまわし、スペアタイヤを下げる

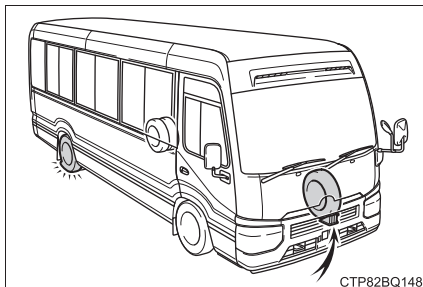


- 4 スペアタイヤが地面に着くまで下げたら、スペアタイヤを引き出し、アンカープレートを取りはずす



パンクしたタイヤの交換

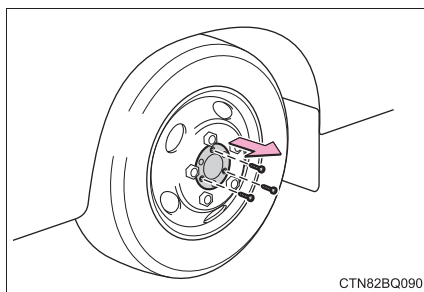
1 輪止めをする



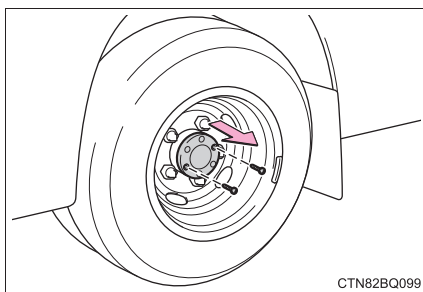
パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪の前後
	右側	左側後輪の前後
後輪	左側	右側前輪の前後
	右側	左側前輪の前後

2 ネジをはずし、センターオーナメントを取りはずす（センターオーナメント装着車）

▶ フロント



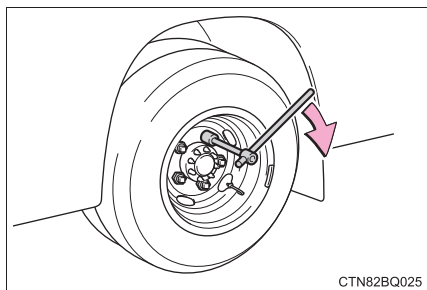
▶ リヤ



3 ナット、ストップボルトを少し（約 1 回転）ゆるめる

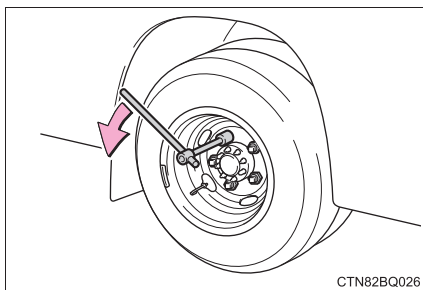
フロントタイヤ、リヤ外側タイヤを交換するときは六角側を、リヤ内側タイヤを交換するときは四角側を使用します。

▶ 左側タイヤ



ナット、ストップボルトを右にまわしてゆるめる

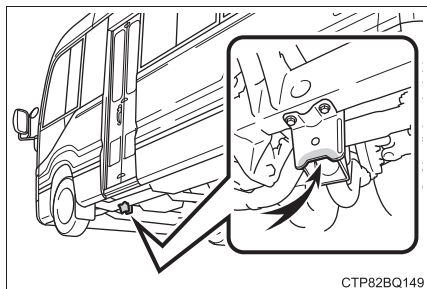
▶ 右側タイヤ



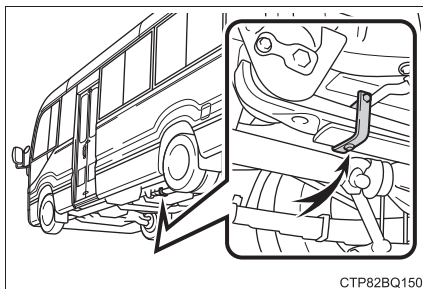
ナット、ストップボルトを左にまわしてゆるめる

4 ジャッキセット位置にジャッキをかける

▶ フロント

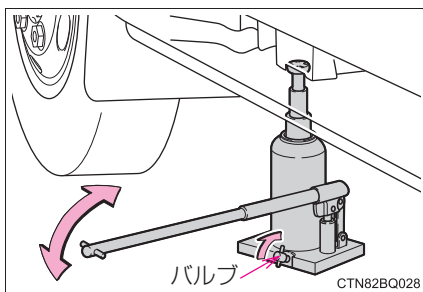


▶ リヤ

**5** タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

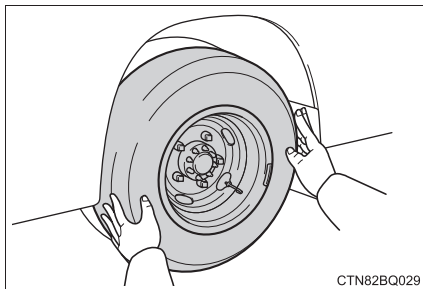
ジャッキハンドルバーの柄を使用してバルブを右に締め付けます。ジャッキ頭部を手で左にまわして車体のジャッキセット位置まで上げます。ジャッキハンドルバーをジャッキの図の位置に挿し込み、上下に動かしてジャッキアップします。

- ・ ジャッキが確実に車体のジャッキセット位置にかかっていることを確認してください。



6 ナット、ストップボルトすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷が付かないよう意匠面を上にします。



CTN82BQ029

警告

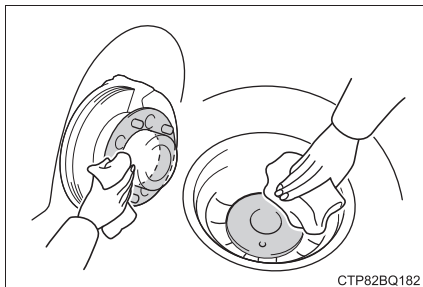
■タイヤ交換について

- 次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
 - ・ スペアタイヤは、ジャッキアップする前に格納具から取りはずしておく
 - ・ スペアタイヤ格納具を操作するときは、可動部分やスペアタイヤのあいだに手や足などを挟まないように注意する
 - ・ スペアタイヤ格納具を降ろす、または持ち上げるときは、足の上などに落とさないよう、手でしっかり支える
 - ・ スペアタイヤは完全に地面に降ろしてから取り出す
 - ・ センターオーナメントは直接手をかけて取らない
取り扱いには十分に注意してください。けがをするおそれがあります。
 - ・ 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ホイールの交換後はすぐに $515 \text{ N} \cdot \text{m}$ ($5250 \text{ kgf} \cdot \text{cm}$) の力でナットを締める
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける
 - ・ 約 $50 \sim 100 \text{ km}$ 走行したあとに、再度ナットを締め付けてゆるみがないことを確認する
 - ・ ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける
(→ P. 282)

タイヤの取り付け

- 1** ホイール接触面の汚れをふき取る

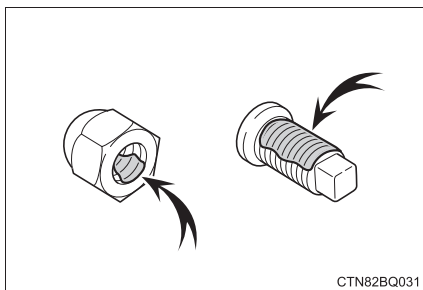
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。



CTP82BQ182

ナット、ストップボルトのネジ部にエンジンオイルを塗布する

エンジンオイルはネジ部以外に付着すると、締め付けるときに工具がずれるなど作業性が悪くなります。

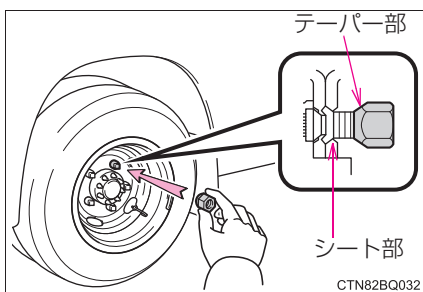


CTN82BQ031

- 2** タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナット、ストップボルトを仮締めする

ナット、ストップボルトのテーパ部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

リヤ外側タイヤは、リヤ内側タイヤのバルブが見える位置になるように取り付けます。



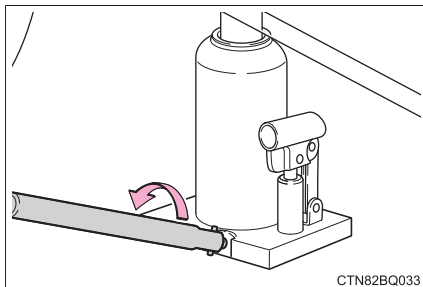
CTN82BQ032

- 3** 車体を下げる

ジャッキハンドルバーをジャッキの図の位置に挿し込み、バルブを左にゆっくり回します。

ジャッキを車体の下からはずしたら、バルブを締め付ける。

ジャッキ頭部を手で右にまわしてねじ込んでから、手で押しておろします。



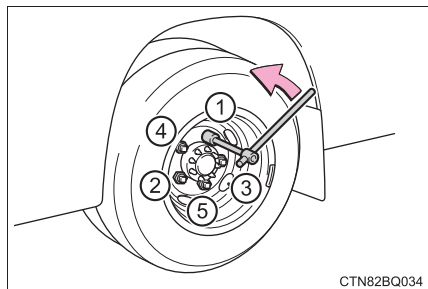
CTN82BQ033

- 4** 図の番号順でナット、ストップボルトを2、3度しっかり締め付ける
フロントタイヤ、リヤ外側タイヤを締め付けるときは六角側を、リヤ内側タイヤを締め付けるときは四角側を使用します。

締め付けトルク：

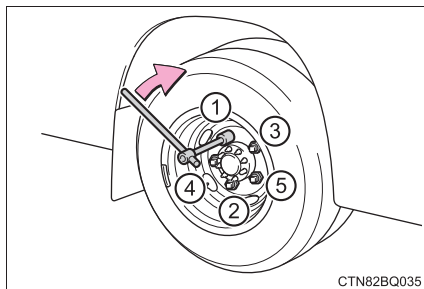
515 N・m (5250kgf・cm)

▶ 左側タイヤ



ナット、ストップボルトを左に
まわして締め付ける

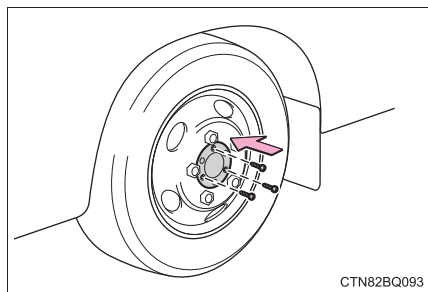
▶ 右側タイヤ



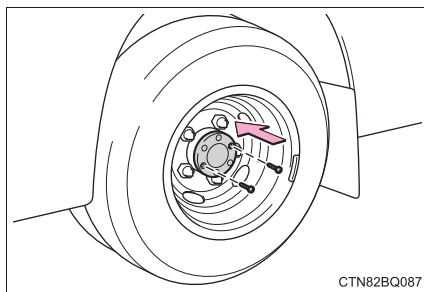
ナット、ストップボルトを右に
まわして締め付ける

- 5** センターオーナメントを取り付け、ネジを締め付ける（センターオーナメント装着車）

▶ フロント



▶ リヤ



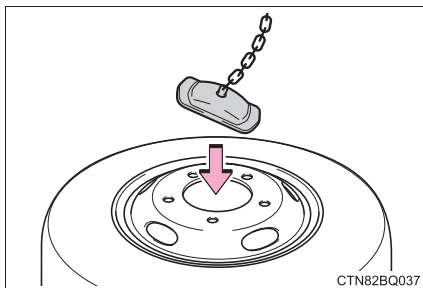
警告

■ スペアタイヤを格納するときは

スペアタイヤを格納するときは、次の格納手順を必ずお守りください。お守りいただかないと、スペアタイヤや格納具が損傷したり、スペアタイヤがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

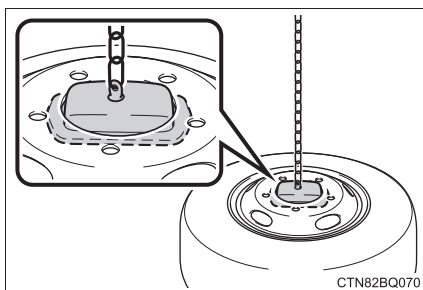
スペアタイヤ・工具・ジャッキの格納

- 1 バルブ面を上にし、アンカープレートスペアタイヤの穴部に取り付ける。
スペアタイヤ格納用ハンドルをスペアタイヤ格納具の穴部に挿し込み、チェーンのたるみがなくなるまでまわす。



CTN82BQ037

- 2 アンカープレートがスペアタイヤに確実に取りついていることと、穴部の中心にあることを確認する。



CTN82BQ070

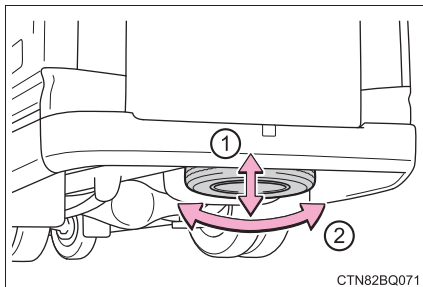
- 3 スペアタイヤの周囲に挟み込みがないことを確認しながら、スペアタイヤ格納用ハンドルを締め付ける。

締め付け時は、250 N (25.5 kgf) 以上の力で締め付けて下さい

- 4 締め付け後、格納したタイヤのゆるみがないことを確認する

- ① 上下に揺らす
- ② 左右に回転させる

タイヤのゆるみや周囲への接触がないことを確認してください。
ゆるみなどがあつたときは、再び手順①からやり直してください。



CTN82BQ071

- 5 手順④の確認を数回くりかえし、タイヤの格納状態を確認する

▶ 折りたたみ式バックステップ非装着車

6 観音扉ドアまたはトランクを開け、カバーを取り付ける

▶ 折りたたみ式バックステップ装着車

6 折りたたみ式バックステップを折りたたむ (→ P. 95)

7 すべての工具・ジャッキを格納する



知識

■ スペアタイヤについて

空気圧を必ず点検してください。(→ P. 380)

■ナット、ストップボルトについて

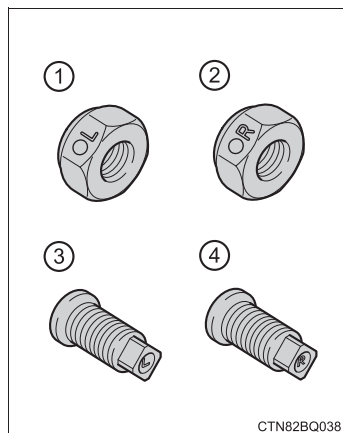
ナット、ストップボルトには右側用と左側用があります。間違えないように取り付けてください。

▶フロントタイヤ

取りはずしたナットを間違えないように取り付けてください。

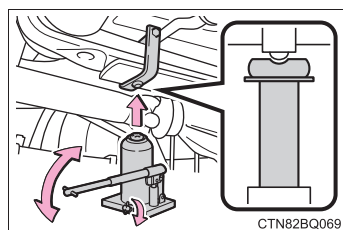
▶リヤタイヤ

- ① 左側用ナット
- ② 右側用ナット
- ③ 左側用ストップボルト
- ④ 右側用ストップボルト



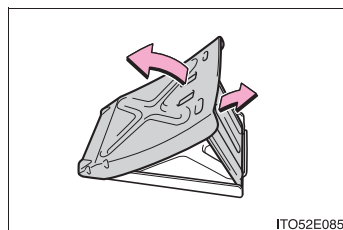
■リヤ側のジャッキセット位置について

ジャッキ上部の溝を、図のように合わせてください。



■輪止めの使い方

図のように展開して使用します。



 警告**■ 工具・ジャッキを使用したあとは**

走行前に必ず、指定の場所に確実に収納してください。車室内などに放置すると、急ブレーキ時などに工具類が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

 注意**■ スペアタイヤを格納するときは**

- タイヤと車両とのあいだにものが挟まっていないことを確認してください。
- タイヤを格納したあとは、確実に固定されていることを確認してください。固定されていないとタイヤががたつき、走行中にはずれるおそれがあります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方 (→ P. 128) に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順 (→ P. 128) に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。
(→ P. 47)

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。(→ P. 351)
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。(→ P. 351)

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

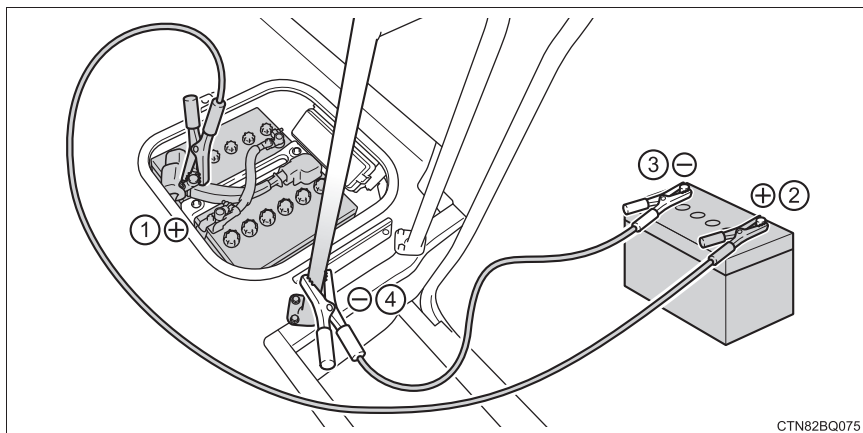
バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

- 1 センタードア後部のカバーを開ける (→ P. 287)
- 2 バッテリーの+端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ
 - ① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子につなぐ
 - ② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ
 - ③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ
 - ④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、図に示す金属部につなぐ

ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所に届くものを使用してください。



- 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する
- 4 救援車のエンジン回転を維持したまま、自車のエンジンをかける
- 5 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

 知識

■ バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンがかかっていないときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーについて

- バッテリーが 2 個ありますが、24V ではありません。
- バッテリーの交換は必ず 2 個同時に、同メーカー・同一型式のバッテリーを使用してください。

■ バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

 警告**■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ブースターケーブルは + 側と - 側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

 注意**■ ブースターケーブルを接続するときは**

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、損傷につながったりするおそれがあります。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→ P. 54）の針がレッドゾーンに入りブザーが鳴ったり、エンジン出力が低下する（スピードが出ないなど）
- 車両下側から蒸気が出る

対処方法

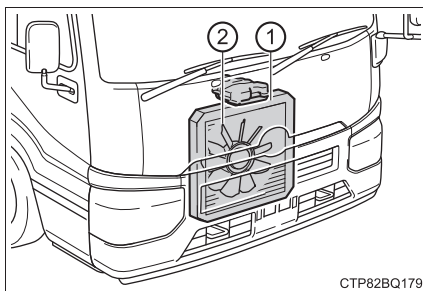
- 1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してエンジン点検口を開ける

蒸気が出ていない場合：
注意してエンジン点検口を開ける
- 3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

① ラジエーター

② ファン

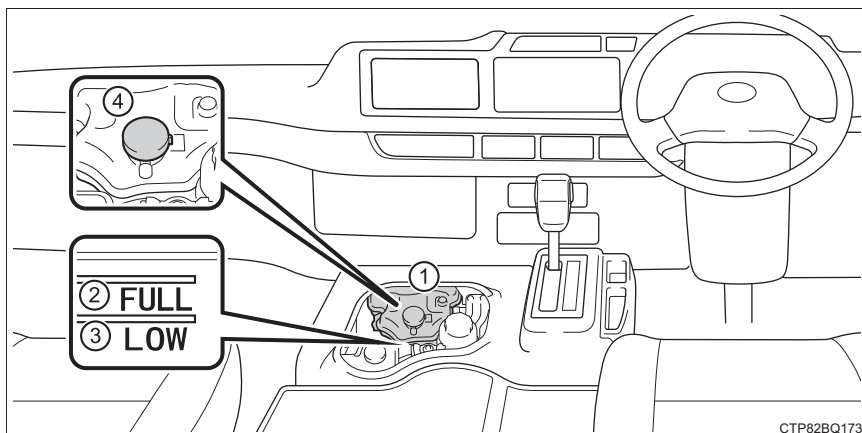
多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。



CTP82BQ179

- 4 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

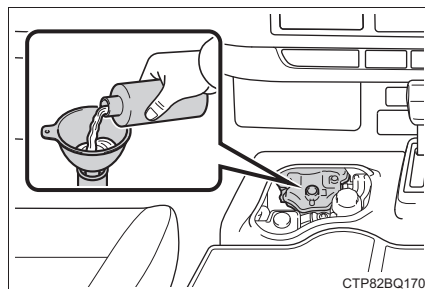
リザーバータンクは、エンジンホールの内側にあります。



- ① リザーバータンク
② “FULL”（上限）
③ “LOW”（下限）
④ ラジエーターキャップ

- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



- 6 エンジンを始動し、ラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する
- 7 ファンが作動していない場合：
すぐにエンジンを停止し、トヨタ販売店に連絡する
- ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

 警告**■ エンジンルームを点検するとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- 車両下側から蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでエンジン点検口を開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジン点検口（→ P. 268）の注意事項も併せてお読みください。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

 注意**■ 冷却水を入れるとき**

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

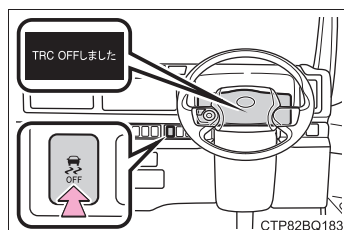
ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり、埋まり込んで動けなくなったときは、次の方法で脱出してください。

- 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にして、エンジンを停止する
- 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く
- 3 タイヤの下に木や石などをあてがう
- 4 エンジンを再始動する
- 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

 を押して TRC を OFF にしてください。(→ P. 195)



 警告**■ 脱出するときは**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

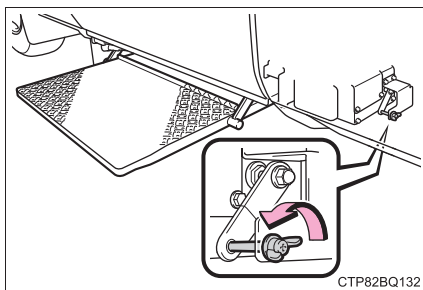
 注意**■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

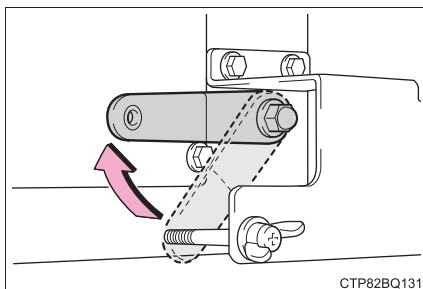
電動格納式補助ステップが格納できなくなったときは★

万一、ステップが出た状態のまま自動で格納することができないときは、手動で格納することができます。

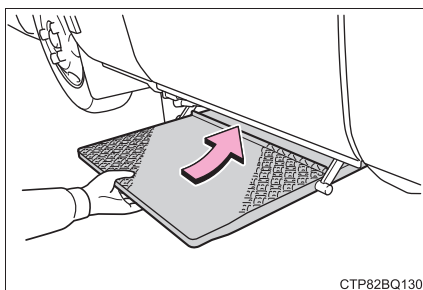
- 1 ステップ下側の格納装置の蝶ネジを緩め、ハンドル固定を解除する



- 2 ハンドルをまわして水平にする



- 3 格納位置までステップを手で押し上げ、そのまま保持する

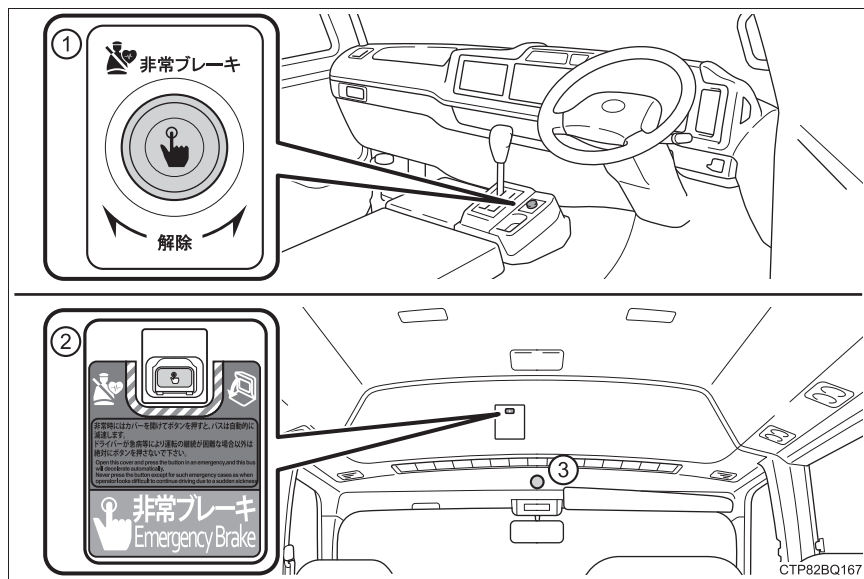


- 4 ハンドルをもとの位置にもどし、ステップを固定する
- 5 蝶ネジを締めてハンドルを固定する

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドライバー異常時対応システム

ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合に、作動スイッチを押すことで、周囲に警告を行いながら自車を減速、停車させるシステムです。停車後、ドアの解錠も行います（パワードアロック装着車）。



- ① 運転者席スイッチ
- ② 同乗者向けスイッチ
- ③ 同乗者向けフラッシャーランプ

 警告**■安全にお使いいただくために**

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合を対象とするシステムであり、居眠り運転や注意散漫な運転、体調が悪い場合の運転を対象とするものではありません。
- ドライバー異常時対応システムは、システム作動スイッチが押されたときに、周囲に警告を行いながら減速、停車を行うことを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。道路環境によっては減速性能や停車状態の維持を十分に発揮できないことがあります。また、構成部品・システムに異常が発生している場合やシステムの作動条件を満たさない場合は作動しません。
- お客様自身でドライバー異常時対応システムの作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- システム作動後、運転者が異常から復帰できた場合には、速やかに運転を再開するか、路肩へ避難し、三角表示板および発炎筒を設置して後続車両に停車していることをお知らせください。
- システム作動後、車両が車道上で停車した場合、必要な危険防止措置をとった後、路側帯やガードレールの外側等の安全な場所に速やかに退避してください。

各部の名称とはたらき

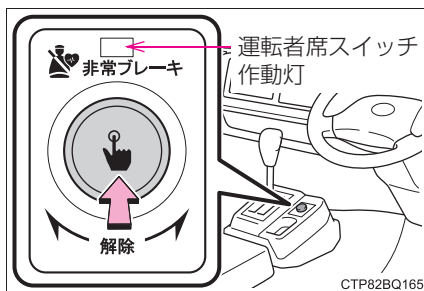
■ 運転者席スイッチ

● 作動スイッチ

中央のスイッチを押す

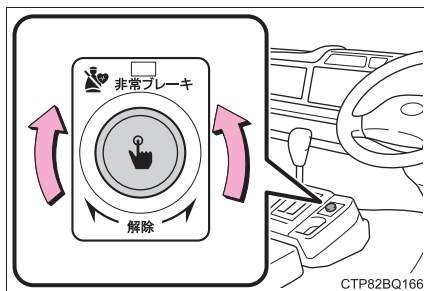
作動スイッチを押すと、システムが作動し、運転者席スイッチ作動灯（赤色）が点灯します。

スイッチを押した直後から減速が行われます。



● 解除スイッチ

運転者席スイッチを左右どちらかに回りきるまで回す



□ 知識

- システム作動後も、車両停止までの間は、解除スイッチを操作することでいつでも解除できます。
- システム作動により車両が停止後、救助活動時の安全性確保のため、解除スイッチを操作してもシステムは解除できなくなります。
- システム解除については、P. 365 を参照して下さい。

■ 同乗者向けスイッチ

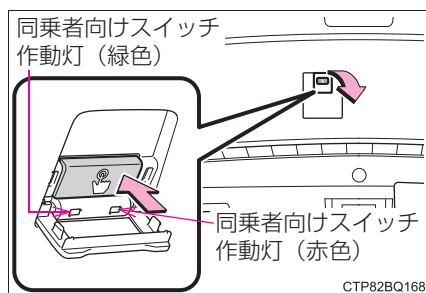
● 作動スイッチ

カバーを開けてスイッチを押す

同乗者向けスイッチ作動灯（緑色）が点灯時にシステムの使用が可能です。

作動スイッチを押すと、システムが作動し、同乗者向けスイッチ作動灯（赤色）が点灯します。

誤操作による誤作動防止のため、スイッチを押してから約 3 秒間、周囲に警告を行いながら弱いブレーキを作動させた後に減速を行います。



同乗者向けスイッチには、解除スイッチはありません。

システムの解除が必要な場合は、運転者席スイッチの解除スイッチを使用してシステムを解除してください。

□ 知識

誤操作を防ぐために、通常はカバーを閉じておいてください。

■ 同乗者向けフラッシャーランプ

ドライバー異常時対応システムが作動しているときに、同乗者向けフラッシャーランプが赤色に点滅します。

ドライバー異常時対応システムの作動・解除

■ スイッチ操作後のシステム作動について

スイッチを押してシステムが作動すると、車内にはメーター、同乗者向けブザー、同乗者向けフラッシャーランプの点滅による警告を行い、車外にはホーン、ハザードランプの点滅、制動灯（ストップランプ）の点灯によって警告を行います。

また、周囲への警告と共に車両が停止するまで減速し、車両停止後は手動によるエンジン停止まで車両停止状態を保持します。

運転者がアクセルペダルを踏んでいる場合でも、アクセルペダル操作は無効となり、システムによるブレーキが優先されます。

車両停車後は、車両のドアロックが自動解除されます（パワードアロック装着車）。

停車後は安全のため、ブレーキがかかったままになります。

知識

- ドライバー異常時対応システムは、エンジンスイッチが“ON”のとき、システムの待機状態になります。
- 運転者がブレーキペダルを踏んでいる場合は、システムによる制動とブレーキペダル操作による制動のうち、強い制動を優先します。
- ドライバー異常時対応システムの作動中に車両挙動が不安定になる可能性がある場合は、ABS や VSC が優先して作動します。
- システム作動中のアクセルペダル操作は、ブレーキ操作の開始からシステム解除されるまでの間、無効になります。
- システム全体、または運転者席スイッチと同乗者向けスイッチのどちらかを無効化するスイッチはありません。

■ システム解除について

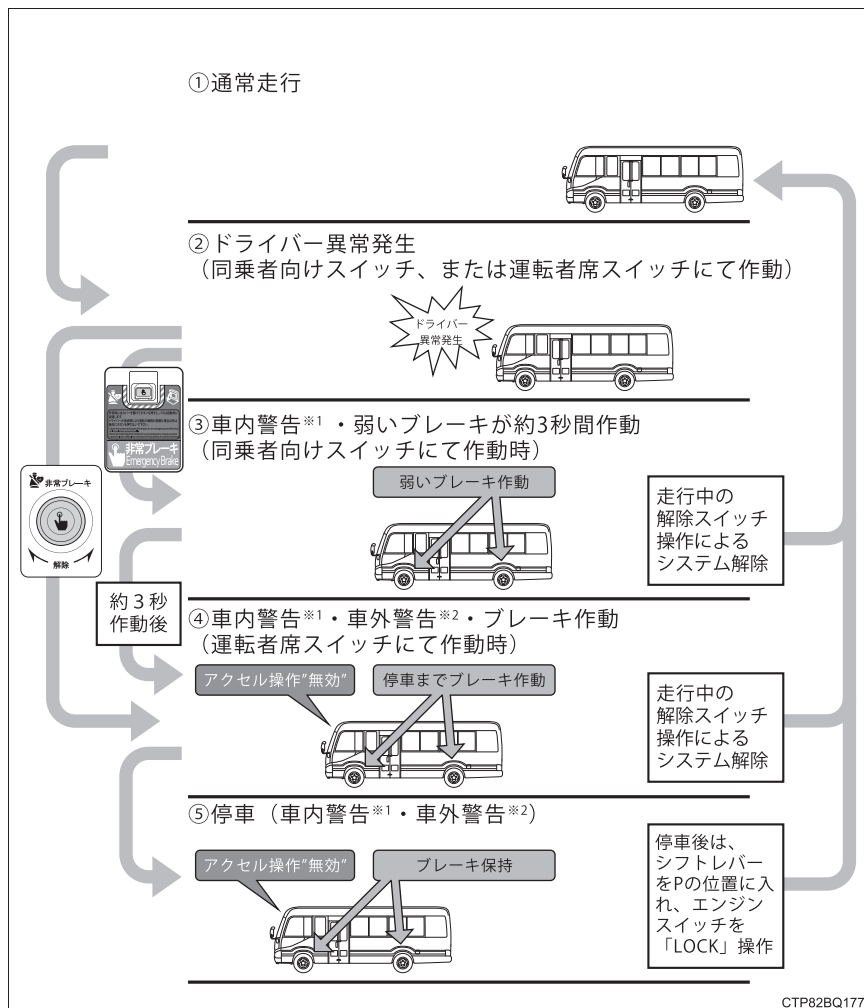
- 運転者が運転を継続できるにもかかわらず、ドライバー異常時対応システムが作動した場合は、運転者席スイッチの解除スイッチを解除操作することでシステム作動が解除され、通常走行を継続することができます。
- システムによるブレーキ作動後、解除操作をすることなく車両が停止したあとは、安全のため、ブレーキがかかったままになります。車両停止以降は解除スイッチの解除操作では解除できません。解除するには、シフトレバーをPの位置に入れて、エンジンスイッチを“LOCK”位置にしてください。
- システム解除操作をするまで、周囲への警告、ブレーキ作動は機能し続けます。
- 通常走行に復帰する際は、車内外の安全を確認の上、パーキングブレーキを掛け、一旦エンジンスイッチを“LOCK”にした後、通常の起動方法でエンジンをかけてください。



知識

ドライバー異常時対応システム作動中に PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動する状況になった場合は、PCS（プリクラッシュセーフティ）による減速制御が優先して作動します。ただし、PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動してもシステムは解除されることなく周囲への警告は継続し、PCS（プリクラッシュセーフティ）制御終了後に本システムの制御へ自動的に切り替わります。

ドライバー異常時対応システム作動イメージ



CTP82BQ177

※1 車内警告作動：

運転者席スイッチ作動灯赤点灯、マルチインフォメーションディスプレイメッセージ表示、同乗者向けフラッシャーランプ点滅、同乗者向けブザー吹鳴、同乗者向けスイッチ作動灯点灯（緑＋赤）

※2 車外警告作動：

ホーン吹鳴、ハザードランプ点滅、制動灯（ストップランプ）点灯

ドライバー異常時対応システムについて

- このシステムは、運転者に異常が発生した際に、作動スイッチを押すことで、車両を減速・停止させるためのシステムです。システムによるハンドル操舵はなく、減速のみの制御となります。また、万が一に備え、運転者は同乗者に対し、正しいシステムの使用方法を周知してください。
- 停車した後のブレーキ保持はあらゆる条件下での機能を保証するものではありません。そのため、停車後は速やかにシフトレバーをPの位置にいった後にエンジン停止をしてください。
- システムが作動して停車後は状況に応じて救護のために救急（消防）や警察へ通報してください。

知識

■ システムが正常に作動しない場合

以下の条件では、ドライバー異常時対応システムが正常に作動しない場合があります。

- バッテリー電圧が低い、または衝突などにより車両の電源が消失し、正常にECUや警告が動作しないとき
- 衝突などにより、正常にブレーキが作動しないとき
- 衝突などにより、車両が損傷するなどしてECUやハーネスなどの構成部品が機能しなくなったとき
- VSC 異常が発生しているとき
- 同乗者席スイッチ作動灯（緑色）が消灯しているとき

■ システムの故障

システムが故障している場合は、以下の状態が表示されます。速やかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

- 運転者席スイッチ作動灯が赤色点滅しているとき
- 同乗者席スイッチ作動灯が赤色点滅しているとき
- メーターのマスターウォーニングが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにシステムの故障を示すメッセージが表示されたとき

■システムの効果が得られない場合

以下の条件では、ドライバー異常時対応システムの性能を十分に発揮できない、または作動しないおそれがあります。

- ブレーキ性能が十分に発揮できないとき（ブレーキ部品が極度に冷えている、過熱している、ぬれているなど）
- 車両の整備状態（ブレーキ部品、タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
- 坂道を走行しているとき
- 自車が横すべりしているとき
- 脱輪、パンクなどの危険要因が生じたとき
- 衝突などにより車両が損傷して、ECU やハーネスなどの構成部品が機能しなくなったとき
- 凍結路や砂利道など、すべりやすい路面を走行しているとき
- システムが作動し車両停止後、シフトレバーをPの位置にいれる前にエンジンスイッチを“LOCK” にしてしまったとき
- 車両速度が限界を超えているとき

ドライバー異常時対応システムが作動した車両の取り扱い

■ ドライバー異常時対応システムが作動した車両への救助について

- 車両が停止しており、報知が継続している場合は、ドライバー異常時対応システムが解除されていません。
- 運転者および同乗者を救助する際は、可能な限り安全なところへ車両を移動してください。
- 移動できない場合は、安全確保や被害拡大の防止に努めてください。
 - ・ パーキングブレーキを作動させる
 - ・ タイヤの前後に輪止めを掛ける
 - ・ シフトレバーを P の位置に入れた後に、エンジンスイッチを“LOCK”位置にする

■ システム作動に伴う責任について

運転者の体調の急変等に伴い、危険を回避するためにシステムを作動させた場合に限り、システム作動に対する責任は問われません。

ドライバー異常時対応システムの点検

ドライバー異常時対応システムが正常に作動することを確認するため、定期的に次の要領で点検作動させてください。

■ 事前準備

- 1 車両を安全な場所に止め、パーキングブレーキが引かれていることを確認して下さい。
- 2 シフトレバーの位置が P になっていることを確認し、エンジンを ON にしてください。
- 3 マルチインフォメーションディスプレイに異常を示す表示が無いことを確認してください。

■ 点検方法

以下の順で操作すると、点検モードが開始します。

- 1 運転者席スイッチを左右どちらかに回りきるまで回す
- 2 1 から 15 秒以内に、運転者席スイッチ→同乗者向けスイッチの順に押す

■ 点検項目

- ホーンが 1 回 ※ 吹鳴すること
 - 同乗者向けブザーが間欠吹鳴すること
 - 同乗者向けフラッシャーランプが点滅すること
 - 運転者席スイッチの作動灯が赤点灯すること
 - 同乗者向けスイッチの作動灯が緑＋赤点灯すること
 - ハザードランプが点滅すること
 - マルチインフォメーションディスプレイに“緊急停車システムチェック”が表示されること
 - ドアロックが解除されること
- ※ 通常走行時にドライバー異常時対応システムが作動した際は、解除操作をするまでホーンは継続して吹鳴します。

■ 点検モードの解除

点検完了後、解除スイッチを操作し点検モードを終了してください。

 注意

点検モード解除後は、必ずマルチインフォメーションディスプレイを確認し
“ 緊急停車システムチェック ” が表示が消えて、点検モードが解除されていることを確認してください。

- **点検時に異常が認められた場合**
トヨタ販売店にご相談ください。

車両情報

9

9-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
(指定燃料・
オイル量など)374

9-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能
一覧383

9-3. フリー／

オープンソフトウェア

フリー／オープン
ソフトウェア情報387

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。
トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものを
使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
超低硫黄軽油（S10ppm 以下）	95

エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L]（参考値 ※）	
	オイルのみ 交換	オイルと オイルフィル ター交換
推奨： トヨタ純正モーターオイル C5 0W-20 (ACEA C5, SAE 0W-20) 適合： トヨタ純正モーターオイル DL-1 0W-30 (JASO DL-1, SAE 0W-30) トヨタ純正モーターオイル DL-1 5W-30 (JASO DL-1, SAE 5W-30)	7.0	7.5

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

ACEA 規格 C5 に合致したオイルをご使用ください。

0W-20 は、新車時に工場充填されている推奨オイルであり、優れた省燃費性能を発揮できます。

0W-20 が入手困難な場合は、JASO DL-1 0W-30、5W-30 もご使用いただけます。

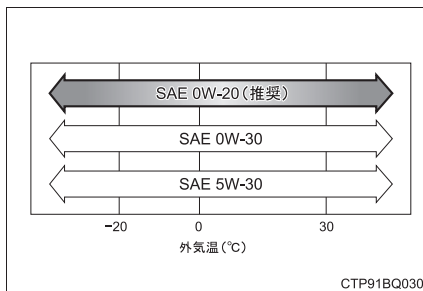
なお、JASO規格合格油の缶にはJASO DL- 1 マークがついています。

JASO DL- 1 マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。
Wの前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。

注意

■ エンジンオイルの交換について

- エンジンオイルは必ず指定の規格に相当する品質のものをご使用ください。異なる品質のオイルを使用すると、排出ガス浄化装置の寿命短縮につながります。
- エンジンオイル・オイルフィルターは必ず約 15,000km ごと（ただし 12ヶ月をこえないこと）に交換してください。定められた期間でエンジンオイル・オイルフィルターを交換しないと、排出ガス浄化装置やターボ装置などの故障につながるおそれがあります。

ラジエーター

▶ ショートフレーム車

指定銘柄			容量 [L]（参考値）
トヨタ純正スーパー ロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30% - 12℃ 濃度 50% - 35℃	リヒート 機構なし	標準車	16.9
		寒冷地仕様車の パワーヒーター 非装着車	18.6
		寒冷地仕様車の パワーヒーター 装着車	20.6
	リヒート 機構付き	標準車	17.9
		寒冷地仕様車の パワーヒーター 非装着車	19.6
		寒冷地仕様車の パワーヒーター 装着車	21.6

▶ ロングフレーム車

指定銘柄			容量 [L] (参考値)
トヨタ純正スーパー ロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30% - 12℃ 濃度 50% - 35℃	リヒート 機構なし	標準車	17.3
		寒冷地仕様車の パワーヒーター 非装着車	19.0
		寒冷地仕様車の パワーヒーター 装着車	22.4
	リヒート 機構付き	標準車	18.3
		寒冷地仕様車の パワーヒーター 非装着車	20.0
		寒冷地仕様車の パワーヒーター 装着車	23.4

▶ 超ロングフレーム車

指定銘柄			容量 [L] (参考値)
トヨタ純正スーパー ロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30% - 12℃ 濃度 50% - 35℃	リヒート 機構なし	標準車	16.9
		寒冷地仕様車の パワーヒーター 非装着車	19.8
		寒冷地仕様車の パワーヒーター 装着車	22.6
	リヒート 機構付き	標準車	17.9
		寒冷地仕様車の パワーヒーター 非装着車	20.8
		寒冷地仕様車の パワーヒーター 装着車	23.6

インタークーラー

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正スーパー ロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30% - 12℃ 濃度 50% - 35℃	2.8

オートマチックトランスミッション

指定銘柄	容量 [L] (参考値 ※)
トヨタ純正オートフルード タイプ T-IV	13.1

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

注意

■ トランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

リヤディファレンシャル

指定銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE 85W-90)	3.8

注意

■ リヤディファレンシャルフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

パワーステアリング

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
トヨタ純正パワーステアリングフルード	1.6

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	45

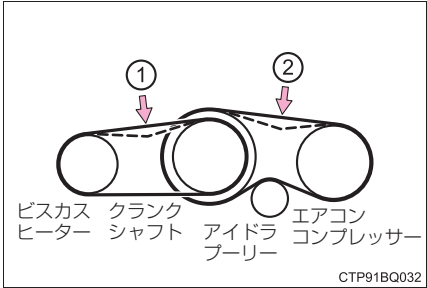
※ エンジン回転時に 490 N (50kgf) の踏力をかけたときの床板（フロアパネル上面）とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値 [回数]
引きしろ 操作力 245 N (25kgf) のときのノッチ※数	6 ~ 8

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ” という音）のことです。

V リブドベルト

項目	基準値 [mm]	
たわみ量 押力 (98N (10kgf) (冷間時)) 	① ビスカスヒーター	11 ~ 14
	② エアコンコンプレッサー	10.7 ~ 12.4
オルタネーター	オートテンショナー	

ウォッシャータンク

項目	容量 [L] (参考値)
フロント	2.7
リヤ★	1.3

タイヤ・ホイール

■ サイズ・空気圧

車種			タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
					前輪	後輪
バス	シ ョ ー ト フ レ ー ム 車	幼児車、 バンを除く	215/70R17.5 118/116N LT	17.5×6.00	500 (5.00)	300 (3.00)
		幼児車			600 (6.00)	325 (3.25)
		ロング フレーム車 超ロング フレーム車				
		バン				

■ ホイールナット締め付けトルク

トルク [N・m (kgf・cm)]	
標準タイヤ	515 N・m (5250 kgf・cm)
応急タイヤ	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドランプ（ハロゲンヘッドランプ装着車） ・ ロービーム （バルブタイプ：H11）★	55
	・ ハイビーム （バルブタイプ：HB3）★	60
	フロントフォグランプ（ハロゲンヘッドランプ装着車）（バルブタイプ：H8）	35
	フロントフォグランプ(LED ヘッドランプ装着車） （バルブタイプ：H16）	19
	車幅灯（ハロゲンヘッドランプ装着車）★	5
	フロント方向指示灯／非常点滅灯	21
	サイド方向指示灯／非常点滅灯	21
	リヤ方向指示灯／非常点滅灯	21
	制動灯／尾灯	21 / 5
	後退灯	16
	番号灯	5
	リヤホイール灯	10
車内	フロントパーソナルランプ★	5
	ルームランプ（フロント／リヤ）★	10
	トランク灯★	5
	ドアカーテシランプ★	5
	ステップランプ	5

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両仕様

型式	車両形状	エンジン	駆動方式
GDB100	バス (ショートフレーム車)	3GD-FTV	FR (後輪駆動)
GDB110	バス (ロングフレーム車)		
GDB120	バス (超ロングフレーム車)		
GDB100V	バン (ショートフレーム車)		
GDB110V	バン (ロングフレーム車)		

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な装備が付いています。

設定変更は、マルチインフォメーションディスプレイのメーターカスタマイズ機能、またはトヨタ販売店で行うことが可能です。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

カスタマイズ設定をする

安全に操作することができる場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにします。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

- 1 メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押してを  選択する
- 2 メーター操作スイッチの **◀** または **▶** を押して変更する項目を選択する
- 3 ON / OFF を切りかえる機能では、メーター操作スイッチの **⊙** を押してご希望の設定に切りかえる
- 4 詳細設定が可能な機能では、**⊙** を押し続けて設定画面を表示する
詳細設定の方法は、各画面ごとに異なります。画面に表示されているアドバイスを参考に設定を行ってください。

前の画面にもどったり、設定を終了する場合は、 スイッチを押します。

車両カスタマイズ設定一覧

① メーターカスタマイズ機能による設定

② トヨタ販売店で設定変更可能

■ メーター・マルチインフォメーションディスプレイ (→ P. 54, 58)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
言語	● English ● 日本語	○	—
単位	● km/L ● L/100km	○	—
メーターデザイン	● カジュアル ● スマート ● スポーティー	○	—
アナログメーター	● タコメーター ● スピードメーター ● シンプル	○	—
燃費グラフ	● 始動後平均燃費 ● リセット間平均燃費 ● 給油後平均燃費	○	—
ドライブインフォ項目	● 平均車速 ● 走行距離 ● 走行時間	○	—
TRIP A 項目	● 走行距離 ● 平均車速 ● 走行時間	○	—
TRIP B 項目	● 走行距離 ● 平均車速 ● 走行時間	○	—
MID 消灯	● 表示 ● 非表示	○	—
メーター内ストップランプ表示	● ON ● OFF	○	—

■ ランプ自動点灯・消灯システム (→ P. 141)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
ライトセンサーの感度	● レベル-2～+2	—	○
ランプ消し忘れ防止機能	● エンジンスイッチと連動 ● 運転席ドアと連動	—	○

■ ブリクラッシュセーフティ (→ P. 167)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
警報タイミング	● 遅い ● 標準 ● 早い	○	—
ブリクラッシュセーフティ	● ON ● OFF	○	—

■ レーンディパーチャーアラート (LDA) (→ P. 178)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
レーンディパーチャーアラート (LDA)	● ON ● OFF	○	—
低車速支援	● ON ● OFF	○	—
警報タイミング	● 標準 ● 早い	○	—

■ クリアランスソナー (→ P. 185)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
クリアランスソナー機能	● ON ● OFF	○	—
ブザー音量	● 小 ● 中 ● 大	○	—

■ 発進遅れ告知 (→ P. 183)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
先行車	● ON ● OFF	○	—
信号	● ON ● OFF	○	—
告知タイミング	● 早い ● 標準 ● 遅い	○	—

■ 休憩提案 (→ P. 180)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
休憩提案	● ON ● OFF	○	—

■ イルミネーション (→ P. 235)

機能の内容	カスタマイズ設定	①	②
ドアの開閉後に点灯しているエンジンスイッチ照明が自動で消灯するまでの時間	● 7.5 秒 ● 15 秒 ● OFF	—	○

フリー／オープンソフトウェア情報

計器類

本製品はフリー／オープンソースソフトウェアを含んでいます。

このようなフリー／オープンソースソフトウェアのライセンス情報やソースコードの両方またはどちらか片方は以下のURLで入手することができます。

<https://www.yazakigroup.com/rd-tech/oss/899>

さくいん

こんなときは （症状別さくいん）.....	390
車から音が鳴ったときは （音さくいん）	392
アルファベット順さくいん.....	393
五十音順さくいん.....	394

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- キーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいキーを作ることができます。（→ P. 67）

故障かな？と思ったら



エンジンがかからない

- シフトレバーは P になっていますか？（→ P. 128）
- ステアリングロックされていませんか？（→ P. 129）
- バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 351）



ブレーキペダルを踏んでもシフトレバーが P から動かない

- エンジンスイッチの位置が “ ON ” になっていますか？
エンジンスイッチの位置が “ ON ” でブレーキを踏んでも解除できないとき（→ P. 133）



エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- 盗難防止のため、キーをエンジンスイッチから抜くとロックされます。（→ P. 128）



警告音が鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 392）をご確認ください。

**警告灯や警告メッセージが表示されたとき**

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P. 325、329 をご確認ください。

トラブルが発生した**タイヤがパンクした**

- 車を安全な場所に停め、パンクしたタイヤをスペアタイヤに交換してください。（→ P. 334）

**立ち往生した**

- めかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 357）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	エンジンスイッチにキーが挿してある	P. 129
	車幅灯・ヘッドランプが点灯している	P. 144

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P. 327
	パーキングブレーキが解除されていない	P. 327
	運転席のシートベルトを着用していない	P. 327
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 121
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P. 167
車線から逸脱しそうになったとき	LDA（レーンデパーチャーアラート）を使用している	P. 178

アルファベット順さくいん

ABS

(アンチロックブレーキシステム) 194, 325

AHB

(オートマチックハイビーム) 145

EDR

(イベントデータレコーダー) 10

FR

(フロントエンジンリヤドライブ) 382

LDA

(レーンディパーチャーアラート) 178

PCS

(プリクラッシュセーフティ) 167

SRS

(サブリメンタルレストレイントシステム) 38, 325

TRC

(トラクションコントロール) 194, 326

VSC

(ビークルスタビリティコントロール) 194, 326

五十音順さくいん

あ

アイドルアップ.....	234
アースポイント（バッテリー あがりの処置）.....	351
アームレスト	247
アウターミラー（ドアミラー） ...	107
格納のしかた	109
操作	107
ミラーヒーター	216, 227
赤旗.....	319
アクセサリースocket	244
アクセルインターロック	
折戸式ドア	84
グライド式ドア	74
電動格納式補助ステップ.....	80
アシストグリップ	254
AdBlue [®]	271
AdBlue [®] 残量警告灯	326
AdBlue [®] 品質異常警告灯	326
AdBlue [®] 噴射異常警告灯	326
補充	273
容量	273
アンダーミラー.....	111
アンチロックブレーキ	
システム（ABS）.....	194
アンテナ	206

い

イグニッションスイッチ	
（エンジンスイッチ）.....	128
位置の切りかえ	128
エンジンのかけ方	128
位置交換	
（タイヤローテーション）	280

イベントデータレコーダー

（EDR）.....	10
イモビライザーシステム.....	47
インジケーター（表示灯）.....	52
インナーミラー	105

う

ウインカー（方向指示灯）.....	134
電球（バルブ）	
の交換	300, 301, 302
方向指示レバー.....	134
ワット数	381
ウインドウ.....	113
ウォッシュャー	151, 153
リヤウインドウ	
デフォッガー.....	216, 227
ウォーニングランプ	
（警告灯）.....	51, 325
ウォッシュャー	151, 153
液の補充	278
スイッチ	151, 153
タンク容量	380
冬の前の準備・点検	200
動けなくなったときは	
（スタック）.....	357
運転	116
雨の日の運転	117
運転を補助する装置	194
寒冷時の運転	200
正しい運転姿勢.....	32
手順.....	116
運転席ガード.....	251
運転支援機能情報表示.....	60
運転席シートベルト	
非着用警告灯	326

え

エアコン

オートエアコン	225
クーラー （マニュアルエアコン）	220
曇り取り （フロントガラス）	215, 227
フィルターの清掃	285
フロントヒーター （マニュアルエアコン）	214
リヤヒーター （マニュアルエアコン）	223

エアバッグ 38

SRS エアバッグ警告灯	325
お子さまのための注意	41
改造・廃棄	44
作動条件	39
正しい姿勢	32
配置	38

AHB（オートマチック

ハイビーム）	145
--------------	-----

LDA（レーンディパーチャー

アラート）	178
警告メッセージ	329
操作	178

エンジン

エンジンイモビライザー

システム	47
------------	----

エンジンがかからない

（エンジンが始動 できない）	350
-------------------------	-----

エンジン警告灯

エンジンスイッチ	128
----------------	-----

エンジンの始動方法

エンジンを停止する前に	117
-------------------	-----

オーバーヒート

緊急時の停止方法	314
----------------	-----

点検口

エンジンイモビライザーシステム

（盗難防止システム）	47
------------------	----

エンジンオイル

冬の前の準備・点検	200
-----------------	-----

メンテナンスデータ

容量	374
----------	-----

エンジンスイッチ

位置の切りかえ	128
---------------	-----

エンジンのかけ方

エンジン点検口

開け方	268
-----------	-----

お

オイル（エンジンオイル）.....	374
応急用タイヤ（スベアタイヤ）...	334
空気圧.....	380
交換方法.....	334
オートエアコン.....	225
オートドア	
折戸式ドア.....	83
グライド式ドア.....	73
オートマチックトランス	
ミッション.....	131
シフトレバーがシフト	
できない.....	133
オートマチックハイビーム.....	145
オーバーヒート.....	354
オープナー	
給油扉.....	156
お客様表示板.....	244
お子さまを乗せるとき.....	45
エアバッグ.....	41
エンジンカバー.....	270
お子さまの安全のために.....	45
観音扉ドアに関する警告.....	96
シートベルトの着用.....	35
スライド式サイドガラスに	
関する警告.....	113
センタードアに関する	
警告.....	75, 85
チャイルドシートの取り付け... 37	
トランクに関する警告.....	90
発炎筒の取り扱いに関する	
警告.....	311
バッテリーに関する警告.....	353
オドメーター.....	54
折りたたみ式バックステップ.....	95
折戸式ドア.....	82

か

カーテン.....	250
カードホルダー.....	241
カーペット	
洗浄.....	265
フロアマットの取り付け方.....	30
外気温度表示.....	54
外装の電球（バルブ）.....	291
交換要領.....	291
ワット数.....	381
ガソリンスタンドでの情報.....	408
型式.....	382
カップホルダー.....	238
ガラスの曇り取り	
（リヤウインドウ	
デフォグガー）.....	216, 227
換気扇.....	228
冠水路走行.....	125
観音扉ドア.....	93
非常ドア.....	318
寒冷時の運転.....	200

き

キー.....	66
キーナンバプレート.....	66
キーの構成.....	66
キーをなくした.....	67
きしみやひっかき音が聞こえる	
（ブレーキパッドウェア	
インジケーター）.....	121
給油.....	155
給油のしかた.....	155
メンテナンスデータ.....	374
緊急時シートベルト固定機構.....	35

緊急時の対処

エンジンが始動できない.....	350
オーバーヒートした.....	354
キーをなくした.....	67
警告灯がついた.....	325
警告メッセージが 表示された.....	329
けん引.....	320
故障したときは.....	308
車中泊が必要な時は.....	317
車両を緊急停止する.....	314
水没・冠水したとき.....	316
スタックした.....	357
電動格納式補助ステップが 格納できなくなった.....	359
発炎筒.....	310
バッテリーがあがった.....	351
パンクした.....	334
幼児車では.....	318

<

空気圧 (タイヤ).....	380
クーラー	
オートエアコン.....	225
クーラー (マニュアルエアコン).....	220
区間距離計 (トリップメーター).....	61
曇り取り	
フロントガラス.....	215, 227
リヤウインドウ デフォグガー.....	216, 227
グライド式ドア.....	70
クラクション (ホーン).....	103
クリアランスソナー.....	185

クリアランスランプ (車幅灯)	141
スイッチ.....	141
電球 (バルブ) の交換.....	300
ワット数.....	381
クリップ	
フロアマット.....	30

け

警音器 (ホーン).....	103
計器類 (メーター).....	54
警告灯/表示灯.....	50
マルチインフォメーション ディスプレイ.....	58
メーター.....	54
警告灯.....	51, 325
ABS.....	325
AdBlue [®] 残量.....	326
AdBlue [®] 品質異常.....	326
AdBlue [®] 噴射異常.....	326
運転支援情報表示灯.....	327
SRS エアバッグ.....	325
AHB 表示灯.....	327
LDA 表示灯.....	327
エンジン.....	325
クリアランスソナー OFF 表示灯.....	327
シートベルト非着用.....	326
スリップ表示灯.....	326
センタードア開放.....	325
燃料残量.....	326
パーキングブレーキ未解除	325
バキューム.....	325
非常ドア開放.....	326
PCS.....	326
プリテンショナー.....	325
ブレーキ.....	325

警告ブザー

AHB（オートマチック ハイビーム）.....	327
LDA（レーンデパーチャー アラート）.....	327
クリアランスソナー	327
シートベルト非着用	326
車線逸脱警報（LDA）.....	178
衝突警報（PCS）.....	168
センタードア開放	325
パーキングブレーキ未解除 走行時.....	325
非常ドア開放	326
ふらつき警報（LDA）.....	179
ブレーキ.....	325
リバース.....	132
冷却水.....	354
けん引.....	320
けん引のしかた	320
フック	323

こ

交換

タイヤ.....	334
電球（バルブ）.....	291
ヒューズ.....	287
工具（ツール）.....	338
後席ディスプレイ	208
航続可能距離	55
後退灯（バックアップランプ） 電球（バルブ）の交換.....	302
ワット数.....	381
小物入れ	240

さ

サイド方向指示灯	134
電球（バルブ）の交換.....	301
方向指示レバー.....	134
ワット数	381
サイドミラー（ドアミラー）.....	107
操作	107
サンバイザー	244

し

シート.....	98
助手席／リヤシート.....	99
正しい運転姿勢.....	32
調整	98
手入れ	265
ヘッドレスト	101
保護者用シート.....	100
補助シート	99
シートアンダートレイ.....	240
シートベルト	34
お子さまの着用.....	35
緊急時シートベルト 固定機構	35
シートベルト非着用警告灯	326
正しく着用するには	34
着け方・はずし方	34
手入れ	265
妊娠中の方の着用.....	36
シートベルト非着用警告灯.....	326
シートベルトプリテンショナー	35
機能	35
プリテンショナー警告灯	325
室内灯.....	235
始動後走行時間	61
始動後平均車速	61
始動のしかた	128

シフトポジション.....	131
シフトポジション表示.....	55
シフトレバー.....	131
シフトロックシステム	
(解除ボタン).....	133
操作.....	131
リバース警告ブザー.....	132
シフトレバーがシフト	
できないときは.....	133
シフトロックシステム.....	132
締め付けトルク	
スペアタイヤ格納.....	346
ホイール.....	345
ジャッキ	
車載ジャッキ.....	338
ジャッキハンドル.....	338
車幅灯.....	141
電球 (バルブ) の交換.....	300
ランプスイッチ.....	141
ワット数.....	381
車両型式.....	382
車両仕様 (スペック).....	374
車両データの記録.....	7
車両を緊急停止するには.....	314
手動光軸調整ダイヤル.....	143
瞬間燃費.....	60
仕様 (車両仕様).....	382
消火器.....	312
信号切替り告知機能.....	183

す

水温計.....	54
スイッチ	
アイドルアップ.....	234
アウターミラー.....	107
インナーミラー.....	105
イグニッション.....	128
ウォッシャー.....	151, 153
LDA (レーンディパーチャー	
アラート).....	178
AHB (オートマチック	
ハイビーム).....	145
エンジンスイッチ.....	128
オートドア操作.....	73, 83
換気扇.....	228
給油口オープナー.....	156
電動格納式補助ステップ.....	80
ドアロック.....	68
排出ガス浄化装置.....	139
ハザードランプ.....	309
パワーヒーター.....	233
非常点滅灯	
(ハザードランプ).....	309
VSC OFF.....	195
フォグラмп.....	149
方向指示レバー.....	134
ホーン (警音器).....	103
メーター操作.....	60
ランプ.....	141
リヤウインドウ	
デフォグガー.....	216, 227
ルームランプ.....	236
ワイパー.....	151, 153

スターター	
エンジンの始動	128
スターターがまわらない	350
スタック	357
ステアリングホイール（ハンドル）	
位置調整	103
ステアリングロック	
解除できないとき	129
ステップランプ	75, 85
ワット数	381
ストップランプ（制動灯）	
電球（バルブ）の交換	302
ワット数	381
スノータイヤ（冬用タイヤ）	200
スピードメーター	54
スペアタイヤ	334
スペック（車両仕様）	382
スモールランプ（車幅灯）	141
電球（バルブ）の交換	300
ランプスイッチ	141
ワット数	381
スライド式サイドガラス	113

せ

清掃	262, 265
外装	262
シートベルト	265
内装	265
ホイール・	
ホイールキャップ	262
制動灯	
電球（バルブ）の交換	302
ワット数	381

積算距離計（オドメーター）	54
セキュリティインジケーター	47
セパレーターカーテン	252
セパレーターパイプ	251
先行車発進告知機能	183
センサー	
前方カメラ	161
ライトセンサー	144
レーダーセンサー	161
洗車	262
前照灯（ヘッドランプ）	141
手動光軸調整ダイヤル	143
電球（バルブ）の	
交換	294, 296
ランプ消し忘れ防止機能	144
ランプスイッチ	141
センタードア	
オートドア作動の	
切りかえ	73, 84
オートドア	
操作スイッチ	73, 83
折戸式ドア	82
グライド式ドア	70

そ

走行距離	61
走行時間	61
走行情報表示	60
速度計	
（スピードメーター）	54

た

ターンシグナルランプ	
(方向指示灯).....	134
電球 (バルブ)	
の交換.....	300, 301, 302
方向指示レバー	134
ワット数.....	381
タイヤ.....	280
空気圧.....	283, 380
交換	334
締め付けトルク	345
スペアタイヤ	335
チェーン.....	200
点検	280
パンクしたときは	334
冬用タイヤ	200
ホイールサイズ.....	380
ローテーション	
(位置交換)	280
タイヤが空まわりする	
(スタックした).....	357
タイヤチェーン.....	200
タコグラフ	255
タコメーター	54

ち

チェーン (タイヤチェーン)	200
駐車ブレーキ	
(パーキングブレーキ)	135
操作	135
未解除走行時警告ブザー	327
メンテナンスデータ	379

つ

ツール (工具)	338
----------------	-----

て

ディファレンシャル	378
手入れ.....	262, 265
外装	262
シートベルト	265
内装	265
ホイール・	
ホイールキャップ	262
レーダーセンサー	161
テールランプ (尾灯)	141
電球 (バルブ) の交換.....	302
ランプスイッチ	141
ワット数	381
デフォッガー	
(リヤウインドウ	
デフォッガー)	216, 227
電球 (バルブ)	
交換要領 (外装バルブ)	291
ワット数	381
点検基準値	
(メンテナンスデータ).....	374
電動格納式補助ステップ.....	80
電動リモコンミラー	108

と

ドア

折戸式ドア	82
観音扉ドア	93
グライド式ドア	70
センタードア開放警告灯	325
ドアカーテシランプ	235
ドアガラス	113
ドアロックスイッチ	68
非常ドア	318
非常ドア開放警告灯	326
フロントドア	68
ロックボタン	71
ロックレバー	68, 93

ドアミラー（アウターミラー）

操作	107
格納のしかた	109
ミラーヒーター	216, 227

盗難防止装置

エンジンイモビライザー システム	47
---------------------------	----

時計

時刻を設定する	246
表示	246

Toyota Safety Sense..... 159

AHB（オートマチック ハイビーム）	145
LDA（レーンディパーチャー アラート）	178
発進遅れ告知機能	183
PCS（プリクラッシュ セーフティ）	167

ドライバー異常時対応

システム	360
------------	-----

トラクションコントロール

（TRC）	194
トランク	89
トランクランプ	89
トランスミッション オートマチック トランスミッション	131
メンテナンスデータ	378
トリップメーター	61

な

内装

収納装備	237
手入れ	265

に

2 段インナーミラー	111
荷物 積むときの注意	126

ぬ

ぬかるみにはまった （スタック）	357
---------------------------	-----

ね

燃料	374
ガソリンスタンドでの情報	408
給油	155
種類	374
燃料・水分離器の排水	306
燃料残量警告灯	326
容量	374
燃料・水分離器 燃料・水分離器の排水	306
燃料計	54

は

パーキングブレーキ	135
操作	135
冬季の注意	201
ブレーキ警告灯	325
未解除走行時警告ブザー	327
メンテナンスデータ	379
パーソナルランプ	236
排気ガス	46
排出ガス浄化装置	136
排出ガス浄化装置堆積	
モニター	138
ハイビーム（ヘッドランプ）	141
オートマチックハイビーム	145
電球（バルブ）の交換	294
ランプスイッチ	141
ワット数	381
ハイマウントストップランプ	
電球（バルブ）の交換	303
バキューム警告灯	325
ハザードランプ	
（非常点滅灯）	309
スイッチ	309
電球（バルブ）	
の交換	300, 301, 302
ワット数	381
発炎筒	310
バックアップランプ（後退灯）	
電球（バルブ）の交換	302
ワット数	381
バックドア（観音扉ドア）	93
折りたたみ式バックステップ	95
バックドアハンドル	94
非常ドア	318
発進遅れ告知機能	183

バッテリー

搭載位置	351
バッテリーがあがった	351

バルブ（電球）

交換要領（外装のバルブ）	291
ワット数	381

パワーステアリング

パワーステアリング	
フルード	378

パンクした

番号灯（ライセンスプレート

ランプ）	141
電球（バルブ）の交換	303
ランプスイッチ	141
ワット数	381

ハンドル

（ステアリングホイール）	103
位置調整	103

ひ

ビークルスタビリティ

コントロール（VSC）	194
-------------------	-----

ヒーター

オートエアコン	225
パワーヒーター	233
フロントヒーター	
（マニュアルエアコン）	214
ミラーヒーター	216, 227
リヤヒーター	223

非常点滅灯

（ハザードランプ）	309
スイッチ	309
電球（バルブ）	
の交換	300, 301, 302
ワット数	381

非常ドア	318
尾灯（テールランプ）	141
電球（バルブ）の交換	302
ランプスイッチ	141
ワット数	381
ヒューズ	287
表示灯	52

ふ

V リブドベルト	
メンテナンスデータ	379
ブースターケーブルの	
つなぎ方	351
フォグランプ	149
スイッチ	149
電球（バルブ）の交換	298
ワット数	381
ブザー	
AHB（オートマチック	
ハイビーム）	327
LDA（レーンデパーチャー	
アラート）	327
クリアランスソナー	327
シートベルト非着用警告	326
車線逸脱警報（LDA）	178
衝突警報（PCS）	168
パーキングブレーキ未解除	
走行時警告	325
センタードア開放警告	325
非常ドア開放	326
ふらつき警報（LDA）	179
ブレーキ警告	325
リバース警告	132

フック	
けん引フック	323
フロアマット固定フック	30
ロープフック	242
フューエルメーター（燃料計）	54
フューエルリッド（給油口）	155
給油のしかた	155
冬の前の準備（寒冷時の運転）	200
冬用タイヤ	200
プリクラッシュセーフティ	
（PCS）	167
PCS 警告灯	326
ブレーキ	
パーキングブレーキ	135
ブレーキ警告灯	325
メンテナンスデータ	379
ブレーキアシスト	194
ABS 警告灯	325
ブレーキ付近から	
キーキー音が聞こえる	121
ブレーキフルード	379
フロアマット	30
フロントアンダーミラー	111
フロントシート	98
正しい運転姿勢	32
調整	98
手入れ	265
ヘッドレスト	101
フロント方向指示灯	134
電球（バルブ）の交換	300
方向指示レバー	134
ワット数	381
フロントルームランプ	236

へ

平均車速	61
平均燃費	60
ヘッドランプ	141
オートマチックハイビーム	145
手動光軸調整ダイヤル	143
電球（バルブ）の 交換	294, 296
ランプ消し忘れ防止機能	144
ランプスイッチ	141
ヘッドレスト	101

ほ

ホイール	
交換（タイヤ）	334
メンテナンスデータ	380
ホイールナットレンチ	338
方向指示灯	134
電球（バルブ） の交換	300, 301, 302
方向指示レバー	134
ワット数	381
ホーン（警音器）	103
保護者用シート	100
保証	11
補助シート	99
補助ミラー	111
ボトルホルダー	239

ま

マイク／アイクアンプ	207
マニュアルエアコン	
クーラー	220
フロントヒーター	214
リヤヒーター	223

マルチインフォメーション

ディスプレイ	58
運転支援機能情報表示	60
警告メッセージ	329
車両情報表示	61
設定	61
走行情報表示	60
メーター操作スイッチ	60

み

ミラー

アウターミラー	107
インナーミラー	105
ドアミラー	107
補助ミラー	111
ミラーヒーター	216, 227

め

メーター（計器類）	54
警告灯	51, 325
警告メッセージ	329
照度調整	57
表示灯	52
マルチ インフォメーション ディスプレイ	58
メーター操作スイッチ	60
メンテナンスデータ	374

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能	383
床洗い用水抜き穴	247
雪道ですべって動けない （スタックした）	357
油脂類	374

よ

予熱表示灯 128

ら

ライセンスプレートランプ

(番号灯)

電球 (バルブ) の交換 303

ランプスイッチ 141

ワット数 381

ラゲージルームセパレーター 243

ラジエーター

オーバーヒート 354

メンテナンスデータ 376

ランプ

AHB (オートマチック

ハイビーム) 145

室内灯 235

ステップランプ 75, 85

電球 (バルブ) の交換 291

パーソナルランプ 236

非常点滅灯

(ハザードランプ) 309

フォグランプ 149

ヘッドランプ (前照灯) 141

方向指示灯 (ターンシグナル

ランプ/ウインカー) 134

ライトセンサー 144

ランプ消し忘れ防止機能 144

ルームランプ 236

ワット数 381

ランプ消し忘れ防止機能 144

り

リヤアンダーミラー 111

リヤウインドウ

デフォグガースイッチ ... 216, 227

リヤクーラー 220

リヤシート 99

リヤヒーター 223

リヤフォグランプ 150

スイッチ 150

電球 (バルブ) の交換 303

リヤ方向指示灯 134

電球 (バルブ) の交換 302

方向指示レバー 134

ワット数 381

る

ルームミラー

(インナーミラー) 105

ルームランプ 236

れ

レーンディパーチャー

アラート (LDA) 178

冷却水 376

水温計 54

冬の前の準備 200

メンテナンスデータ 376

冷却装置 (ラジエーター) 376

オーバーヒート 354

メンテナンスデータ 376

冷蔵庫 248

霜取り 266

手入れ 265

レバー

シフト 131

方向指示 134

ロック (ドア) 68, 93

ろ

ロープフック 242

ロック

折戸式ドア 82

観音扉ドア 93

グライド式ドア 70

シフトロック 132

バックドア 93

フロントドア 68

わ

ワイパー & ウォッシャー

ウォッシャー液の補充..... 278

フロント..... 151

リヤ 153

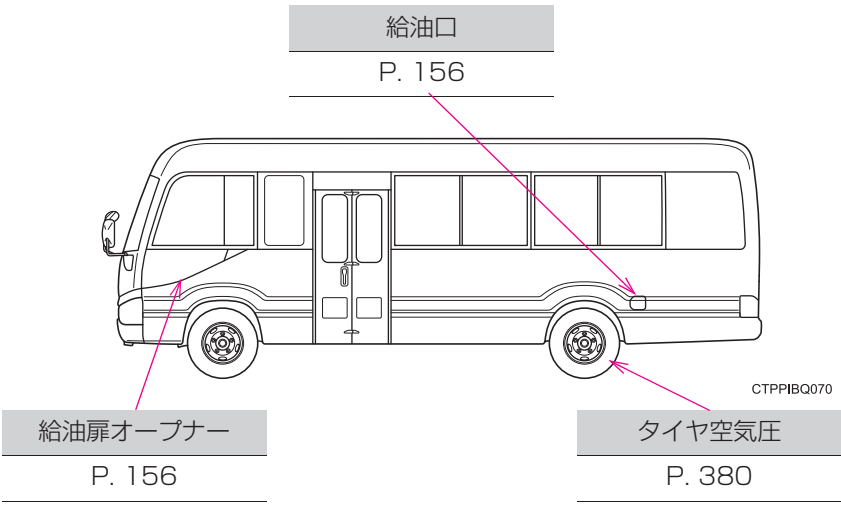
ワックス 262

ワット数 381

輪止め 338

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要な項目をまとめてあります。



燃料の容量（参考値）	95L	
燃料の種類	超低硫黄軽油（S10ppm 以下）	P. 155, 374
タイヤが冷えている ときの空気圧		P. 380
エンジンオイル容量 （参考値）		P. 374
エンジンオイルの種類		P. 374

お車の取り扱い方法、故障、修理に関するご相談については、お買い上げ
いただきましたトヨタ販売店、または最寄りのトヨタ販売店へお問合せください。
また、リコール情報については、右記の QR コードからご確認ください。

販売店検索



リコール等情報



トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号



お電話によるお問い合わせ



全国共通・フリーコール

0800-700-7700



WEBページからのお問い合わせ



インターネットフォーム
によるお問い合わせ



チャットによる
お問い合わせ



手話通訳サービス
によるお問い合わせ

各お問い合わせサービスのご利用・受付時間など詳細につきましては右記の QR コードからご確認ください。
「個人情報保護方針」については、https://toyota.jp/privacy_statement/ にて掲載しております。



- ご愛用車のお問い合わせは、**自動車検査証（車検証）** をご用意いただくと、スムーズな対応が可能です。
- QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

トヨタ自動車株式会社
<https://toyota.jp>

